

# 脇田亀ヶ原遺跡

桜ヶ丘団地 B－4～6区ほか  
(桜ヶ丘ビュータウン造成工事)

2014年3月

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター  
(株)西日本地産



1 調査区完掘状況（北から）



2 調査区完掘状況（西から）





3 3層スクレイパー出土状況（東から）



4 6層細石刃核出土状況（北から）



## 序 文

鹿児島大学キャンパス（鹿大構内遺跡・脇田亀ヶ原遺跡）には、後期旧石器時代から近代までの、貴重な遺跡が包蔵されていることが、鹿児島大学埋蔵文化財調査センターの発掘調査によって明らかにされています。その成果は、これまでに『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』Vol.1～26、『鹿児島大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書』第1～7集、平成24年にセンターに改称されてからは、『鹿児島大学埋蔵文化財調査センター年報』Vol.27、『鹿児島大学埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書』第8集として、逐次報告されてきました。

今回は、鹿児島大学埋蔵文化財調査センターの平成24年度の発掘調査成果として『鹿児島大学埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書』第10集を刊行します。

この調査は、脇田亀ヶ原遺跡（桜ヶ丘団地）で行なわれており、調査センターが設立されてから初めての民間－民間契約に基づく発掘調査となりました。主要な時代は後期旧石器時代～縄文時代草創期、縄文時代早期ごろです。小さな調査区ではありますが、脇田亀ヶ原遺跡では初めての出土となるマイクロコアが出土しており、細石刃も一定量得られました。また、縄文時代早期では、これもまた同遺跡で初めての出土となる撚糸文系土器も出土するなどの成果があがりました。シラス台地崖すれすれの場所であり、かなり危険な場所ではありましたが、(株)西日本地産ならびに新和技術コンサルタント(株)のご尽力によって、無事、怪我もなく終了することができました。記して感謝申し上げます。

現在、キャンパス内では、多くの建物の建築や周辺整備などが行われ、それに先立って必要な埋蔵文化財調査が行われています。学内施設整備が円滑に進むよう、埋蔵文化財調査センターは全力を尽くしております。

私は2001年以来、室長、センター長を務めてまいりましたが、本年3月をもちまして定年退職いたします。これまでのご厚誼に御礼申し上げますとともに、大学キャンパス内から出土する貴重な大学の財産、県民・国民の財産としての埋蔵文化財の調査および研究を行うための体制の実現について、重ねて全学的なご理解、ご支援をお願い申し上げます。

平成26年3月

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター長  
鹿児島大学埋蔵文化財調査委員長

新田 栄治



## 例 言

- 1 本報告は、鹿児島大学埋蔵文化財調査センターが主体となり、平成 24（2012）年度に行った脇田亀ヶ原遺跡：桜ヶ丘団地の発掘調査報告書である。
- 2 調査の体制は、第Ⅱ章の通り。
- 3 本書の作成にあたっては、新和技術コンサルタント㈱が主体として作成し、埋蔵文化財調査センターがこれを監修した。担当者は以下の通りである。  
遺物実測：鎌田浩平・和田るみ子・上川路直光  
遺物写真：鎌田  
製図：賦句博隆・鎌田・中村卓也  
トレース：鎌田・賦句・松本益幸・中村  
作表：鎌田・和田  
執筆：第Ⅰ章・第Ⅱ章・第Ⅴ章 新里貴之、第Ⅲ章・第Ⅳ章 鎌田  
編集：鎌田  
監修：新里
- 4 本報告の出土遺物について、縄文時代の遺物については黒川忠広氏（公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター）、近世以降の陶磁器については渡辺芳郎氏（鹿児島大学法文学部）、石器石材や礫群については大木公彦氏（鹿児島大学名誉教授）のご指導・ご教示を賜った。石器のチェックに関しては、寒川朋枝（鹿児島大学埋蔵文化財調査センター）が行なった。
- 5 発掘調査による遺物の保管は、埋蔵文化財調査センターの管理のもと、各学部、部局が収蔵している。また、図面・写真などの資料は埋蔵文化財調査センターに保管している。

## 凡 例

- 1 昭和 60 年 6 月 1 日の埋蔵文化財調査室の設置を機として、鹿児島大学構内におけるこれからの埋蔵文化財調査に便であるように、鹿児島大学構内座標を鹿大構内遺跡（郡元団地）と脇田亀ヶ原遺跡（桜ヶ丘団地：旧宇宿団地）とに設定した。各遺跡中の位置については、そのグリッド名称で記される。設置基準は、以下の通りである。
  - (1) 郡元団地では、国土座標第 2 座標系(X=-158.200, Y=-42.400)を基点として一辺 50m の方形地区割りを行なった。
  - (2) 桜ヶ丘団地では、国土座標第 2 座標系 (X=-161.600, Y=-44.400) を基点として一辺 50m の方形地区割りを行なった (Fig.2 参照)。
- 2 遺跡内の遺構配置図などは、今後の調査・研究のため、世界測地系で表されている。
- 3 本報告書におけるレベル高は、すべて海拔を表し、方位は真北方向を示す。
- 4 本書で使用した遺構の表示記号は、以下の通りである。  
SD：溝状遺構 SK：土坑状遺構 P：ピット OT：層位横転
- 5 層・遺物の色調は『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）を使用した。この色調に当てはまらないものについては「～に類似」、あるいは一般的な色調で表記した。
- 6 遺物に関しては観察表を作成した。その標記中、復元によるサイズは、（ ）をつけた。
- 7 本文中の遺物番号は、挿図、図版、遺物観察表と一致している。
- 8 挿図・表・写真は通し番号を付す。



# 抄 録

シリーズ名	鹿児島大学埋蔵文化財調査センター調査報告書 第10集							
ふりがな	わきたかめがはらいせき							
書名	脇田亀ヶ原遺跡							
監修者名	新里貴之							
監修機関	鹿児島大学埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒890-8580 鹿児島市郡元一丁目21-24							
	Tel 099-285-7270 Fax 099-285-7271							
編集者名	鎌田浩平							
編集機関	新和技術コンサルタント(株)							
所在地	〒890-0008 鹿児島市伊敷四丁目12番13号							
	Tel 099-218-3633 Fax 099-228-7911							
発行年月日	2014年3月							
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査起因
		市町村	遺構番号					
脇田亀ヶ原遺跡	桜ヶ丘8丁目35-1・1055-1・1054・1045	4620	1-114	31.546905°	130.52981°	2012年10月15日～2013年1月26日	640㎡	桜ヶ丘ビュータウン宅地造成工事
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
脇田亀ヶ原遺跡		後期旧石器時代		縄文時代：土坑・ピット群・層位横転 弥生時代：溝		細石刃核・細石刃・スクレイパー・打製石鏃・磨石・敲石・砥石・軽石製加工品・縄文土器・弥生土器・須恵器・土師器・近世陶磁器・青磁・銭貨		
		縄文時代早期						
		縄文時代晩期						
		弥生時代						
		古墳時代						
		古代						
		中世						
		近世						

# 目 次

巻頭カラー写真	i
序 文	iii
例 言	iv
凡 例	v
抄 録	vi
第Ⅰ章 脇田亀ヶ原遺跡の概要	1
第Ⅱ章 調査経過	4
第Ⅲ章 層位	7
第Ⅳ章 各層の成果	17
第Ⅰ節 1層の成果	17
(1) 表採・攪乱・1層出土遺物	17
(2) 2層上面検出遺構	17
(3) 2層上面検出遺構内出土遺物	23
第Ⅱ節 2層の成果	23
(1) 2層出土遺物	23
(2) 3層上面検出遺構	23
第Ⅲ節 3層の成果	31
(1) 3層出土遺物	31
(2) 層位横転内3層出土遺物	31
(3) 3層中検出土坑状遺構と出土遺物	31
(4) 4層上面検出層位横転	31
第Ⅳ節 4層の成果	46
(1) 4層出土遺物	46
(2) 5層上面検出遺構と層位横転	46
(3) 5層上面検出遺構内出土遺物	46
第Ⅴ節 3・4層出土礫について	46
(1) 出土礫について	46
(2) 出土礫の分類	46
(3) 出土礫の検討	57
第Ⅵ節 6層の成果	57
(1) 6層出土遺物	57
第Ⅴ章 総括	70



## 挿 図 目 次

Fig.1	脇田亀ヶ原遺跡の位置	2	Fig.23	3層上面検出遺構(2)	35
Fig.2	脇田亀ヶ原遺跡	3	Fig.24	3層上面検出遺構(3)	36
Fig.3	調査区の配置	6	Fig.25	3層上面検出遺構(4)	37
Fig.4	層位断面測量位置図	8	Fig.26	3層上面検出遺構(5)	38
Fig.5	H3区南壁・G3～H3区西壁・G2 ～3区北壁層位断面図	9	Fig.27	3層上面検出遺構(6)	39
Fig.6	A2～G2区西壁層位断面図(1)	10	Fig.28	土坑状遺構51(SK51)	42
Fig.7	A2～G2区西壁層位断面図(2)	11	Fig.29	3層遺物分布図	43
Fig.8	A2～B1区北壁層位断面図	12	Fig.30	層位横転内3層・3層中検出土 坑状遺構内出土遺物	44
Fig.9	B1～C1区東壁層位断面図	13	Fig.31	4層上面検出層位横転配置図	47
Fig.10	D1～G2区東壁層位断面図	14	Fig.32	4層出土遺物分布図	48
Fig.11	F2区南壁層位断面図	15	Fig.33	4層出土遺物	49
Fig.12	小グリッドd区内トレンチ壁面 層位断面図	16	Fig.34	5層上面検出遺構配置図(1)	50
Fig.13	表層・攪乱・1層出土遺物	18	Fig.35	5層上面検出遺構配置図(2)	51
Fig.14	1層出土遺物	20	Fig.36	5層上面検出遺構(1)	52
Fig.15	2層上面検出遺構配置図	22	Fig.37	5層上面検出遺構(2)	53
Fig.16	2層上面検出遺構(1)	24	Fig.38	5層上面検出層位横転断面図	54
Fig.17	2層上面検出遺構(2)	25	Fig.39	3・4層出土礫分布図及び遺構内 外構成比率グラフ	56
Fig.18	2層上面検出遺構内・2層・3層 出土遺物	28	Fig.40	6層小グリッド配置図	58
Fig.19	2層出土遺物分布図	30	Fig.41	6層小グリッド層位断面図	59
Fig.20	3層上面検出遺構配置図(1)	32	Fig.42	6層遺物分布図	60
Fig.21	3層上面検出遺構配置図(2)	33	Fig.43	6層小グリッドf区遺物出土状況	61
Fig.22	3層上面検出遺構(1)	34	Fig.44	6層出土遺物	62

## 表 目 次

Tab.1	遺構一覧(1)	63	Tab.5	土器・陶磁器観察表(2)	67
Tab.2	遺構一覧(2)	64	Tab.6	石器観察表	68
Tab.3	遺構一覧(3)	65	Tab.7	層別遺物出土数	69
Tab.4	土器・陶磁器観察表(1)	66			

## 図 版 目 次

PL.1	調査区遠景	……………5	PL.14	3層上面検出遺構断面(1)	……………34
PL.2	調査区から桜島方向(東)への 眺望	……………5	PL.15	3層上面検出遺構断面(2)	……………35
PL.3	調査区北・東壁	……………7	PL.16	3層上面検出遺構	……………39
PL.4	壁面層位(1)	……………13	PL.17	3層上面及び3層中検出遺構	……………40
PL.5	壁面層位(2)	……………15	PL.18	3層上面検出遺構及び遺物出土 状況	……………41
PL.6	小グリッドd区内トレンチ壁面	……………16	PL.19	土坑状遺構51(SK51)	……………42
PL.7	表採・攪乱・1層出土遺物	……………19	PL.20	層位横転内3層・3層中検出 土坑状遺構内出土遺物	……………45
PL.8	1層出土遺物	……………21	PL.21	4層出土遺物	……………49
PL.9	2層上面検出遺構土層断面(1)	……………24	PL.22	4層上面検出状況	……………49
PL.10	2層上面検出遺構土層断面(2) 及び完掘状況	……………25	PL.23	層位横転トレンチ壁面	……………54
PL.11	2層上面検出遺構(1)	……………26	PL.24	5層上面検出状況及び完掘状況	……………55
PL.12	2層上面検出遺構(2)	……………27	PL.25	6層小グリッド壁面	……………59
PL.13	2層上面検出遺構内・2層・ 3層出土遺物	……………29	PL.26	6層出土遺物	……………62
			PL.27	6層遺物出土状況	……………62



## 第 I 章 脇田亀ヶ原遺跡の概要

脇田亀ヶ原遺跡（桜ヶ丘団地）は、脇田川と永田川に挟まれたシラス台地上にあり、鹿児島市南部の錦江湾をのぞむ標高約 70m 前後の亀ヶ原台地東端部に位置する（Fig.1）。キャンパス内では、いくつかの火山灰が確認できる。始良カルデラ起源の始良丹沢火山灰（約 30000 年前）は台地の基盤層として数十メートル堆積し、その上部に桜島起源の薩摩火山灰（約 13000 年前）が 1.5 m 堆積している。そして喜界カルデラ起源のアカホヤ火山灰（約 7300 年前）がさらに上部に位置し、その間に、後期旧石器時代～縄文時代草創期、縄文時代早期、縄文時代後期～現代にいたる遺物包含層が存在している。

昭和 45（1970）～46（1971）年に中間研志・本田道輝両氏により遺物が採集され、遺跡が桜ヶ丘キャンパス全域に及んでいることが確認された。その際には縄文時代早期（前平式・塞ノ神式）・前期（曾畑式）・後期（指宿式）、弥生時代早期（刻目突帯文土器）・前期（高橋式）・中期（入来Ⅰ式・入来Ⅱ式）の土器群だけでなく、石器類や中国銭（洪武通宝）も得られている。当時はかなりの数で遺物が採集されたという（Fig.2：A～H 地点）。採集遺物の報告者である本田道輝氏によれば、A 地点では弥生時代中期、B 地点で縄文前期と弥生前期、C 地点で縄文早期と弥生中期、D 地点で縄文早期、E 地点では時期不明土器片、G 地点で縄文早期、H 地点は脇田亀ヶ原遺跡範囲外ではあるが最も多くの遺物が得られ、縄文後期、弥生前・中期、石斧、石鏃、磨石、古銭が得られている。

昭和 60（1985）年、埋蔵文化財調査室が設置され、大学キャンパス内の遺跡を発掘調査するようになり、本田氏の採集した遺物による周知の時期だけでなく、後期旧石器時代～近世に及ぶ長期間の遺構・遺物の実態が詳細に知られるようになってきたが、既に失われてしまった時代もあるとみられる（Fig.2）。

後期旧石器時代～縄文時代草創期の遺構、落し穴などは 2000-2 や 2009-4 地点で確認されている。また、ナイフ形石器、細石刃、打製石鏃、スクレイパー、土器などは、89-2・95-6・2000-2・2007-1・2008-1・2009-4 地点などから出土している。

縄文時代早期はほぼ全調査地点で確認されており、脇田亀ヶ原遺跡を代表する時代となっている。前平式土器を主体として、それよりも古い岩本式（94-2・2008-1）のほか、石坂式（2007-1）・押形文土器（2007-3）などもわずかながら確認されており、それに伴う石器類（石斧・敲石・磨石・石皿・石匙）も豊富である。珍しいものではメノウ原石がある。94-2 地点では当該期の住居跡も 1 基確認されている。

弥生時代前期～中期前半には円形竪穴住居跡群や貯蔵穴群が確認され、集落跡と考えられ、碧玉製管玉なども出土している（87-3・94-1）。弥生時代前期の遺構検出が比較的少ない鹿児島県の状況下では、貴重な遺跡のひとつとなっている。特筆すべきものとしては、住居廃絶の土器祭祀が行われたと考えられる前期住居跡（94-1）である。

弥生時代終末期～古墳時代前期にも住居跡が確認されており（94-1・2001-D）、石製紡錘車や鉄器片も得られた。

古墳時代後期～近世にかけては、明確な遺構などが確認されておらず、おそらくキャンパス造成時にそのほとんどが失われたものとみられる。そのため主体となるエリアは不明であるが、遺物は一定量得られており、その分布はキャンパス全域に及ぶものと考えられる。

### 参考文献

- 鹿児島大学埋蔵文化財調査室（編） 1986『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』Ⅰ
- 鹿児島大学埋蔵文化財調査室（編） 1986『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』Ⅲ
- 鹿児島大学埋蔵文化財調査室（編） 1986『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』Ⅴ
- 鹿児島大学埋蔵文化財調査室（編） 1986『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』14
- 鹿児島大学埋蔵文化財調査室（編） 1986『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』16
- 鹿児島大学埋蔵文化財調査室（編） 2012『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』鹿児島大学埋蔵文化財調査室調査報告書第 7 集
- 鹿児島大学埋蔵文化財調査室（編） 2013『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』鹿児島大学埋蔵文化財調査室調査報告書第 8 集





Fig.1 脇田亀ヶ原遺跡の位置 S=1/25000

国土地理院発行 5万分の1地形図：鹿児島島を改編して作成



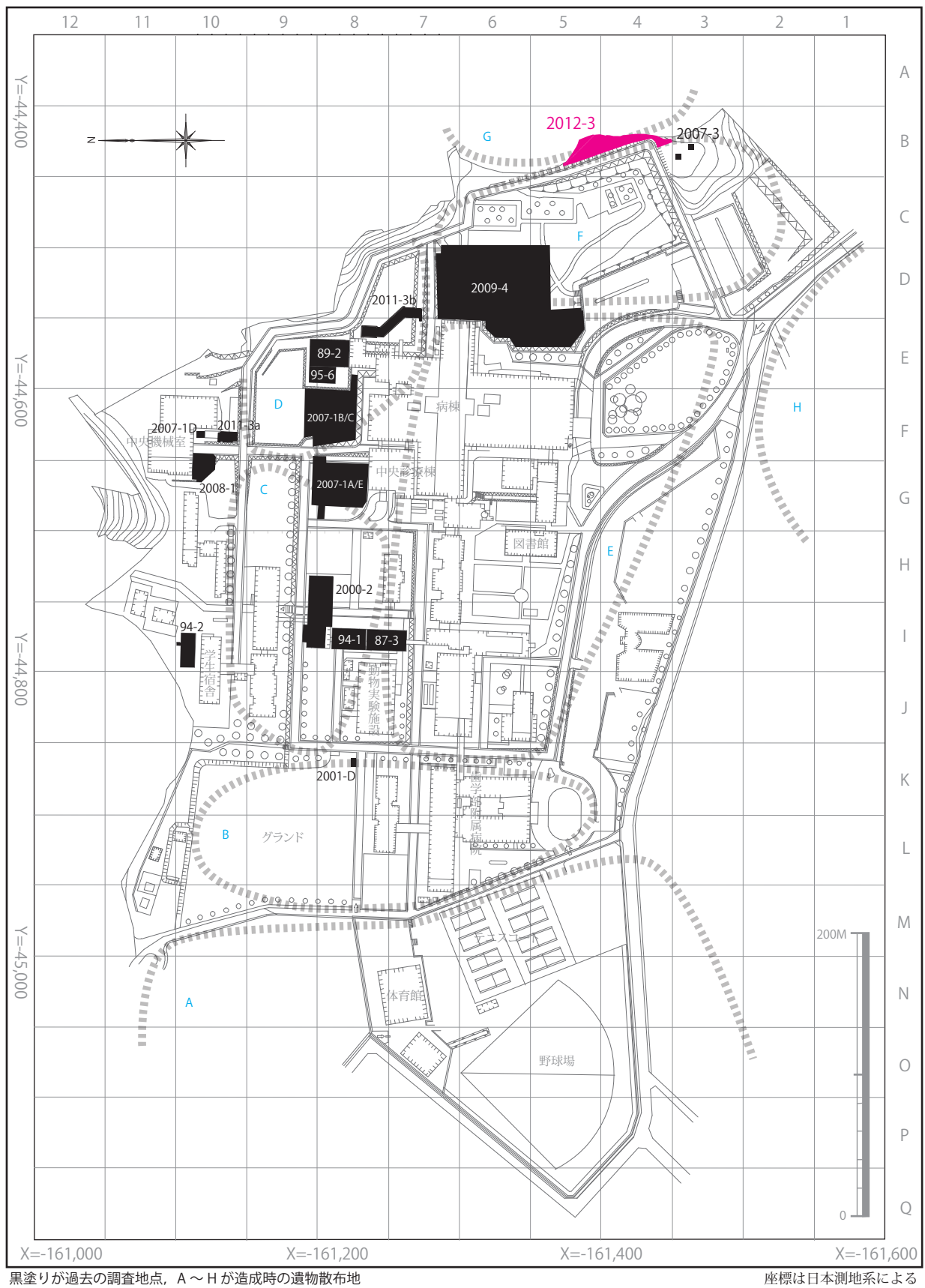


Fig.2 脇田亀ヶ原遺跡（鹿児島大学桜ヶ丘団地） S=1/4000

## 第Ⅱ章 調査経過

### 調査にいたる経緯

平成 20（2008）年度、（株）西日本地産より鹿児島大学埋蔵文化財調査室（当時。平成 24 年度より埋蔵文化財調査センターと改称）に対して、桜ヶ丘ビュータウン造成工事事業に関して以下のような相談がよせられた。（株）ガイアテック所有地において宅地造成工事を行うに伴い、鹿児島大学桜ヶ丘団地の土地の一部（原野）（桜ヶ丘八丁目 35-1・1055-1・1054・1045）を、工事の都合上削平させてほしいとの要望であった。その後、鹿児島市教育委員会との協議により、鹿児島市教育委員会が（株）ガイアテック所有地を、埋蔵文化財調査室が鹿児島大学桜ヶ丘団地内の工事該当箇所を担当し、日程を合わせて発掘調査することを取り決めた。しかし、その後は工事が進捗せず、事実上棚上げとなっていた。

平成 23（2011）年度末、（株）西日本地産より、鹿児島市教育委員会と鹿児島大学埋蔵文化財調査室に工事再開の相談が改めてよせられた。それによれば、消費税増税法案が国会で成立するため、平成 24（2012）年度内に発掘調査を済ませ、増税前に宅地建設・売買を行いたいとのことであった。しかし、鹿児島市教育委員会では既に平成 24（2012）年度の開発事業に伴う発掘調査の年間計画が立てられており、同発掘調査に対応できない旨の回答であった。そのため（株）西日本地産と鹿児島市教育委員会より、鹿児島大学埋蔵文化財調査室が上記地点の全てを調査できないかとの打診があった。

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター規則によって本センターの業務は鹿児島大学内の調査に限定されているため、学外の場合を業務で調査するには別途手続きを必要とする。その結果、本センターの通常業務に支障がない範囲内で行なうこと、（株）西日本地産より研究費が提供されることを条件に、同発掘調査に協力することを大学より許可された。

その後、調査体制として、鹿児島大学埋蔵文化財調査センター職員を指導員として派遣すること、労務・安全管理技士および調査員を新和技術コンサルタント（株）が担当することに決定し、調査段階において（株）西日本地産と工事担当者である（株）植村組、本学桜ヶ丘団地管理課施設係とともに、四者協議を重ねて調査に入る準備を整えた。

また、協議により、調査を実施するに当たっては、鹿児島市教育委員会が二週間に一度程度のペースで現場を訪問し、指導・助言を行なうこととなった。

報告書作成に関しては、平成 25（2013）年 7 月、（株）西日本地産と新和技術コンサルタント（株）で契約が結ばれ、新和技術コンサルタント（株）が作成を担当し、鹿児島大学埋蔵文化財調査センターがこれを補佐、監修することとなった。

### 調査体制

調査は、以下の体制で行なった。

所 在 地 桜ヶ丘 8 丁目 35-1・1055-1・1054・1045

調査 起因 桜ヶ丘ビュータウン宅地造成工事

事業主体者：株式会社西日本地産

発掘主体者：鹿児島大学埋蔵文化財調査センター 教授 新田栄治

発掘担当者：鹿児島大学埋蔵文化財調査センター 助教 新里貴之

管理 技士：新和技術コンサルタント株式会社 中村卓也

調 査 員：新和技術コンサルタント株式会社 松本益幸

作 業 員：今釜 覚・内大久保たけ子・大川畑道夫・大山佳恵子・大山和代・鹿倉征治・川越まゆみ・川留辰雄・川島 勲・川畑ケイ子・川俣友秀・神田正國・北村浩士・君野正和・桐木平雅代・久志目誠・蔵本公一朗・黒岩克司・坂崎靖夫・芝田恵子・下田まき子・高山重光・永田 楓・永田好恵・日高幸志・寶代善嗣・本田史比古・松尾隆明・松田善行・松本敏子・水迫久夫・安永政一・行野良子・吉留 守・吉留美智子・渡邊悦子（五十音順）

調査 期間：平成 24 年 10 月 15 日～平成 25 年 1 月 26 日

調査 面積：約 640m<sup>2</sup>

### 調査経過

調査区は、西接する構内周回道路を基準として、並行した 10m グリットを掘削範囲が入るように設置し、東から西へ 1～3、北から南へ A～H とした(Fig.3)。基本的に遺物は光波測量器による点上げを行なったが、一括取上げの場合、グリッドごとになっている。調査区は最深部で、地表から約 7m の深さまで掘削しなければならないため、部分的に段掘りをして安全性を確保しなければならないが、南区（G・H-2・3 グリッド付近）とした部分は、段掘りをするると掘削面積が狭小となり調査が不可能であるため、5 層以下の掘削調査を断念した。

調査は、調査地点が原野であったため、樹木の伐採から開始した。表土を重機で掘削したが、樹木は深く根をおろしており、周辺を掘削しながら樹根を除去する作業を繰り返し行なった。2～4 層は縄文時代早期～古代の遺物包含層であるが、崖部であるためか、遺構・遺物の検出・出土は少なかった。縄文時代の遺物では黒曜石製のスクレイパーや石鏃などが出土している。縄文時代早期層検出段階で、下位のサツマ火山灰とチョコ層の不整合面のデータをとるため、地中レーダー探査を実施した。無遺物層であるサツマ火山灰は重機による掘削を行ない、チョコ層は再び人力掘削した。チョコ層では脇田亀ヶ原遺跡ではこれまで未確認であった黒曜石製の石核が出土した。チョコ層は最後に一箇所の土層確認のための深掘りを行なってから調査を終了した。遺構・遺物・土層は写真撮影と測量記録を各土層で行なっている。

10/15～10/20 樹木伐採

10/22～10/26 表土掘削（重機）

10/29 樹根除去：人力による試し掘り

11/1～11/15 樹根除去・表土除去：人力掘削

11/15 表土除去後写真

11/15・16 2 層上面（場所によっては 3 層上面）遺構（1b 層埋土）掘削

11/16～29 2 層掘削

11/29 3 層（アカホヤ）上面検出写真

11/30～12/4 3 層上面遺構（2 層埋土）掘削

12/3 野邊氏（鹿児島市教委）来跡

12/4～18 3 層掘削

12/18 4 層（早期層）上面検出写真

12/18 地中レーダー探査 中村（鹿大埋文）

12/18～12/26 4 層掘削

12/26 5 層（サツマ）上面検出写真

12/27～1/5 5 層上面遺構（4 層埋土・横転部）掘削

1/5 5 層上面遺構完掘写真

1/7～9 5 層重機掘削

1/8 森脇・永迫両氏来跡（鹿児島大学）

1/9 野邊・中村両氏（鹿児島市教委）来跡

1/10 6 層上面検出写真

1/11～26 6 層掘削

1/26 完掘写真・調査終了

1/28 撤収作業

1/29 森脇・永迫両氏来跡（鹿児島大学）

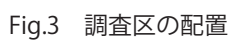


PL.1 調査区遠景（東・シラス台地下から）



PL.2 調査区から桜島方向（東）への眺望





### 第Ⅲ章 層位

基本土層として 1 ～ 7 層までを確認した。遺物包含層は 1 ～ 4・6 層である。以下に基本層序を記す。基本層序に貫入する層については、各地点の土層図に記してある。

1 層：近現代の畑・造成土で、黒色砂質シルトを基調とする。中近世・古代・弥生・縄文時代の遺物が出土した。

2 層：縄文時代後期～古代の遺物包含層。2a 層と 2b 層とに分けられる。

2a 層：黒色 10YR2/1 シルト。しまりは弱い。

2b 層：黒褐色 10YR3/2 シルト。しまりは弱い。

3 層：アカホヤ火山灰二次堆積層。3a 層と 3b 層とに分けられる。層中からは縄文早期の変形撚糸文土器や石器などが出土している。

3a 層：黄褐色 10YR5/6 砂質シルト。堅くしまる。

3b 層：にぶい黄褐色 10YR4/3 砂質シルト。0.5cm 大のパミスを含み、堅くしまる。

4 層：縄文時代早期の包含層。黒褐色 10YR2/2 砂質シルトを基調とし、0.5 ～ 2cm 大のパミスが含まれる。土器・石器が出土しているが、総量は少ない。

5 層：薩摩火山灰層。無遺物層。平均して約 1.5m の厚みで堆積している。5a ～ 5e 層に分けられる。

5a 層：黄褐色 10YR8/6 粗砂をベースに、0.5 ～ 5cm 大のパミスがまじる。脆い。

5b 層：橙色 7.5YR6/8 シルトに 0.5 ～ 10cm 大のパミスがまじる。堅い。

5c 層：明黄褐色 10YR6/8 粗砂やシルトが互層をなし、パミスがまじる。

5d 層：橙色 7.5YR6/6 シルトに 0.1 ～ 0.5cm 大のパミスがまじる。かなり堅い。

5e 層：橙色 7.5YR6/8 粗砂ベースに、0.5 ～ 5cm 大のパミスがまじる。かなり脆い。

6 層：暗茶褐色粘土層。いわゆる「チョコ層」であり、6a ～ 6d 層に分けられる。後期旧石器時代末の石器などが出土している。

6a 層：黒褐色 10YR3/2 シルト。粘性はやや強く、堅い。

6b 層：暗褐色 10YR3/3 シルト。粘性は強い。

6c 層：暗褐色 10YR3/4 シルト。粘性はかなり強く、6 層中で最も水分を多く含む。

6d 層：黒褐色 10YR2/3 シルト。粘性は強い。

7 層：始良火山灰層（AT）。今回の調査では 2 × 2m のトレンチ内のみで確認した。

7a 層：褐色 10YR4/4 シルト。粘性があり、やや堅い。白砂を少量含む。

7b 層：褐色 10YR4/6 シルト。粘性があり、やや堅い。橙色 7.5YR6/8 堅い粒子を含む。

7c 層：にぶい黄褐色 10YR4/3 シルト。粘性があり、やや堅い。2 ～ 3cm 大のパミスを含む。

7d 層：黄褐色 10YR5/6 シルト。粘性があり、やや堅い。2 ～ 10cm 大の明黄褐色 10YR7/6 パミスを含む。

7e 層：明褐色 7.5YR5/6 シルト質砂。しまりは弱い。1 ～ 10cm 大の浅黄色 2.5Y7/4 パミスを多量に含む。

7f 層：黄橙色 7.5YR7/8 シルト質砂。しまりは弱い。1 ～ 5cm 大の浅黄橙色 7.5YR8/6 パミスを多量に含む。



PL.3 調査区北・東壁

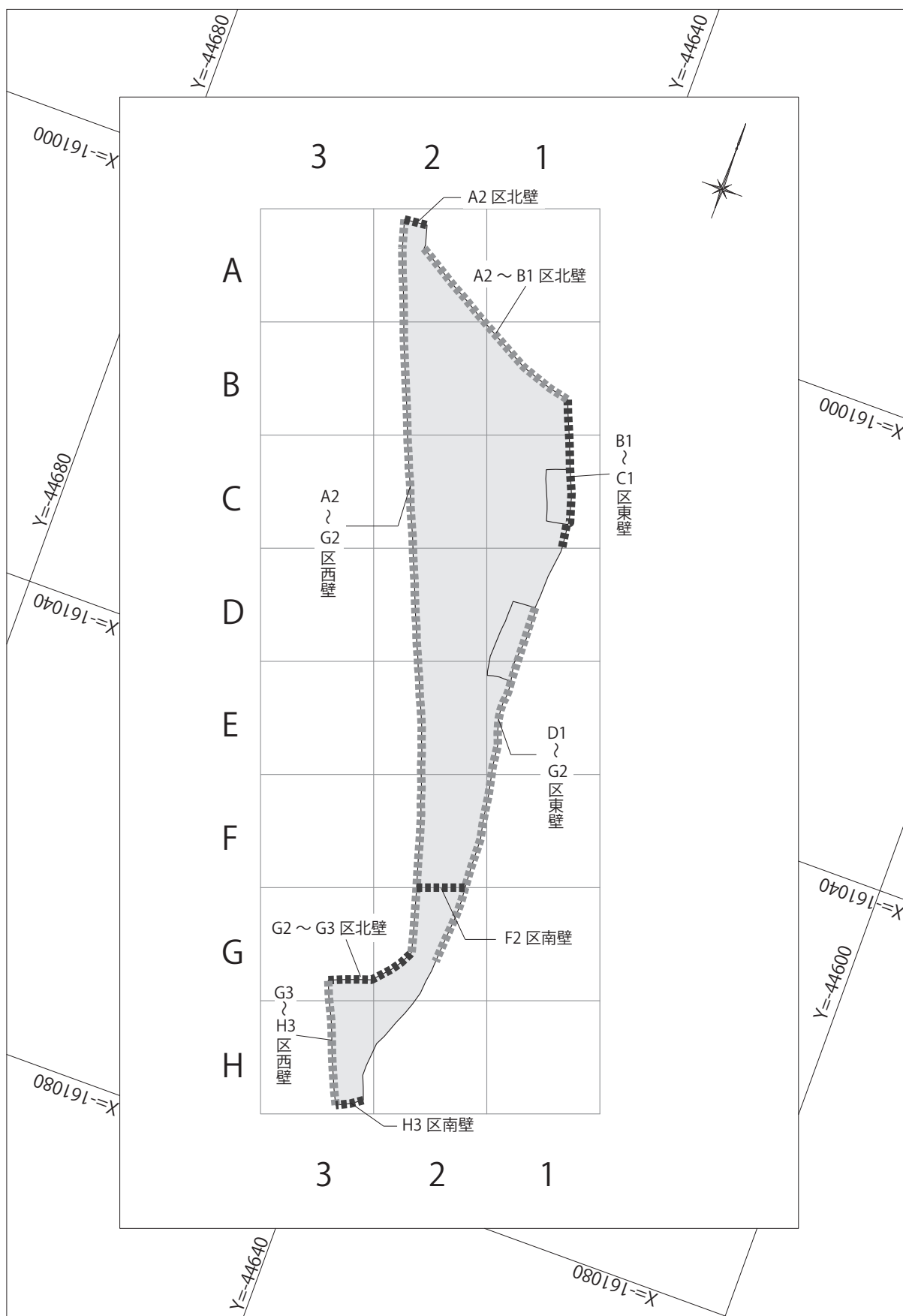


Fig.4 層位断面測量位置図

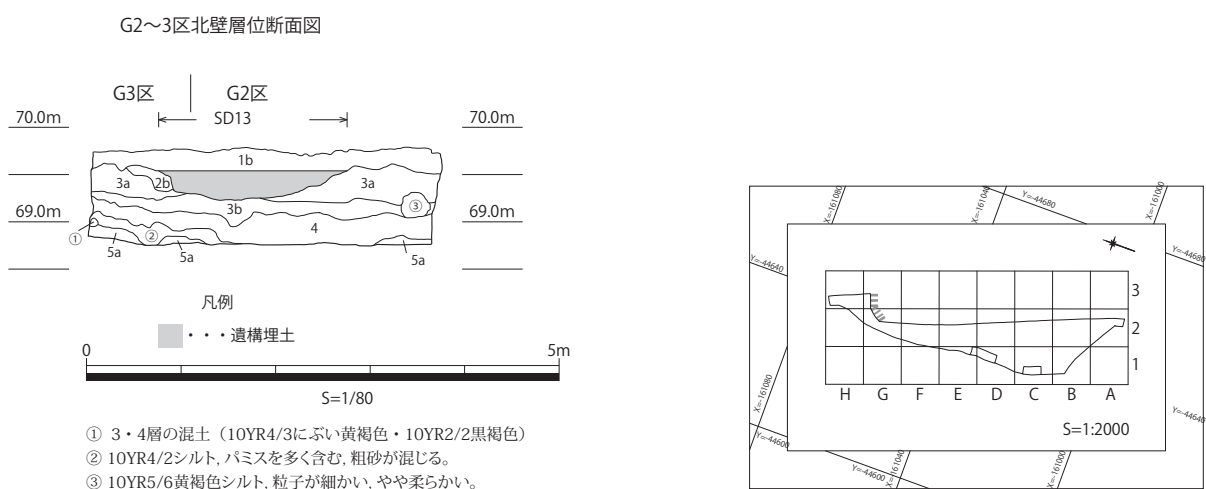
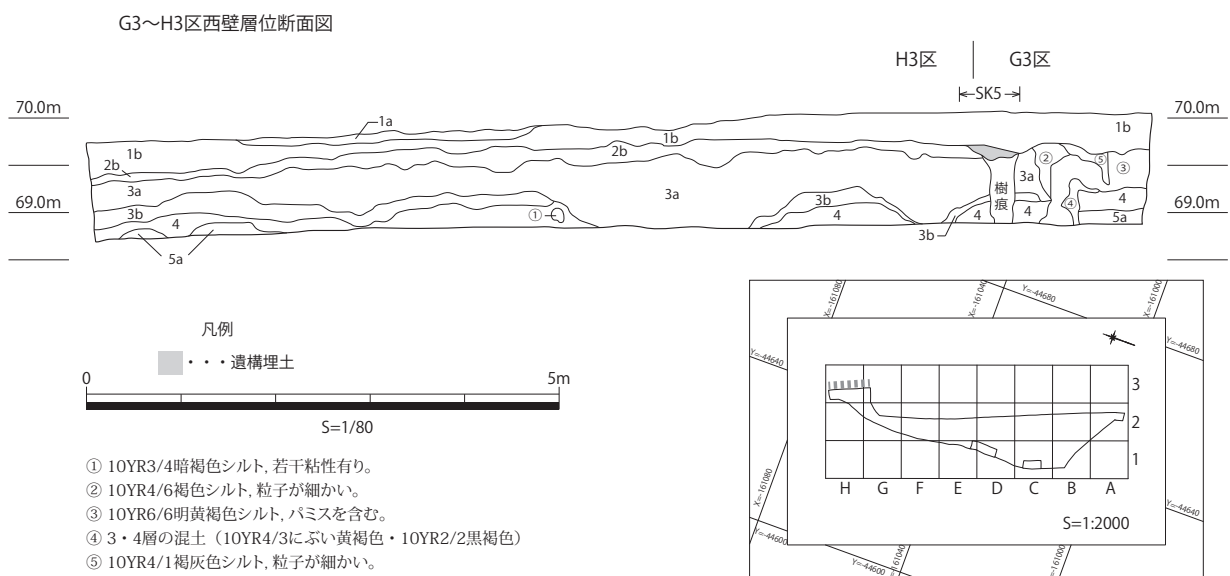
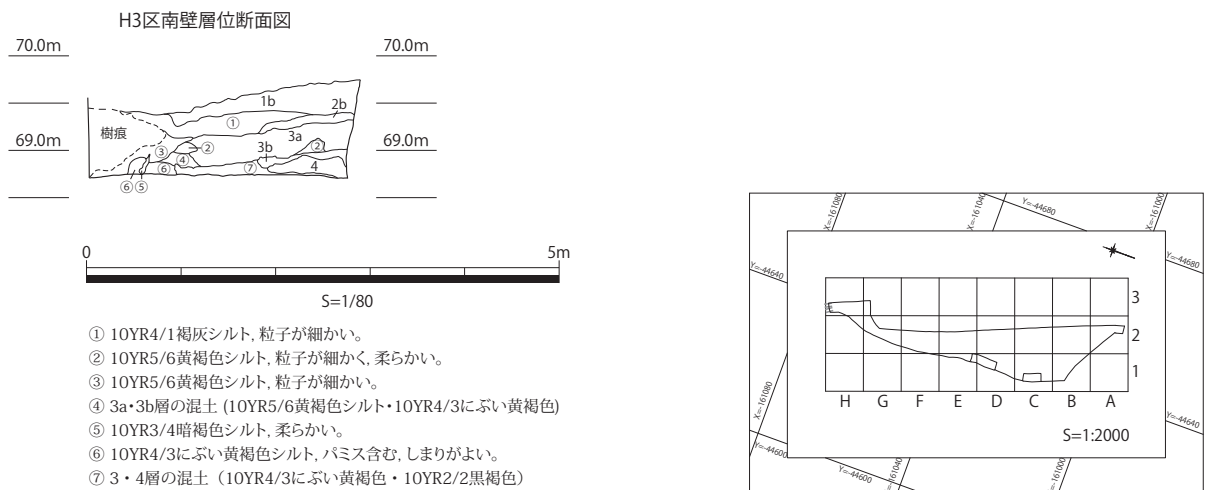
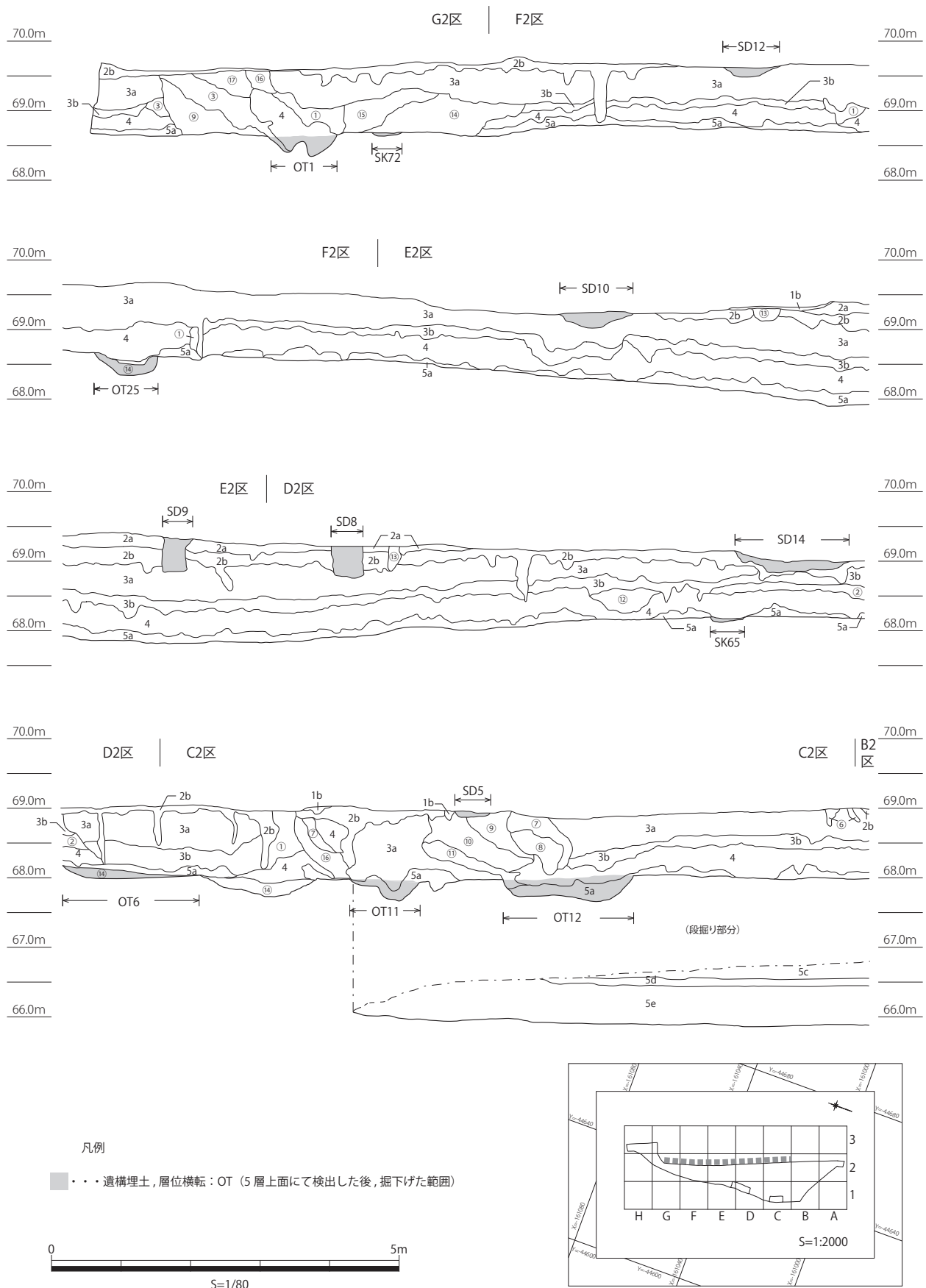
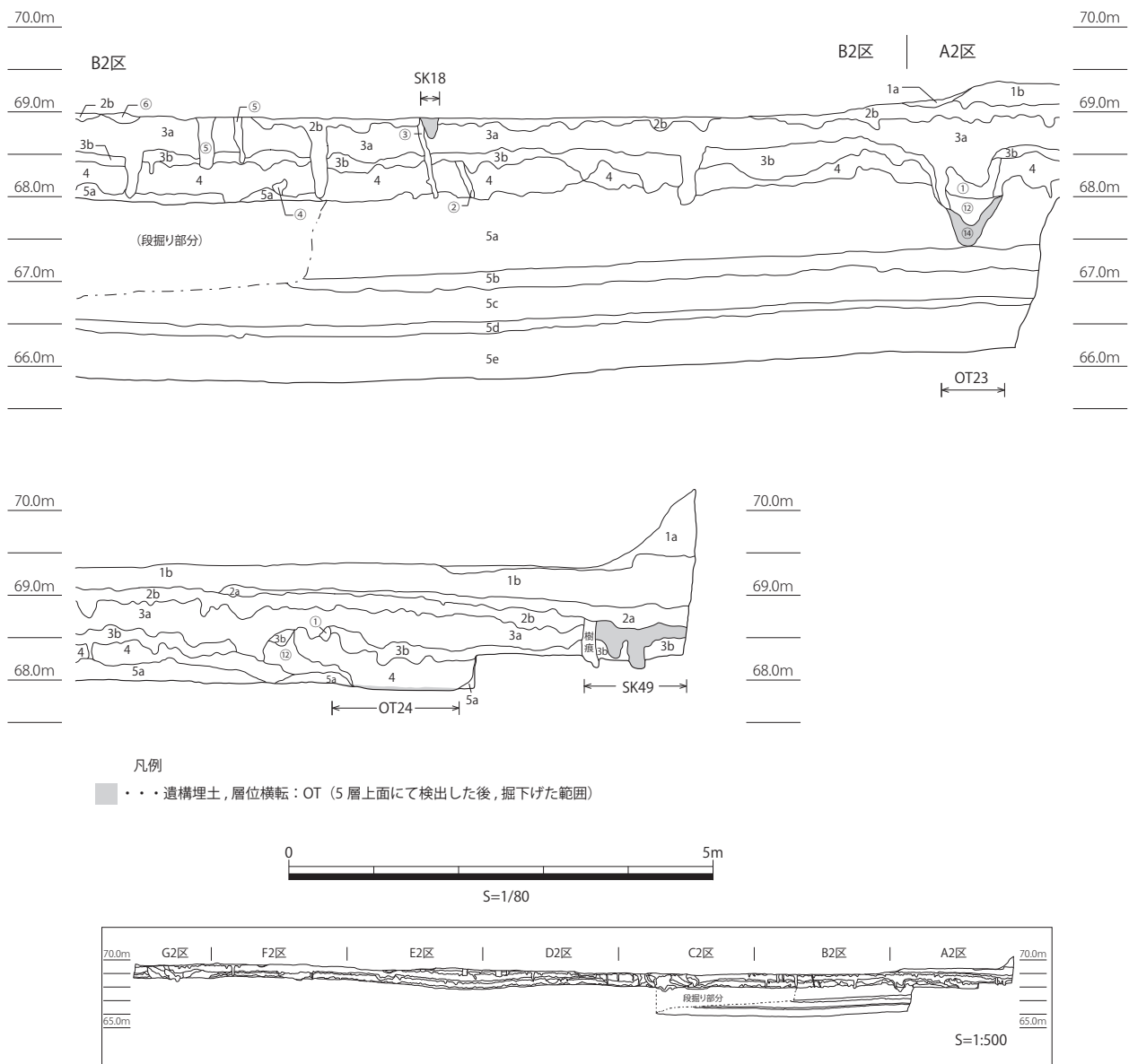


Fig.5 H3区南壁・G3～H3区西壁・G2～3区北壁層位断面図 S=1/80







- ① 10YR3/3暗褐色シルト, パミスを含む, しまりがよい。
- ② 3・4層の混土 (10YR4/3にぶい黄褐色・10YR2/2黒褐色)
- ③ 10YR5/4にぶい黄褐色シルト, パミスを含む, しまりがよい。
- ④ 10YR4/3にぶい黄褐色シルト, 粒子が細かくかなり柔らかい。
- ⑤ 10YR4/4褐色シルト, 粒子が細かく柔らかい。
- ⑥ 10YR4/6褐色シルト, 粒子が細かく柔らかい。
- ⑦ 10YR3/2暗褐色シルト, パミスを含む, しまりがよい。
- ⑧ 10YR2/2黒褐色シルト, やや堅い。
- ⑨ 10YR6/6明黄褐色シルト, パミスを含む, 粒子はやや粗い。
- ⑩ 3・5層の混土 (10YR4/3にぶい黄褐色・10YR8/6黄橙色)
- ⑪ 3・4・5層の混土 (10YR4/3にぶい黄褐色・10YR2/2黒褐色・10YR8/6黄橙色)
- ⑫ 4・5層の混土 (10YR2/2黒褐色・10YR8/6黄橙色)
- ⑬ 10YR3/1黒褐色シルト, 柔らかい。
- ⑭ 10YR4/2灰黄褐色, パミスを含む, シルト・粗砂が混じる。
- ⑮ 10YR6/8明黄褐色シルト, パミスを含む, 粗砂が混じる。
- ⑯ 2・3層の混土 (10YR3/2黒褐色・10YR5/6黄褐色)
- ⑰ 2・4層の混土 (10YR3/2黒褐色・10YR2/2黒褐色)

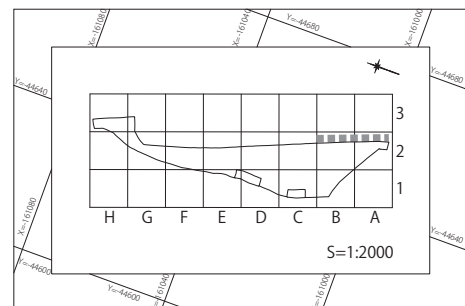


Fig.7 A2～G2区西壁層位断面図(2) S=1/80



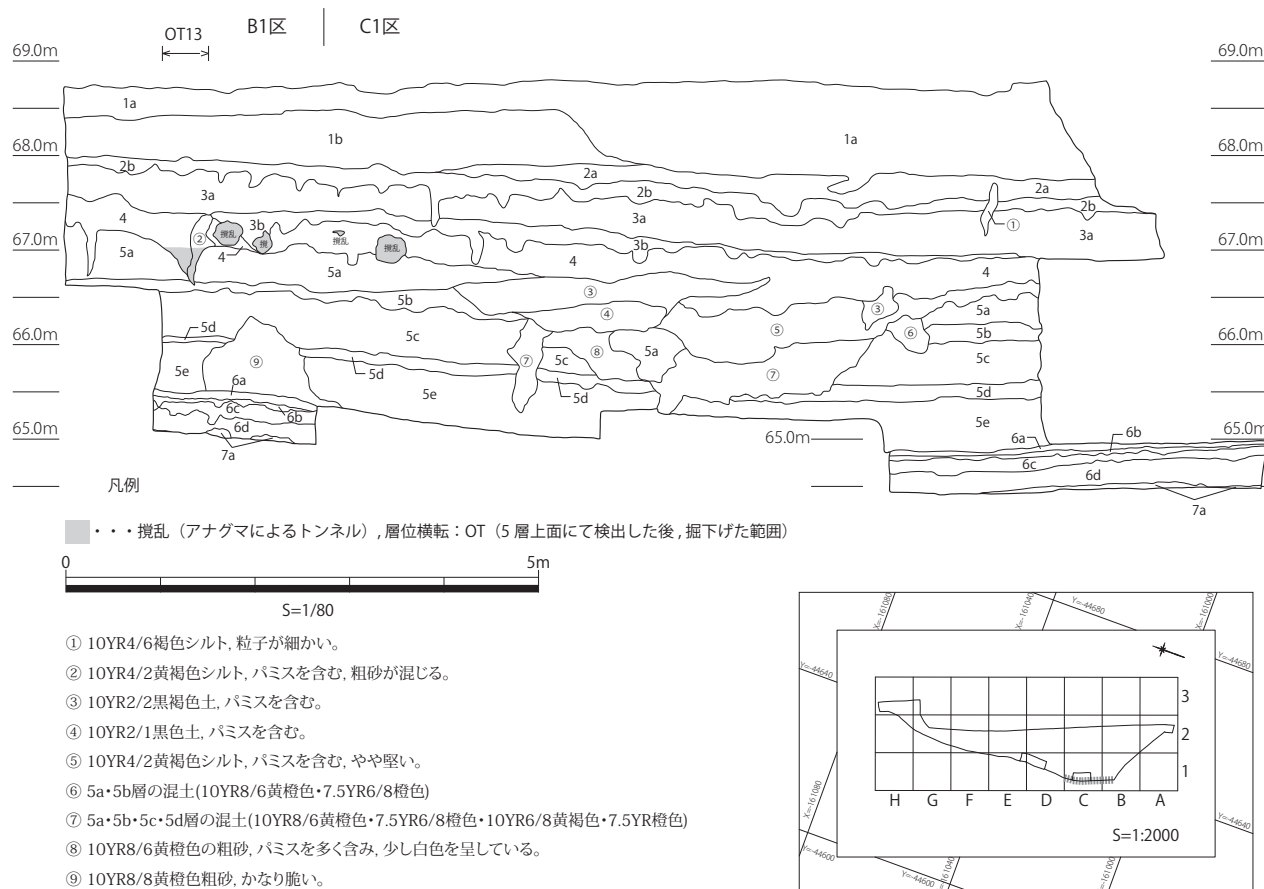


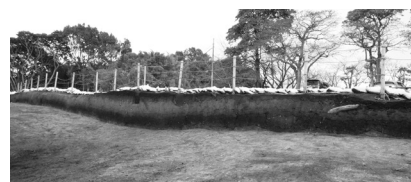
Fig.9 B1～C1区東壁層位断面図 S=1/80



1 H3区南壁



2 G3～H3区西壁



3 A～G2区西壁



4 A2区西壁

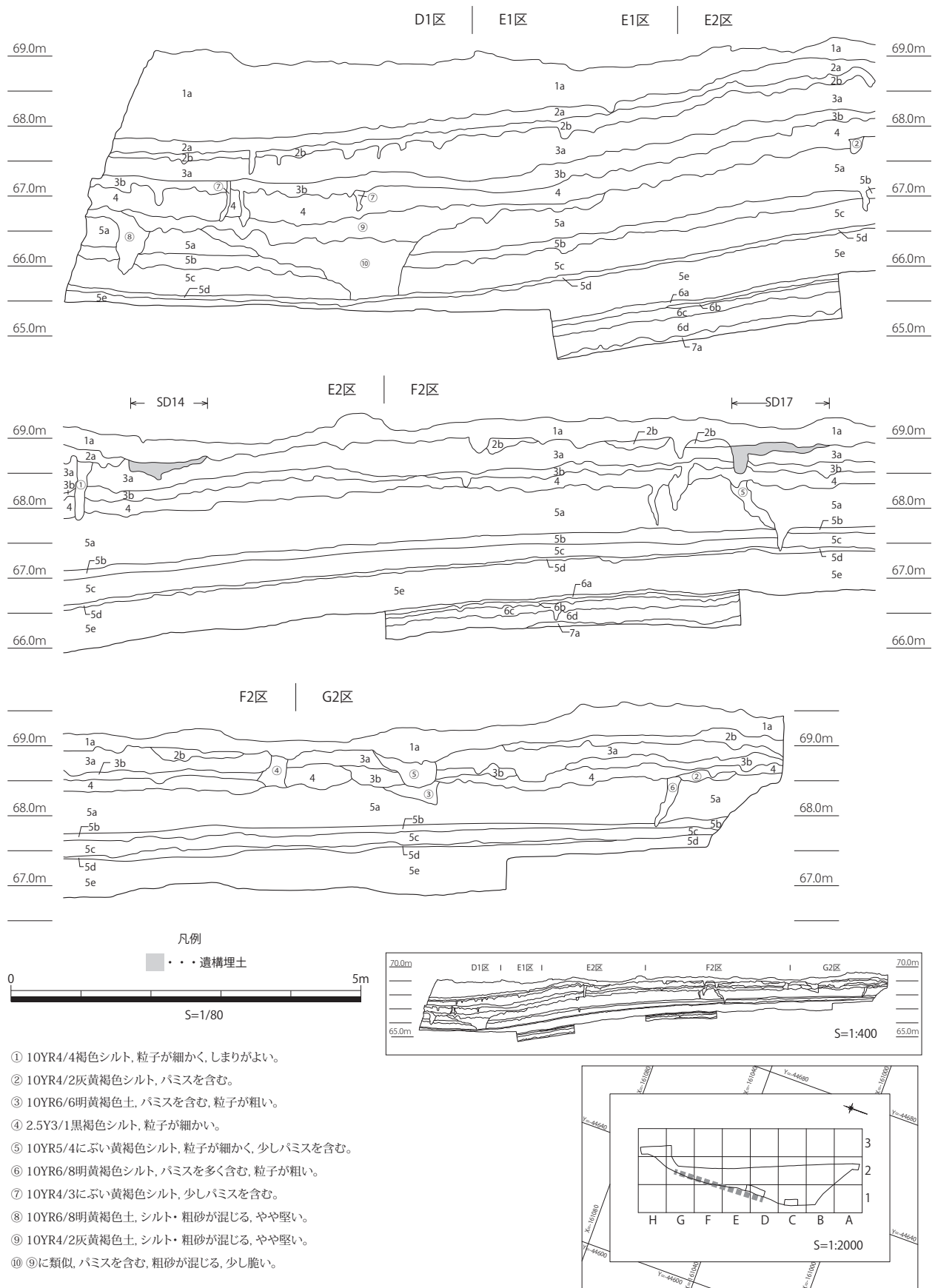


5 A2区北壁



6 A2～B2区北壁（OT15付近）

#### PL.4 壁面層位（1）





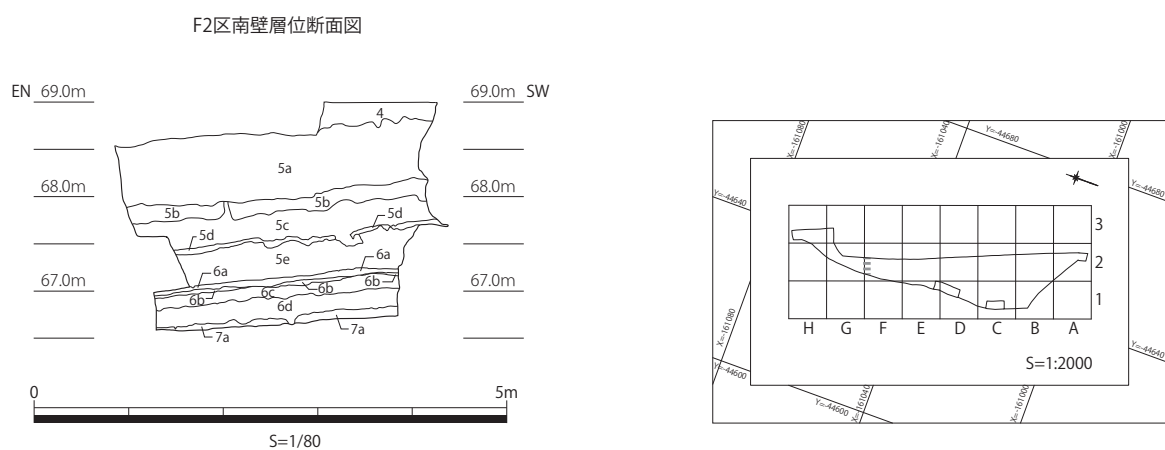
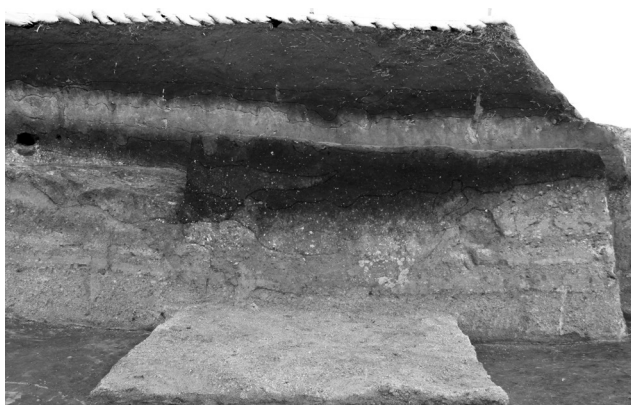


Fig.11 F2区南壁層位断面図 S=1/80



1 C1区東壁



2 D1区東壁

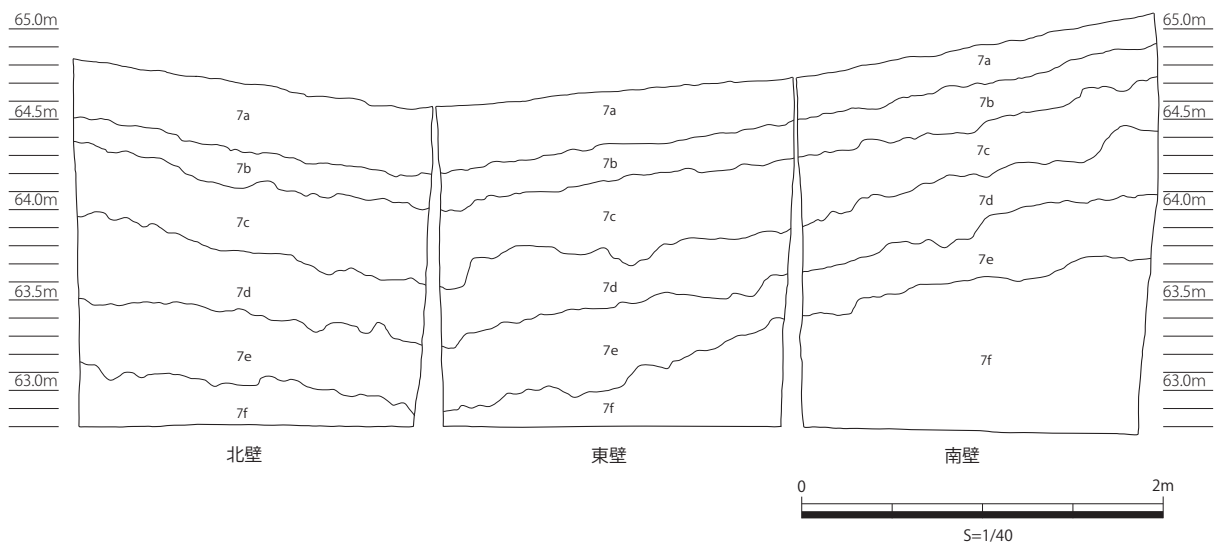


3 D1～G2区東壁



4 F2区南壁 上段：薩摩火山灰層より上位  
下段：薩摩火山灰層より下位

PL.5 壁面層位 (2)



1 北壁



2 東壁



3 南壁

7a層 : 褐色10YR4/4シルト。粘性があり、やや堅い。白砂を少量含む。  
 7b層 : 褐色10YR4/6シルト。粘性があり、やや堅い。橙色7.5YR6/8堅い粒子を含む。  
 7c層 : にぶい黄褐色10YR4/3シルト。粘性があり、やや堅い。2～3cm大のバミスを含む。  
 7d層 : 黄褐色10YR5/6シルト。粘性があり、やや堅い。2～10cm大の明黄褐色10YR7/6バミスを含む。  
 7e層 : 明褐色7.5YR5/6シルト質砂。しまりは弱い。1～10cm大の浅黄色2.5Y7/4バミスを多量に含む。  
 7f層 : 黄褐色7.5YR7/8シルト質砂。しまりは弱い。1～5cm大の浅黄褐色7.5YR8/6バミスを多量に含む。

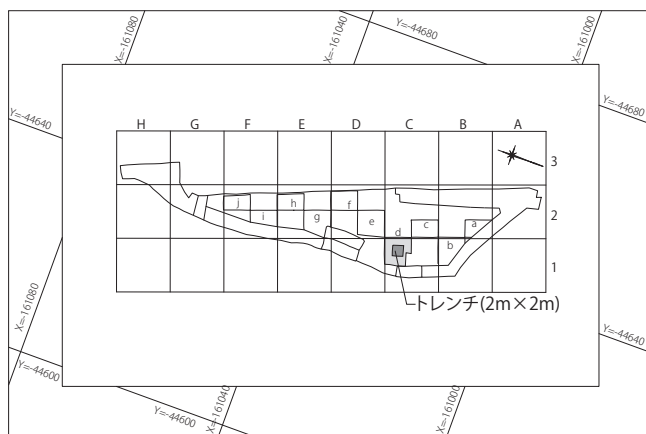
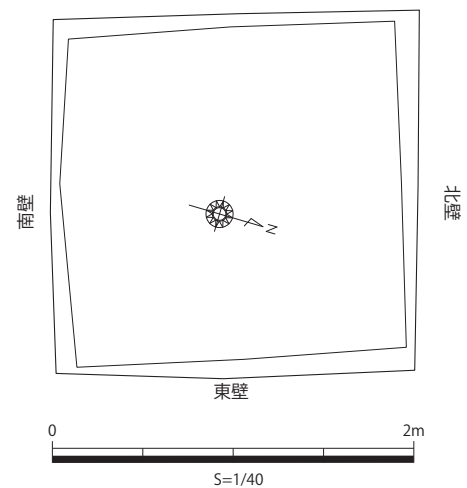


Fig.12 小グリッド d 区内トレンチ壁面層位断面図 S=1/40

d区内トレンチ



PL.6 小グリッド d 区内トレンチ壁面



## 第IV章 各層の成果

### 第I節 1層の成果

#### (1) 表採・攪乱・1層出土遺物 (Fig.13・14, PL7・8)

表採遺物は、土製品、土師器などが表採されている。以下、図示したものについて説明する。

1は器種や部位が判然としない土製品である。外面はケズリとナデが施され、内面にはしぼり痕が、断面には接合痕が認められる。厚みは6mm前後である。2は土師器甕の口縁部である。端部が細く、外反する器形を呈する。外面は横方向の回転ナデが、内面は斜め方向のケズリが施されている。

攪乱から出土した遺物の内、3玉髄製の剥片を1点図示した。

1層からは、中近世の陶磁器・土師器・銭貨、須恵器、弥生土器、縄文土器が出土している。

4は器種や部位が判然としない土製品である。内外面ともナデが施されており、内面には爪痕のようなものが認められる。丁寧に作られており、あるいは泥人形の一部であろうか。5は焙烙の口縁部である。内外面ともにヨコナデが施されている。6は寛永通宝である。7は19世紀の薩摩磁器の碗底部である。内面見込みには蛇の目釉剥ぎが認められる。透明釉が施釉されているが、焼成不良の結果、白濁している。外面には暗く青い呉須による文様が施されている。8は染付碗の底部である。透明釉が施釉されており高台畳付部は無釉である。外面胴部には文様及び圏線が1条、高台外面に2条、高台内面天井部に1条の圏線が暗く緑がかった青い呉須によって施されている。9は染付小碗の底部である。透明釉が施釉されており、呉須によって外面胴部に1条、高台外面に2条の圏線が、内面見込みに2条の圏線及び文様が施されている。肥前産である。10は染付皿の胴部片である。透明釉が施釉されており、呉須によって外面に圏線及び文様が、内面には唐草文が施されている。肥前産である。11は近世白薩摩の碗口縁部である。胎土は灰白色で黒色粒子を多く含み、透明釉が施釉されている。12は陶器小皿の口縁部で、内外面にオリーブ色の釉薬が施されている。加治木・始良系である。13は陶器甕の胴部で、内外面に黒褐色の釉薬が施されている。器壁は4mm程と薄く、胴部には断面三角形突帯や刻目突帯が貼り付けられている。17世紀代の苗代川系である。14は陶器挿鉢の口縁部で、内外面に黒味がかったオリーブ色の釉薬が施されている。回転ナデが施されており、口縁部上面はカキトリにより無釉である。18世紀後半以降の苗代川系である。15は陶器甕または壺の底部であり、内外面に黒味がかったオリーブ色の釉薬が施されている。外面底部付近に貝目痕が認められる。18世紀の苗代川系である。16は青磁碗の底部である。オリーブがかった半透明釉が施釉されており、高台内面は無釉である。見込みにスタンプによる文様が施されている。焼成は良くなく、胎土は赤味がかかる。14世紀半ばから15世紀半ばにかけての龍泉窯産である。17は須恵器大甕の胴部である。外面に平行線文タタキ痕が、内面には同心円文当具痕が認められる。18は土器の壺か鉢の底部で、外面はタテ・ヨコナデが施されている。19は縄文土器深鉢の口縁部である。外面にタテ方向の工具ナデ及びヨコナデが、内面には各方向のナデが施されている。20は弥生時代中期の壺の肩部であり、三条の三角突帯を貼り付けている。外面には丁寧なナデ・ミガキが施されており、内面は摩滅のため、調整が不明である。21は縄文時代早期手向山式の深鉢胴部であり、縦位の山形文が施されている。22は安山岩製の剥片である。剥片下縁の微細剥離は使用痕の可能性も考えられる。23は多孔質な安山岩を素材とする磨石・敲石で、1/3程欠損している。両面に磨面があり、側面には敲打痕が認められる。24は軽石製加工品である。表面には磨かれた痕跡が認められ、先端部が尖るように作り出されている。

#### (1) 2層上面検出遺構 (Fig.15～17, PL.9～12)

2層上面では、溝状遺構8条、土坑状遺構1基を検出した。2層及び遺構が確認できたのはA～E－1・2区（B～D－2区の一部除く）である。

#### 溝状遺構 (Fig.16・17, PL.9～12)

SD1・3～5・7～9・11が検出された。おおよそSD1・3・4・11は南北方向に走り、SD5・7・8・9は東西方向（崖方向）に走っている。ただ、崖方向に走る溝状遺構も崖の縁辺部までは伸びていない。平面形状は基本的に直線的であり、断面形状は方形あるいは逆台形となるものがほとんどである。ただ、SD1は東側側壁がほぼ垂直気味となり、西側はある程度の傾斜をつけて底面へと到る。SD5などはやや逆三角形に近い断面形状を呈している。寸法は、長さが15m

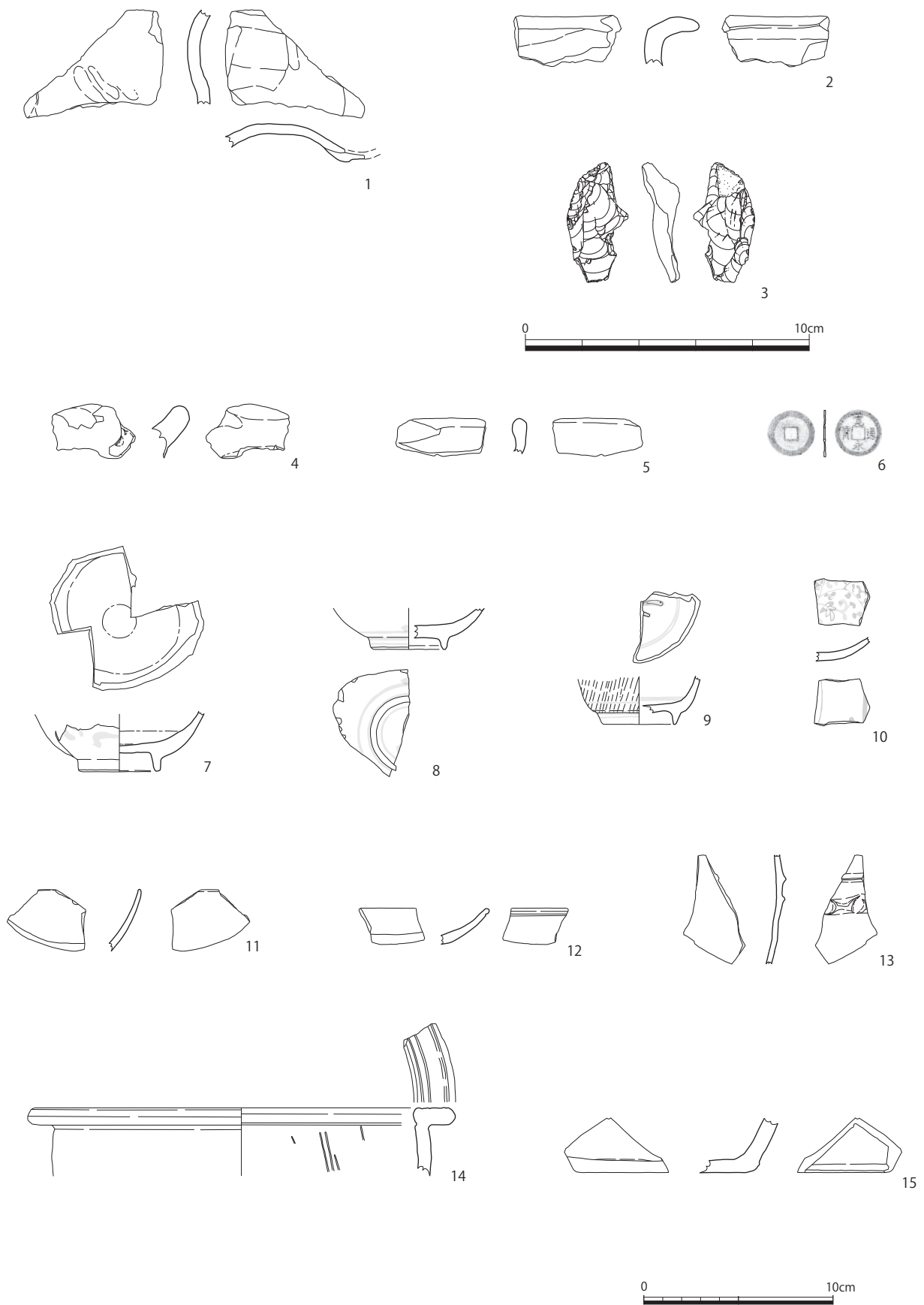
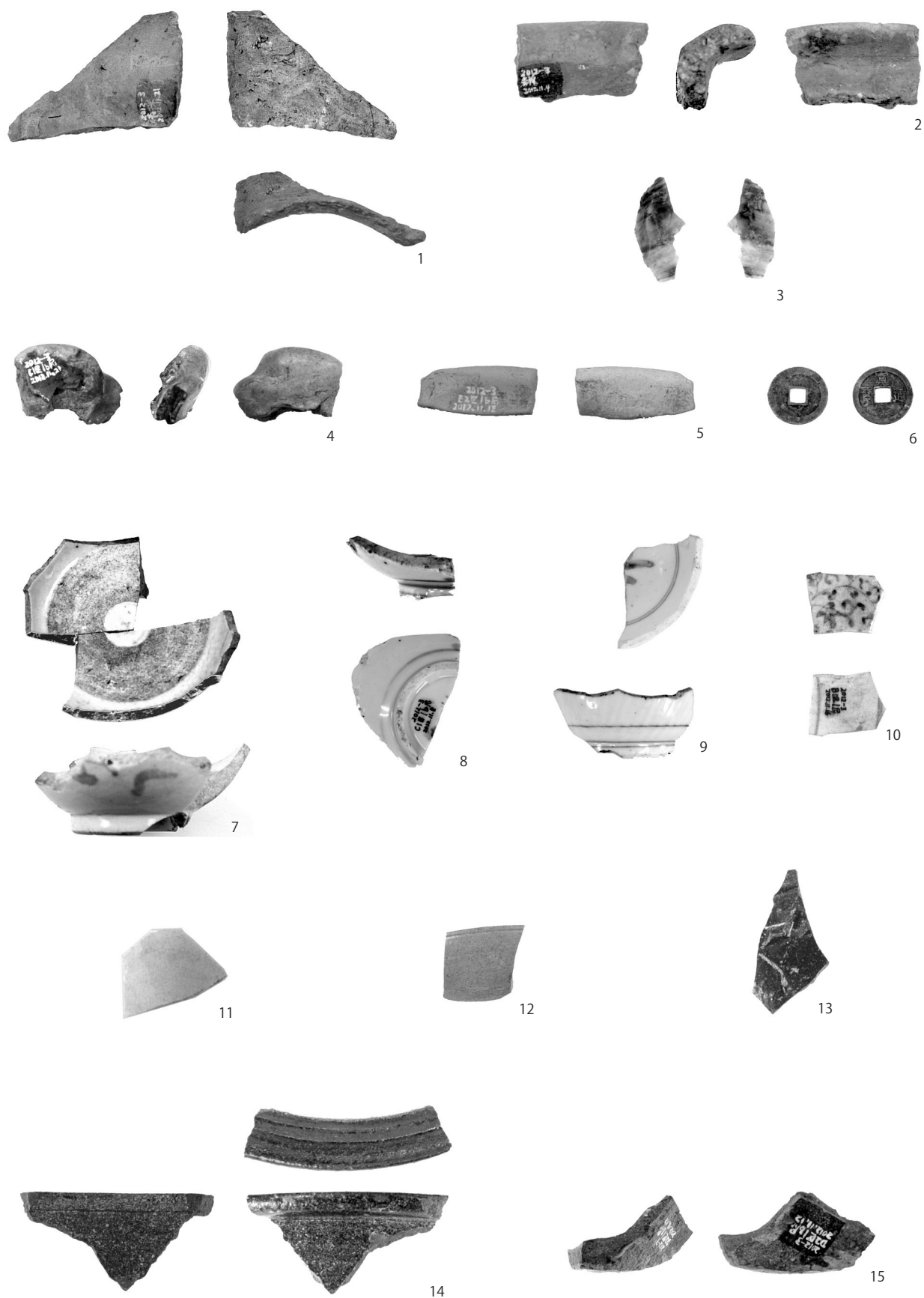


Fig.13 表層・攪乱・1層出土遺物 3 : S=1/2 他はS=1/3



PL.7 表採・攪乱・1層出土遺物

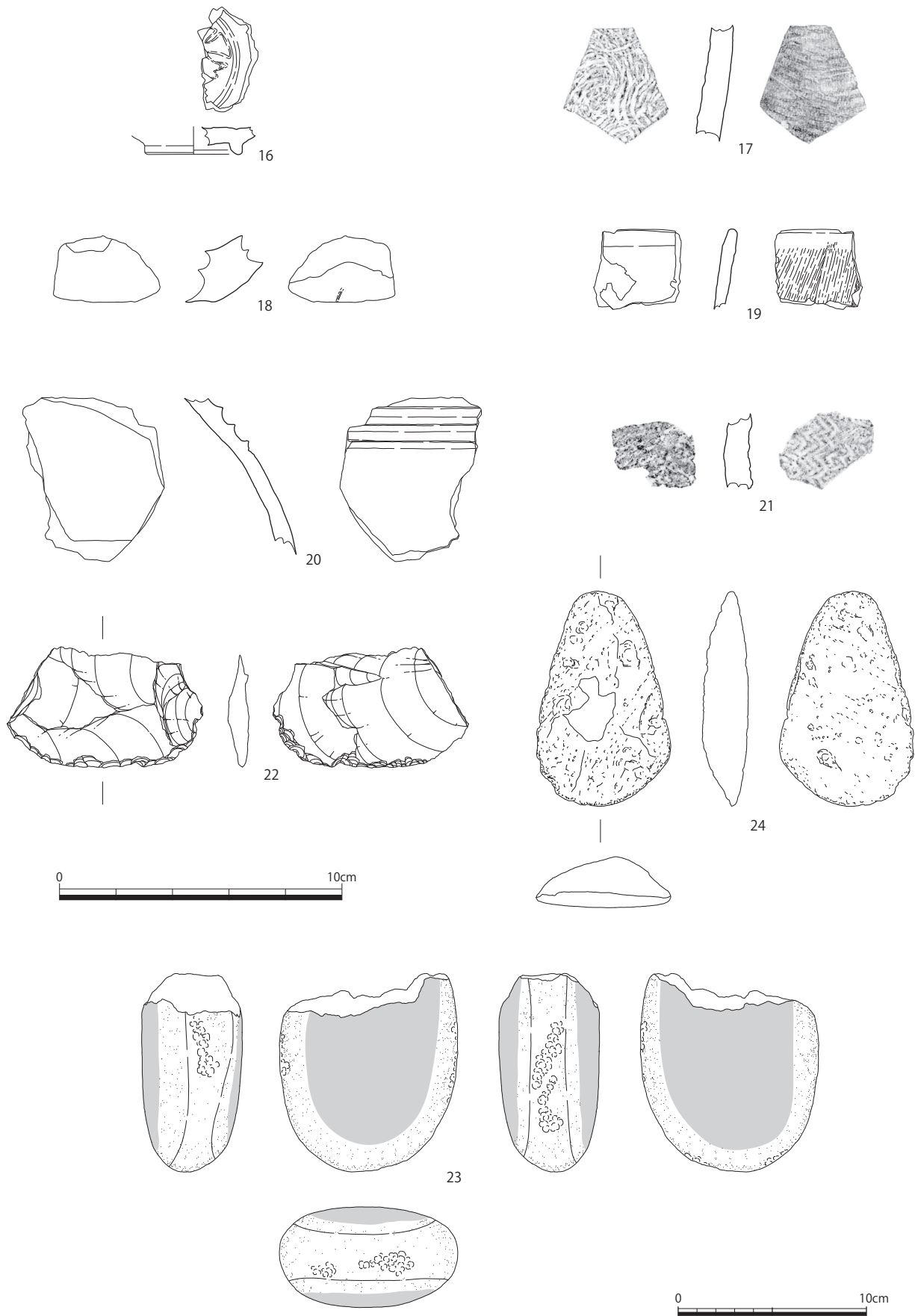
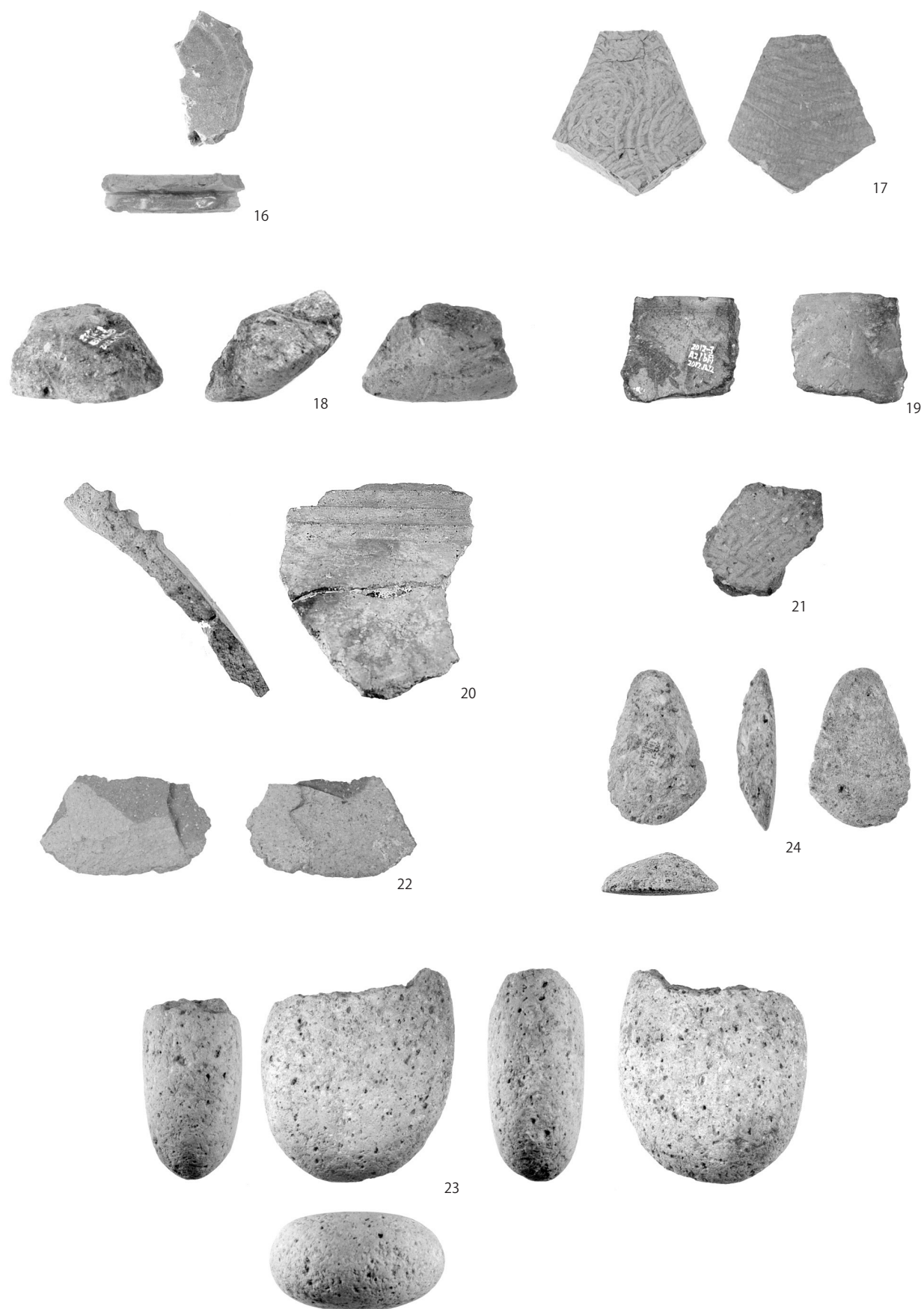


Fig.14 1層出土遺物

22・24 : S=1/2 他は S=1/3





PL.8 1層出土遺物

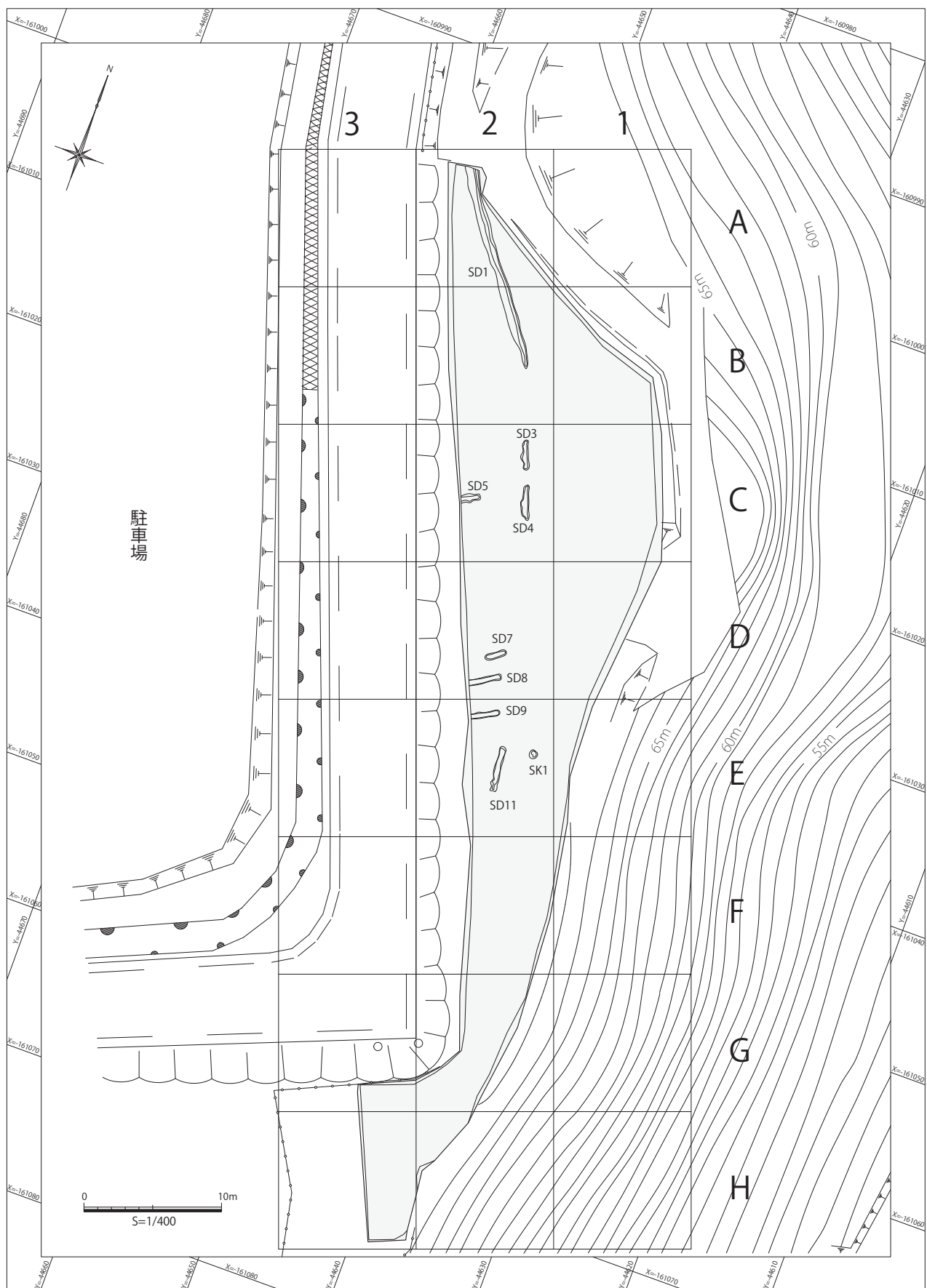


Fig.15 2層上面検出遺構配置図 S=1/400

を超して調査区外へと伸びるものが1条(SD1),1~3m程度のものが4条(SD3・4・7・11),調査区外西側に伸びるものが3条(SD5・8・9)である。幅は40~80cm以内に収まる。この内、深さが40~50cm前後に達するものがSD1・8・9であり,他は5~20cm前後となる。埋土は全て1b層土(黒褐色土シルト)を基調としている。なお,埋土内には細砂などの流水や帯水に伴う堆積物が見受けられなかったことから,排水などの水に関係する施設とは考え難い。

遺構内遺物として,SD1から時期不明の金属器(Fig.18-25),近世薩摩焼含む陶器片,土器片が数点出土している。他の溝状遺構からの出土はなく,各溝状遺構の時期は不明瞭である。近代以降であろうか。

#### 土坑状遺構 (Fig.17, PL.10・11)

土坑状遺構はSK1の1基のみ2層上面にて検出されている。SK1は,直径が62cm程度の円形状であり,深さは10cm程度と浅い。底面は西から東方向に傾斜しており,平坦面はない。埋土は1b層土を基調としている。遺物は遺構内から出土しておらず,時期は不明である。

#### (3) 2層上面検出遺構内出土遺物 (Fig.18, PL.13)

遺物が出土した遺構はSD1の1基のみである。このうち,図示できたものについて記述する。

25はSD1より出土した時期不明の金属器である。部位は口縁部から底部付近と思われるが判然としない。表面に緑青が認められることから銅製品と考えられる。

## 第II節 2層の成果

### (1) 2層出土遺物 (Fig.18・19, PL.13)

2層では土師器,古墳~弥生土器,縄文土器が出土している。

26は土師器杯の底部である。内外面に回転ナデが施されており,胎土はきめ細かい。27は弥生終末期~古墳時代にかけての甕か壺の胴部である。外面には斜位の細かいハケメが施されている。28は弥生時代中期後半の山ノ口式小甕の口縁部である。口唇部に向って先細り,内外面にヨコナデが施されている。29は土器で,壺か鉢の底部と考えられる。時期は判然としない。外面にヨコナデを施し,四条の沈線も認められる。内面調整は摩滅のため不明である。30は縄文時代晩期の深鉢底部である。外面には粘土貼付痕があり,底部には圧痕が認められる。外面はヨコナデが施されており,内面は摩滅のため不明である。31は縄文時代晩期の深鉢底部で,底部には圧痕が認められる。外面は横・斜めのナデが施され,内面は摩滅のため不明である。32は縄文時代晩期の浅鉢底部付近である。外面は横・斜めのミガキが,内面は工具ナデ及びナデが施されている。33は縄文時代晩期の浅鉢胴部である。外面は横・斜めのミガキやナデが,内面は横方向の工具ナデが施されている。

### (2) 3層上面検出遺構 (Fig.20~27, PL.14~18)

3層上面では,溝状遺構9条,土坑状遺構47基,ピット53基を検出した。

#### 溝状遺構 (Fig.22・23, PL.14・15・17・18)

SD2・6・10・12~17が検出された。SD2・10は南北方向に走り,SD6・13・14・16・17はおおよそ東西方向(崖方向)に走る。この内,SD13・14・17は調査区東端の崖へと伸びる。SD12は南北方向から調査区西壁付近で東西方向に転じ,調査区外へと伸びる。SD15は馬蹄形を呈しておりSD6に切られる。SD14は2層上面検出のSD7・8に切られている。平面形状はSD12・15を除き基本的に直線的である。断面形状は方形,逆台形,逆三角形など様々である。寸法は,長さが17mを超して調査区外へと伸びるものが1条(SD14),1~3m程度のものが4条(SD2・6・15・16),調査区外へと伸びるものが4条(SD10・12・13・17)である。幅は30~130cmと各溝状遺構で様々であり,深さはSD16が64cmで,他は10~30cm程度である。埋土はSD14を除き黒褐色シルト土を基調としていることから,1b層土がベースと思われる。SD14の埋土は粘性を持つ黒色シルト土であり,土質は2層土に近い。SD14内からは時期決定に有効な遺物が出土していないが,埋土から考えるとあるいはSD14は弥生時代に属する可能性が高い。なお,全ての溝状遺構の埋土内には細砂などの流水や帯水に伴う堆積物が見受けられなかったことから,排水などの水に関係する施設とは考え難い。

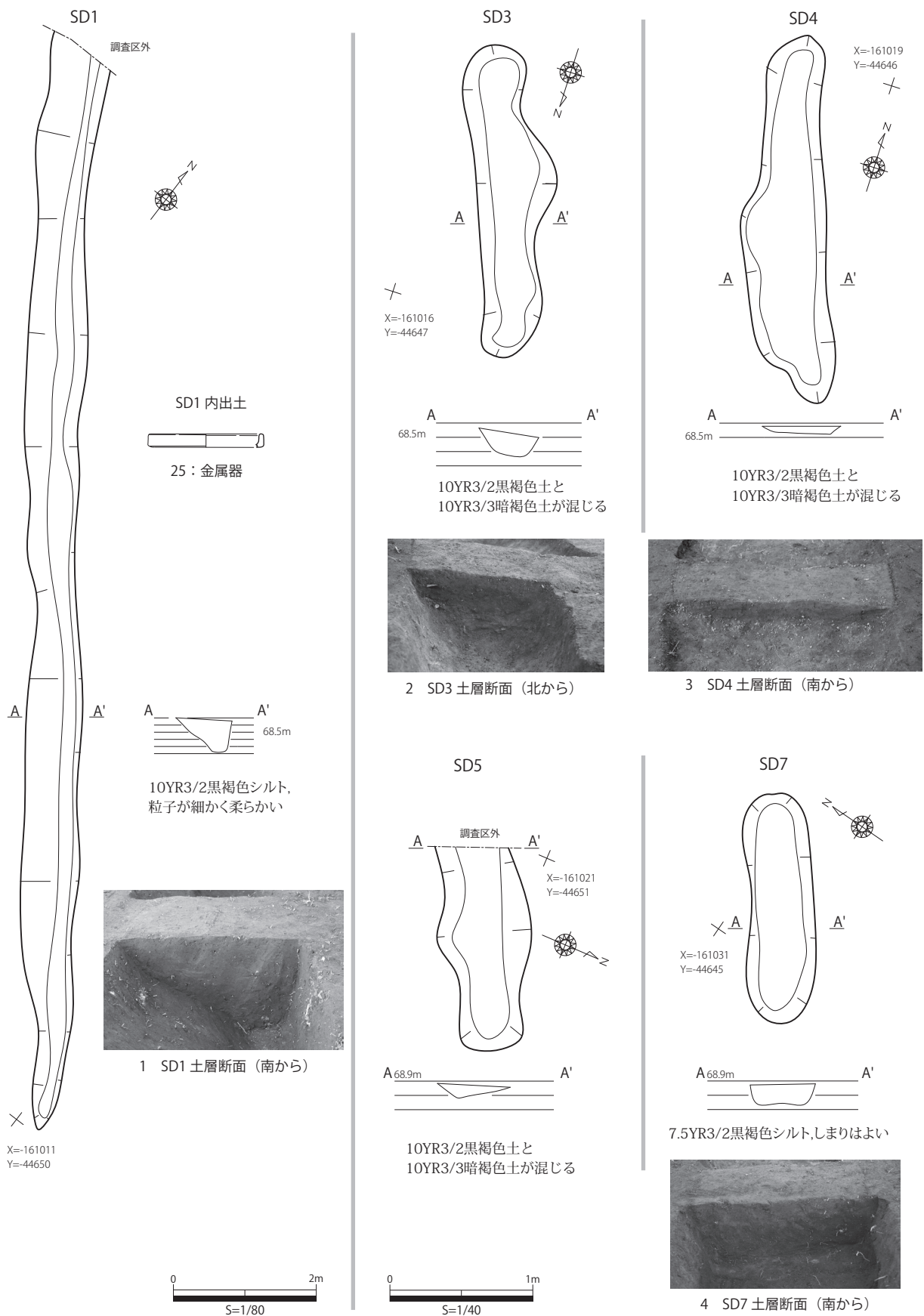
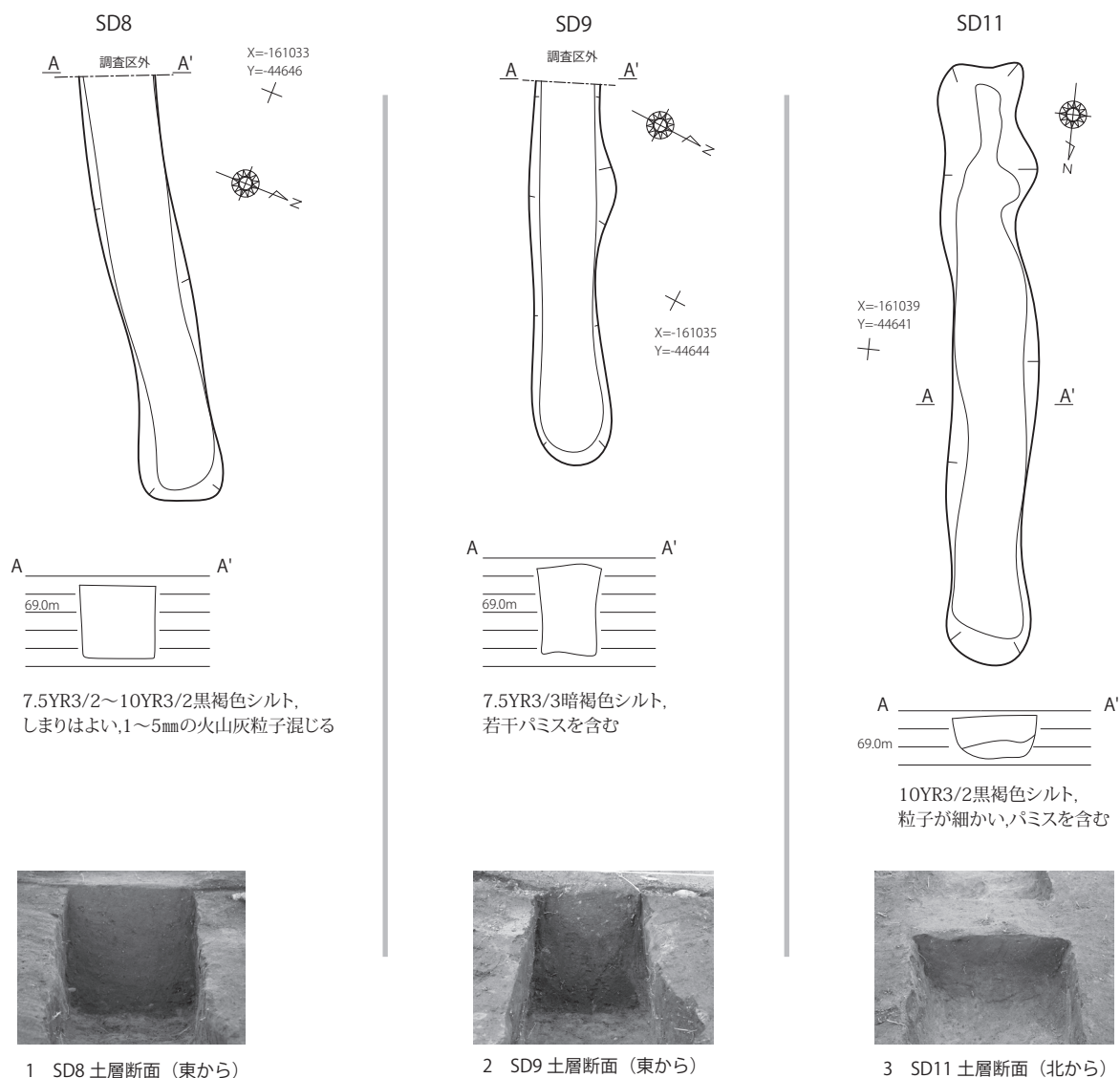


Fig.16 2層上面検出遺構 (1) SD1: S=1/80 他: S=1/40

PL.9 2層上面検出遺構土層断面 (1)



4 SK1 完掘状況 (東から)

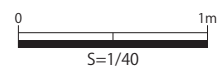
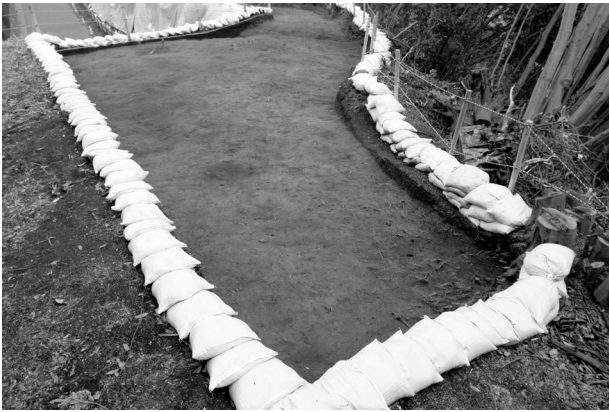


Fig.17 2層上面検出遺構 (2) S=1/40

PL.10 2層上面検出遺構土層断面 (2) 及び完掘状況





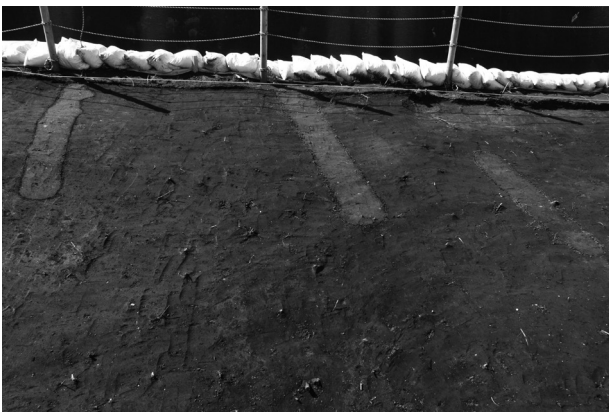
1 G～H3区表土剥ぎ後



2 SD1 検出状況（南から）



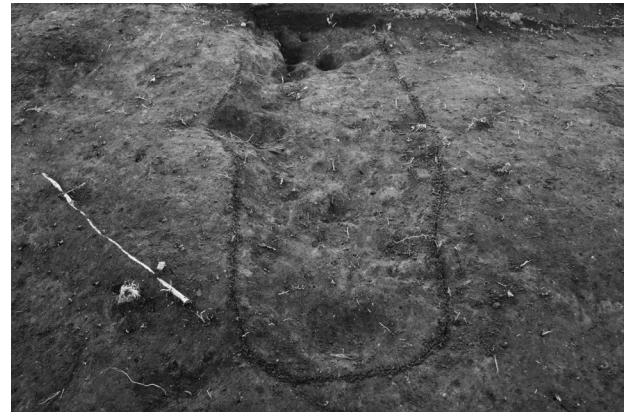
4 SD2・3（真中）・4（正面右）検出状況（西から）



6 SD7（正面右）・8（真中）・9（正面左）検出状況（東から）  
PL.11 2層上面検出遺構(1)



3 SD1 検出状況（北から）



5 SD5 検出状況（東から）



7 SD10・11（真中）,SK1 検出状況（南から）

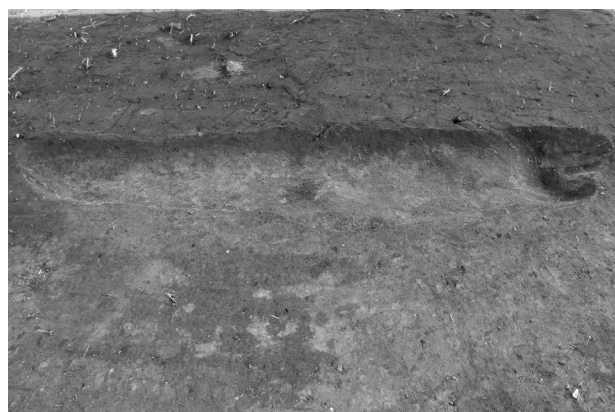




1 SD1 完掘状況（南から）



2 SD2・3（正面右）完掘状況（西から）



3 SD4 完掘状況（西から）



4 SD7 完掘状況（東から）



5 SD9 完掘状況（東から）

PL.12 2層上面検出遺構(2)

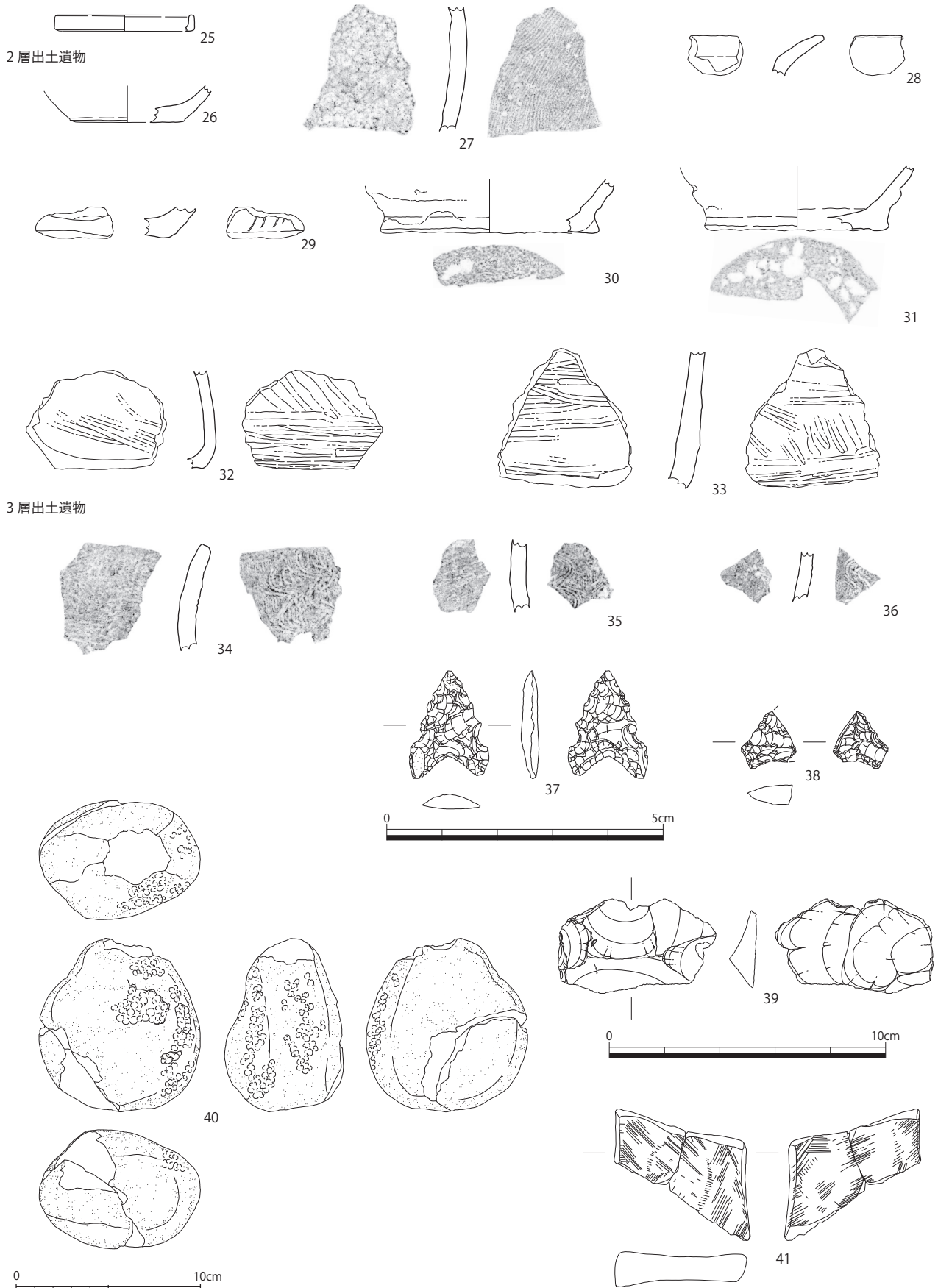
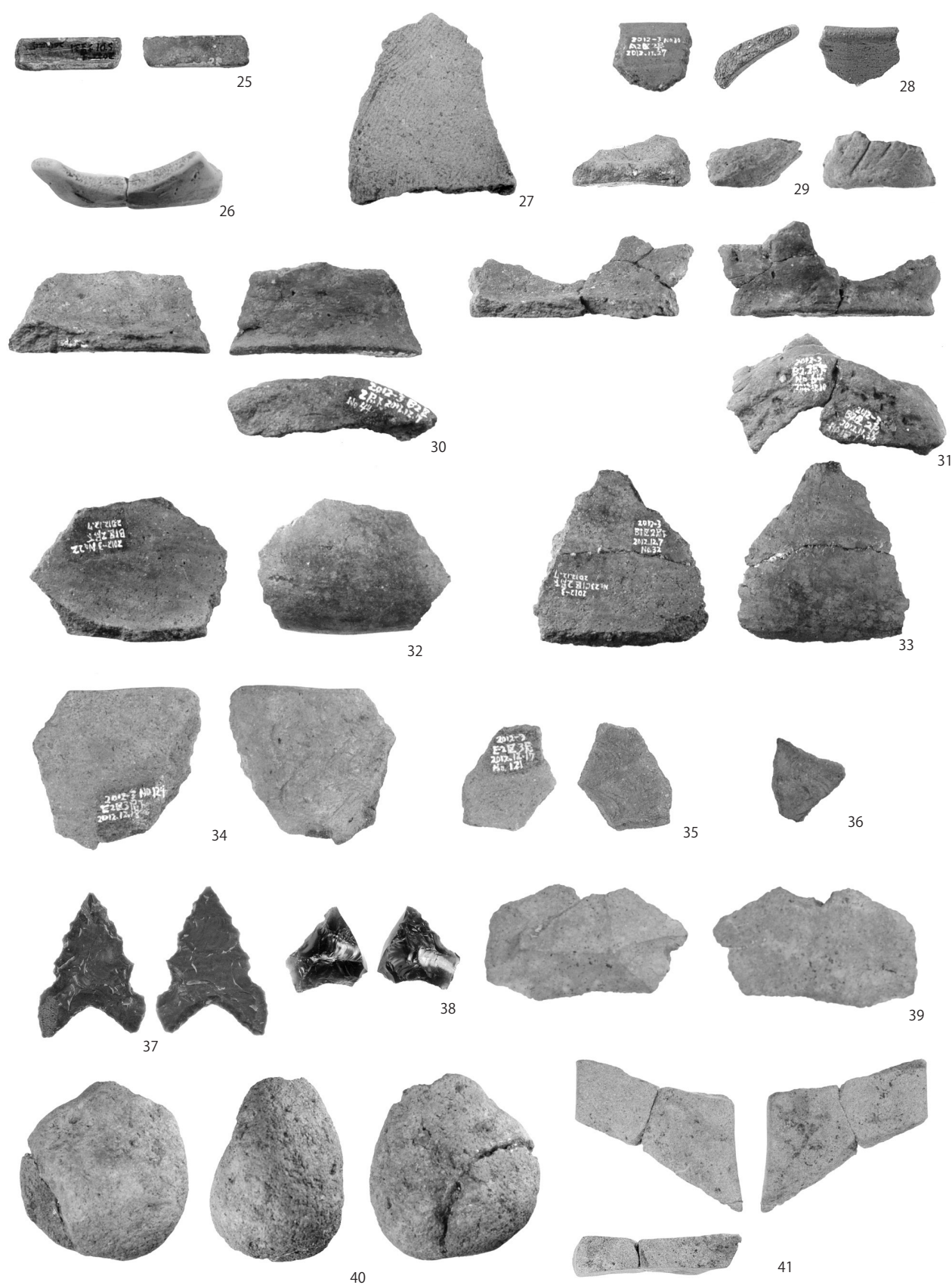


Fig.18 2層上面検出遺構内・2層・3層出土遺物 37 : S=1/1 39 : S=1/2 他はS=1/3





PL.13 2層上面検出遺構内・2層・3層出土遺物



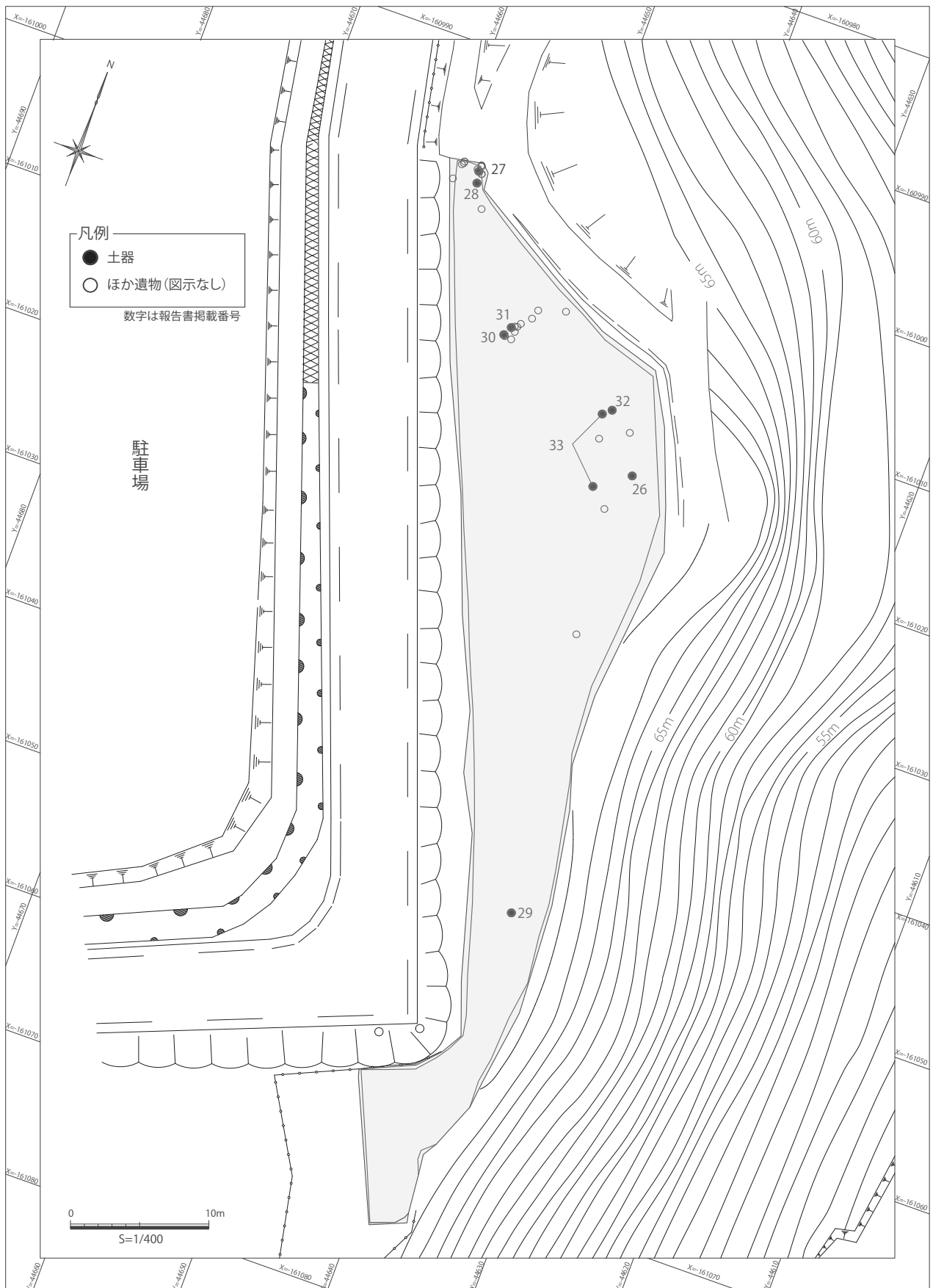


Fig.19 2層出土遺物分布図 S=1/400

遺構内遺物として、SD13からは縄文土器と思われる条痕を持つ胴部片が1点出土しており、SD14からは時期が判然としない土器胴部片が1点出土している。他からは、遺物の出土は確認されていない。各溝状遺構の時期は、SD14のみが弥生時代に属する可能性も持ち、他は近代以降の所産であろうか。

#### 土坑状遺構 (Fig.24～27, PL.16～18)

土坑状遺構はSK2～SK50 (SK4・6は欠番)を検出している。形状は円形や楕円形その他、不定形のものも多い。断面形状もさまざまであり、一番深いものでSK10が1m程度である。遺物はSK7とSK10から出土しているが、ともに時期不明の土器胴部片である。積極的に人為的な遺構と判断できるものは、ほばないものと思われる。

#### ピット (Fig.20・21)

ピットはP1～P54 (P51除く)を、E・D区に属するSD14を挟んで北側に集中して検出した。深いものでは1mに及ぶものもあったが、杭列や掘立柱建物跡などと考えられる配列は確認されなかった。

### 第Ⅲ節 3層の成果

#### (1) 3層出土遺物 (Fig.18・29, PL.13)

3層では縄文早期土器や石器が出土している。

34～36は縄文時代早期の変形撚糸文土器の口縁部と胴部である。色調や胎土から同一個体と考えられる。外面調整は横・斜め方向のナデであり、内面は横方向のケズリが施されている。37は上牛鼻産黒曜石に類似する石材を素材とする打製石鏃である。両側縁に挟りがあり、自然面が残る。38は腰岳産黒曜石に類似する石材を素材とするドリルあるいは打製石鏃の一部と考えられる。挟りがある。39は安山岩製の剥片である。40は安山岩を素材とする敲石である。表面と側面の一端に敲打痕が集中する。41は砂岩を素材とする砥石である。四角形を呈し、4面を使用している。

#### (2) 層位横転内3層出土遺物 (Fig.29・30, PL.18・20)

層位横転内からは石器が出土しており、その内7点を図示している。以下、図示したものについて説明する。

42は三船産黒曜石製のスクレイパーであり、43は上牛鼻産黒曜石製のスクレイパーである。42・43ともに刃部の一部に使用によるものと思われる刃潰れが認められる。44は三船産黒曜石製の剥片である。45は流紋岩製の磨製石斧の先端部である。46は安山岩を素材とする磨石・敲石である。両面に磨面があり、長軸の一旦及び側面に敲打痕が認められる。47も安山岩を素材とする磨石・敲石である。全体の1/2を欠損する。両面に磨面があり、端部に敲打痕が集中する。

なお、図示はしていないが横転内からは三船産黒曜石製の剥片が他に1点出土している。

#### (3) 3層中検出土坑状遺構と出土遺物 (Fig.20・21・28・30, PL.17・19・20)

3層を10～20cm掘削した後に土坑が1基検出された。他に遺構は確認されていない。

#### 土坑状遺構 (Fig.28, PL.17・19)

土坑状遺構はSK51の1基のみ3層中にて検出されている。SK51は隅丸方形の土坑状遺構で、295×250cm、深さ50cm程度をはかる。中央部には2層土の樹根と思われるピット (P51)があり、遺物は時期不明の土器胴部片1点と軽石製の加工品 (Fig.30-48)のみが出土した。3層上面では検出されていなかったため、3層中の掘り込みと判断した。内部には炭状粒子の拡がりも確認され、この土坑状遺構周辺には不規則なピット群もあることから、当初は住居跡の様にもみえたのだが、遺物量が少ないこと、3層自体がアカホヤ火山灰の二次堆積土であること、埋土はアカホヤが黒ずんだようなしまりのない土壌であること、他の明らかな樹根にも底面に炭化物らしき拡がりが見られたこと、表土掘削の際に、遺構上部に大型の樹木があったことなどから判断して、その樹根の可能性も否定できず、人為的な遺構であると確信することはできなかった。

SK51からは2点遺物が出土している。その内の1点、軽石製加工品を図示して以下に説明を行う。

48は軽石製加工品であり、表・裏面が磨かれている。表面は平坦に磨かれているが、裏面は横方向の幅広凹線が認められる。また、側縁の一部に挟りが見られる。

#### (4) 4層上面検出層位横転 (Fig.31, PL.22)

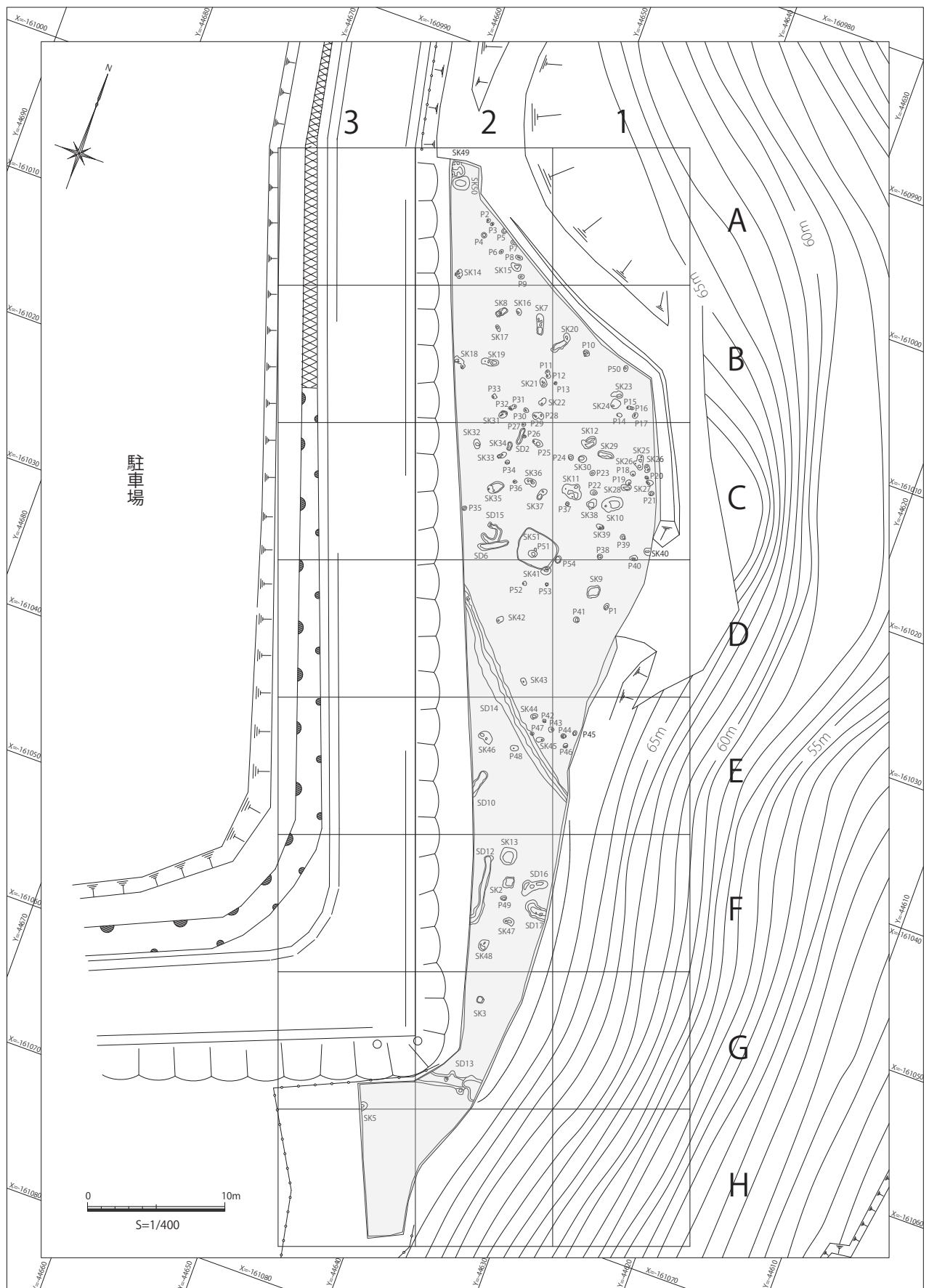


Fig.20 3層上面検出遺構配置図 (1) S=1/400

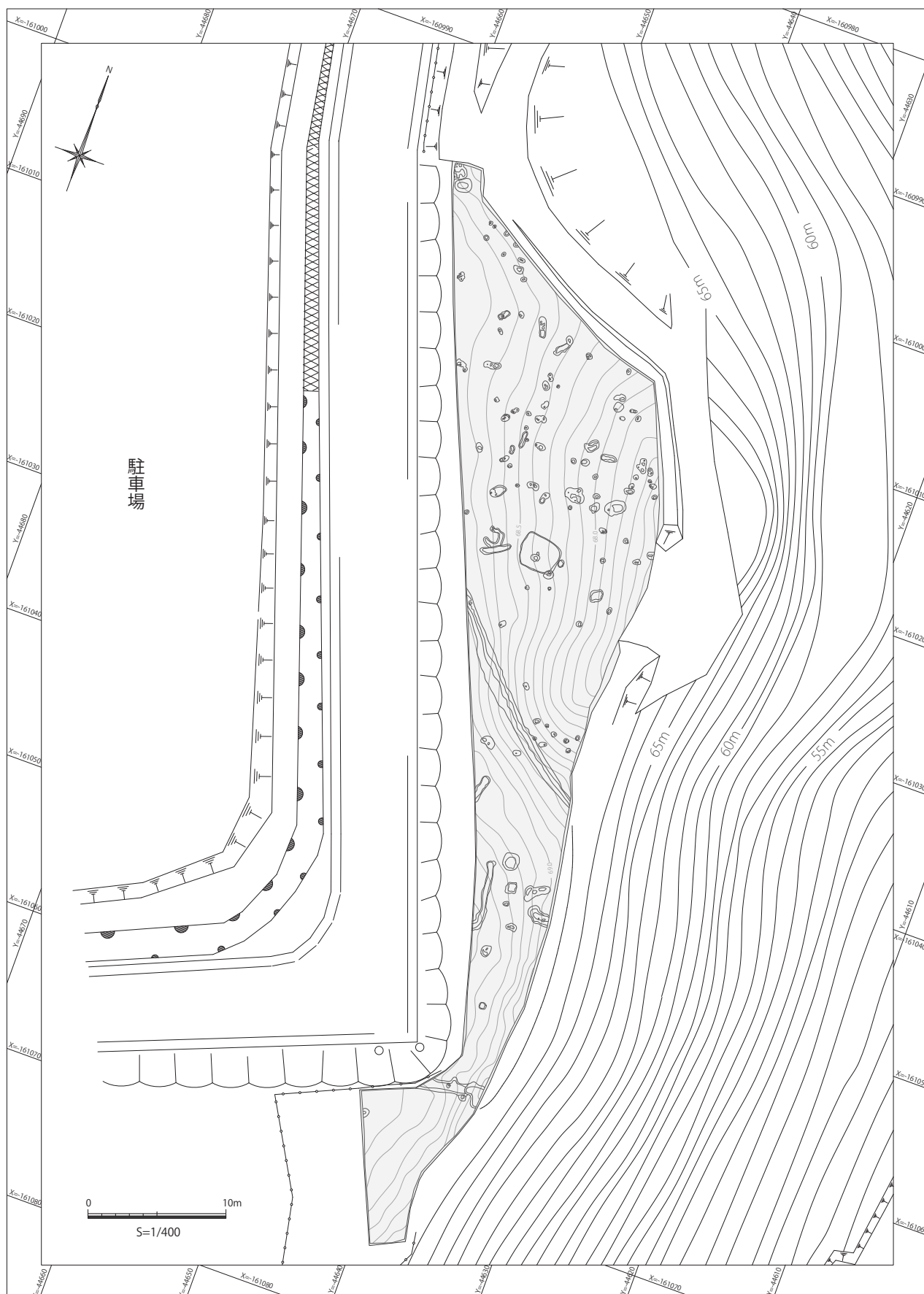


Fig.21 3層上面検出遺構配置図(2) S=1/400



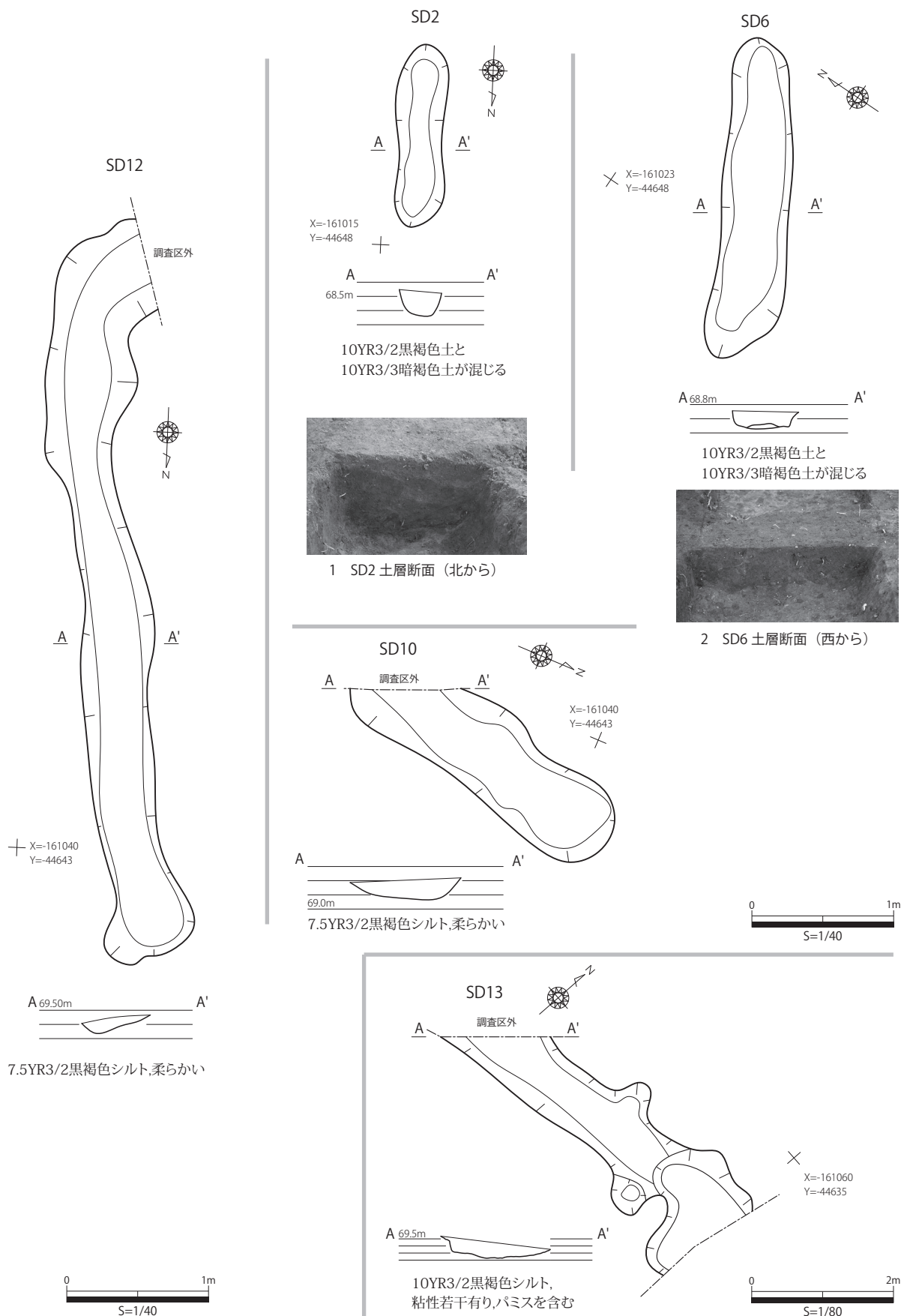


Fig.22 3層上面検出遺構 (1) SD13 : S=1/80 他 : S=1/40

PL.14 3層上面検出遺構断面 (1)

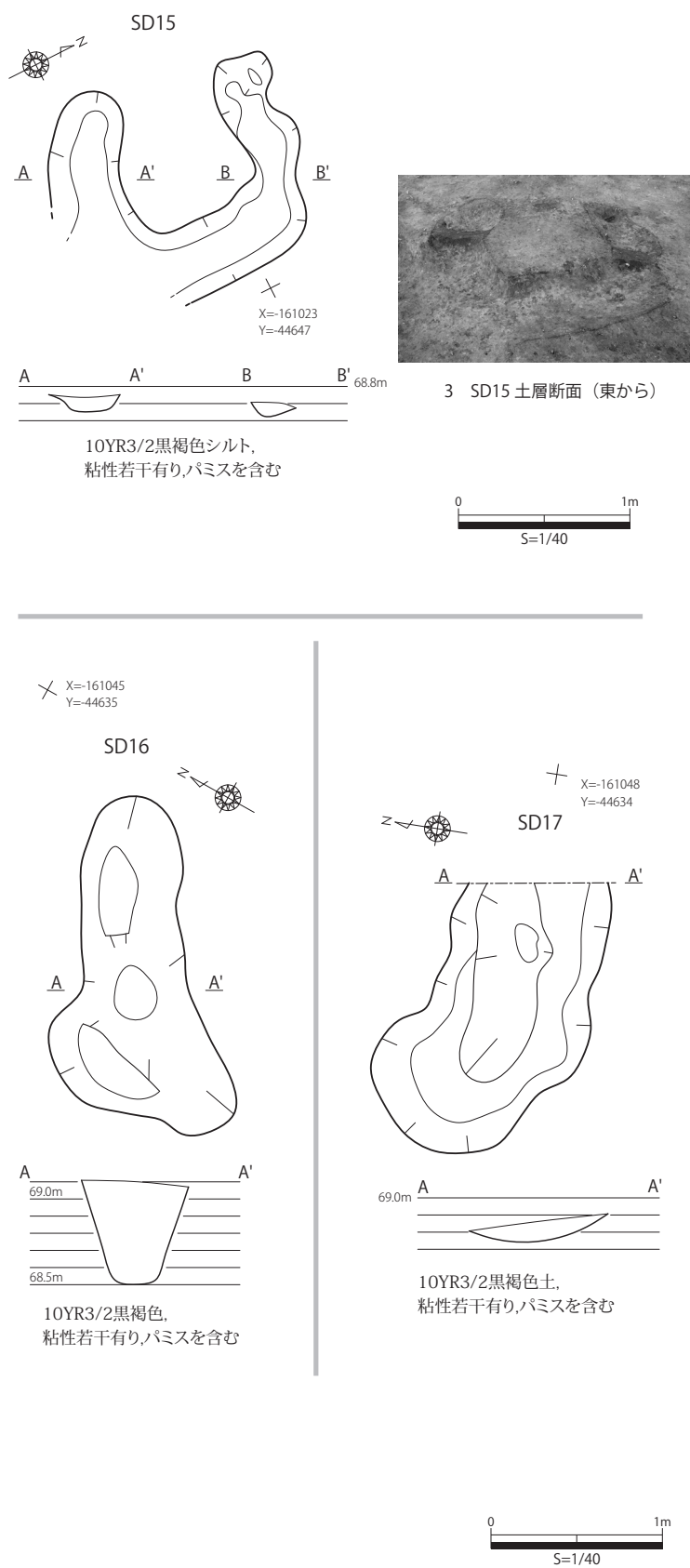
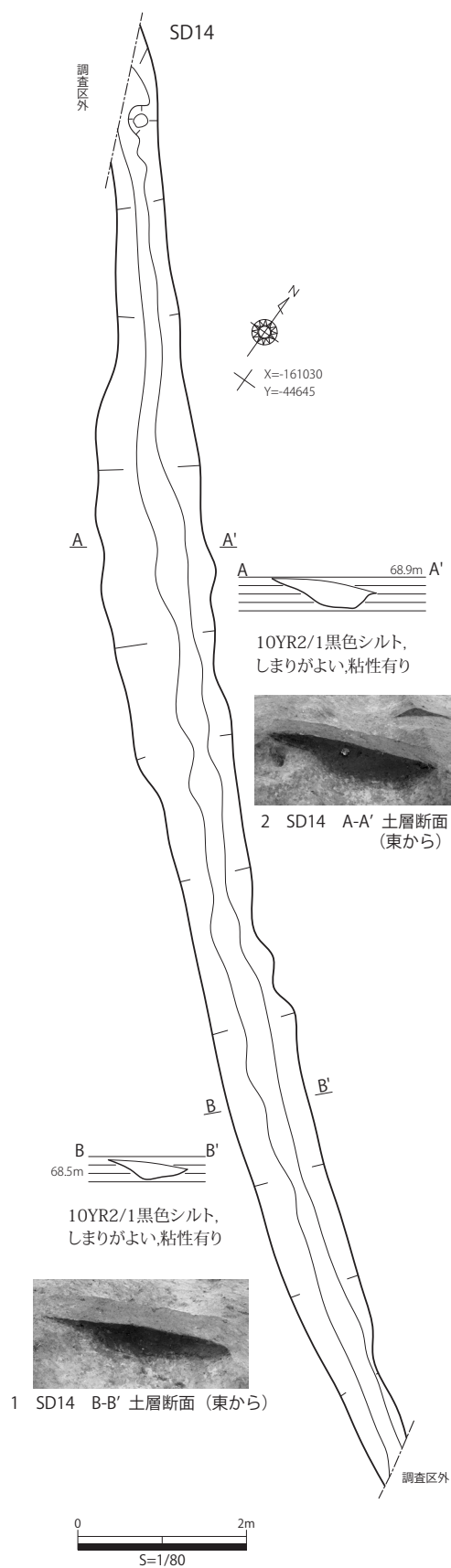


Fig.23 3層上面検出遺構 (2) SD14 : S=1/80 他 : S=1/40

PL.15 3層上面検出遺構断面 (2)

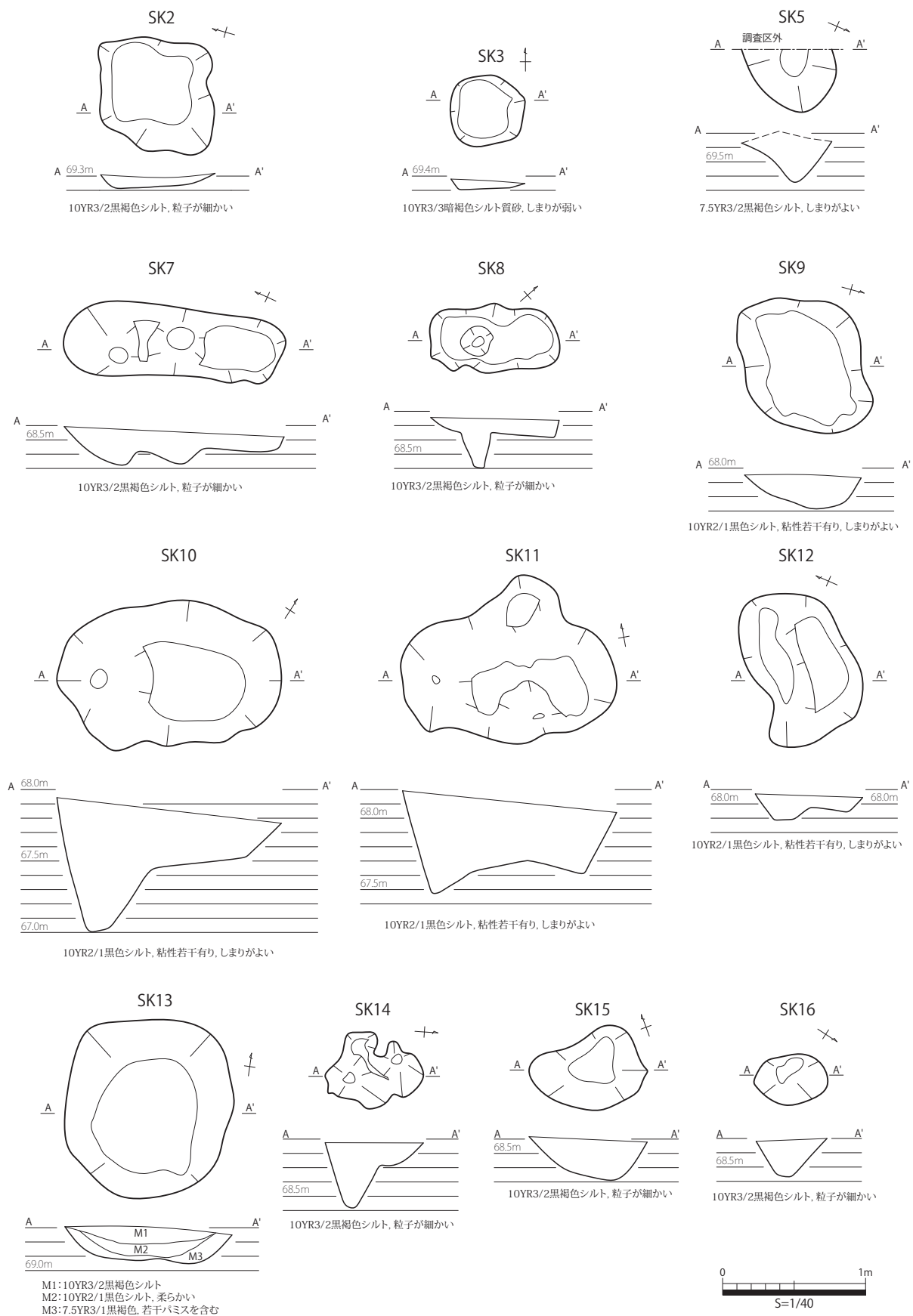


Fig.24 3層上面検出遺構 (3) S=1/40

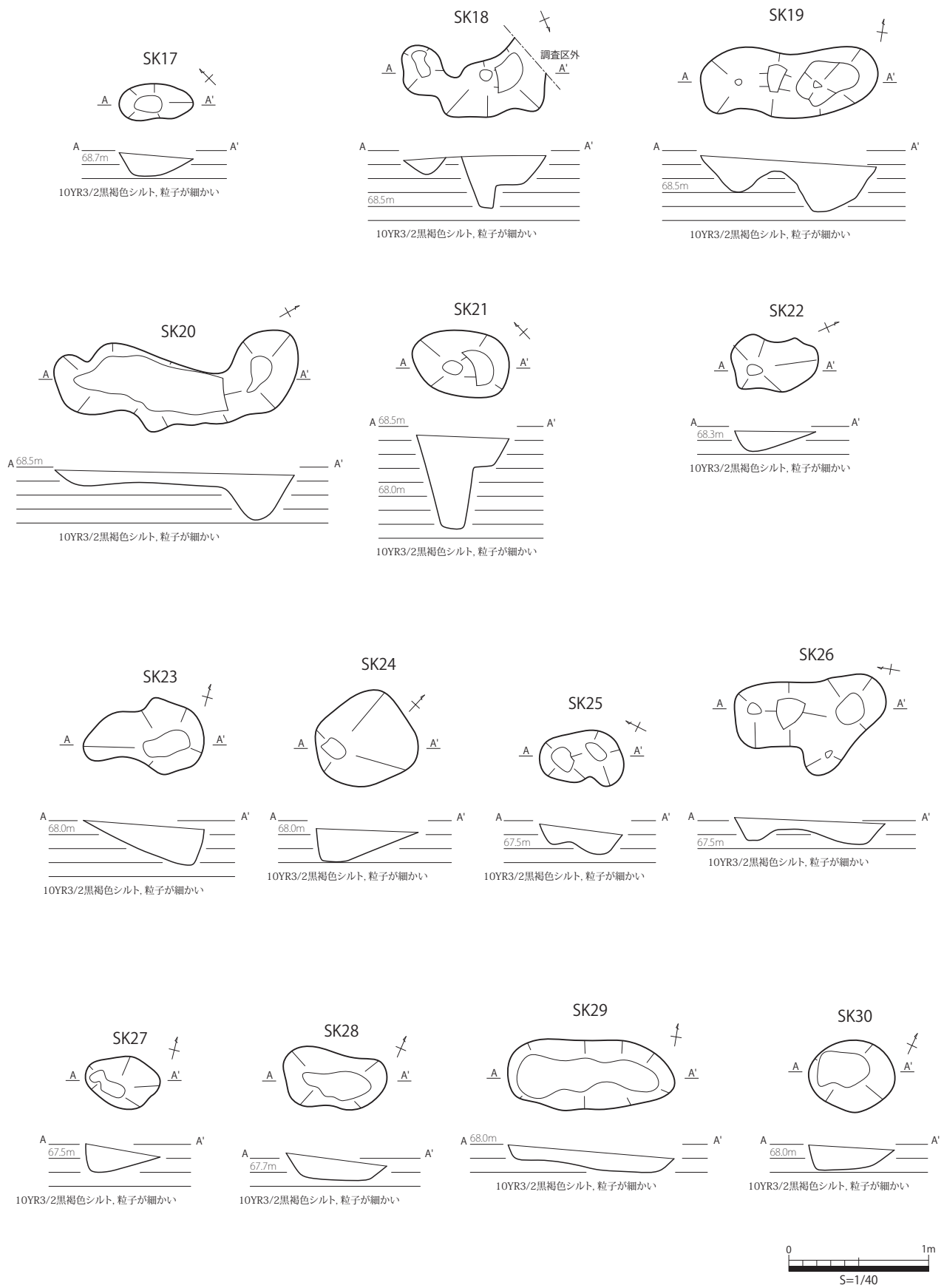


Fig.25 3層上面検出遺構 (4) S=1/40



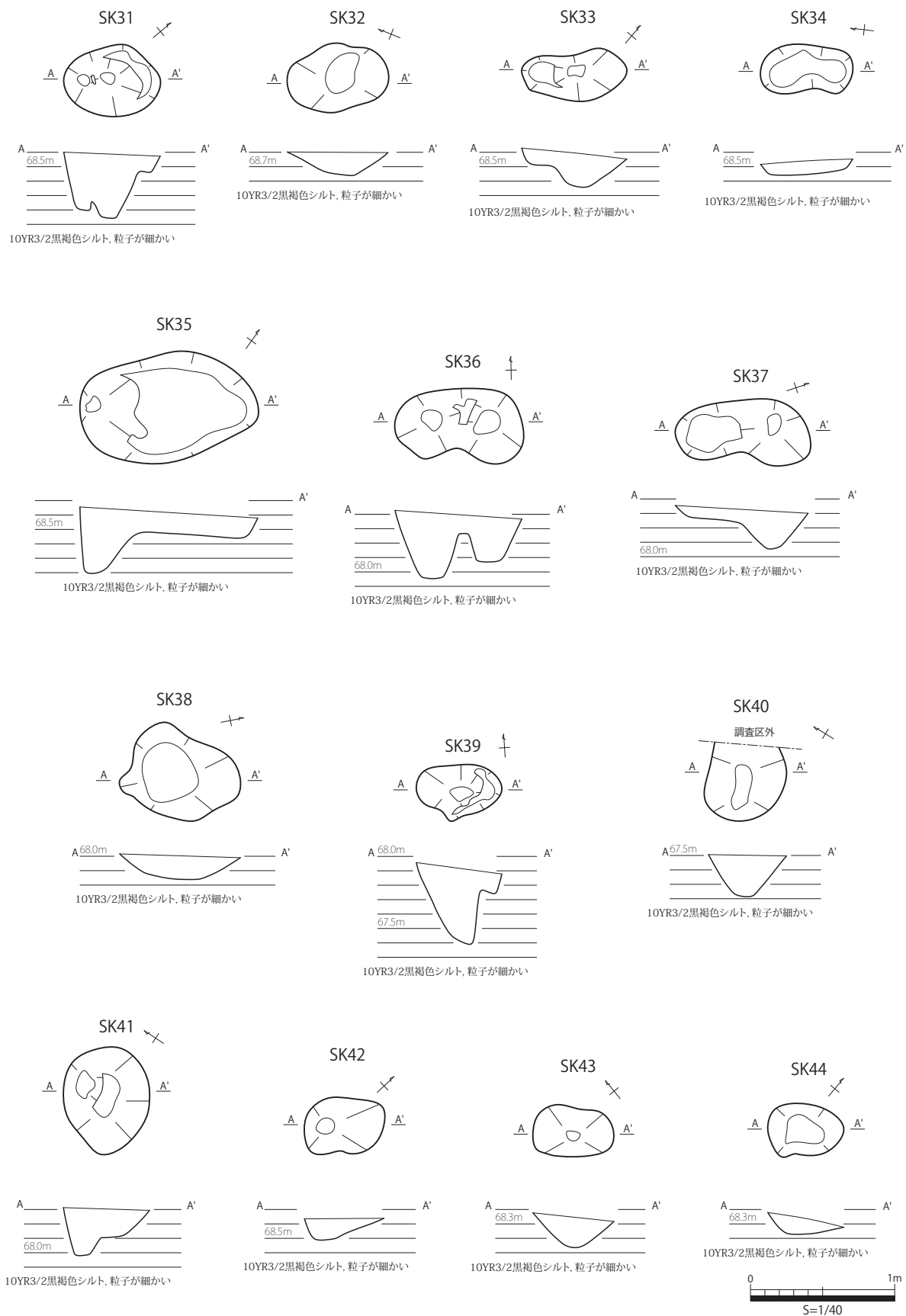


Fig.26 3層上面検出遺構(5) S=1/40

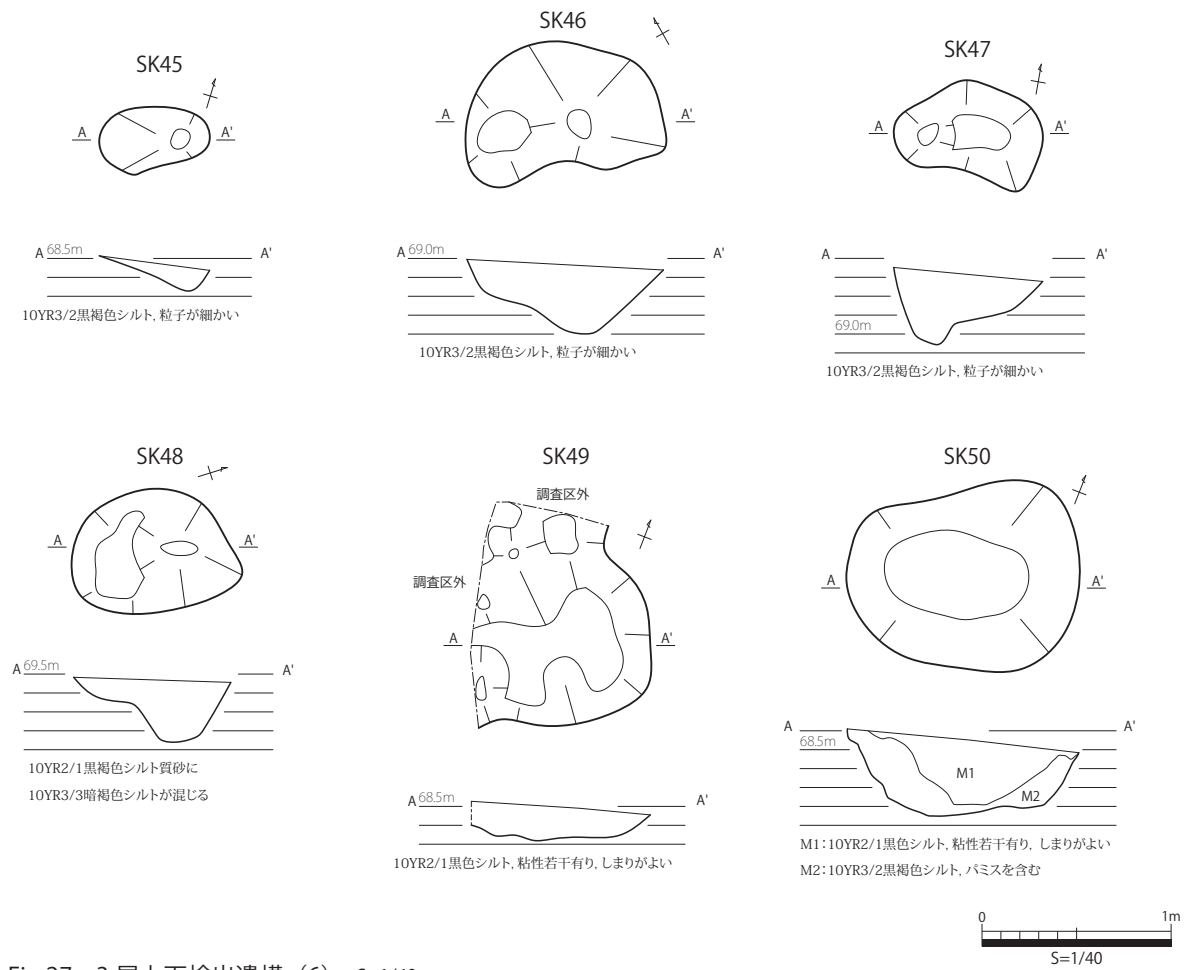


Fig.27 3層上面検出遺構 (6) S=1/40



1 SK49 (東から)



2 SK49 土層断面 (南から)



3 SK50 (東から)



4 SK50 土層断面 (南から)



5 SK49・50 完掘状況 (東から)

PL.16 3層上面検出遺構



1 SD14 検出状況（東から）



2 3層上面遺構群検出状況（1）（北から）



3 3層上面遺構群検出状況（2）（南から）



4 3層上面遺構群検出状況（3）（北から）



5 SK4（欠番）・5（正面左）検出状況（南から）



6 SD5 検出状況（東から）



7 SD12・SK2 検出状況（北から）



8 SK51 検出状況（埋土中央は P51）（西から）

PL.17 3層上面及び3層中検出遺構





1 SD14 完掘状況（東から）



2 3層上面検出遺構群完掘状況（1）（東から）



3 3層上面検出遺構群完掘状況（2）（東から）



4 SK2 完掘状況（東から）



5 SK3 完掘状況（東から）



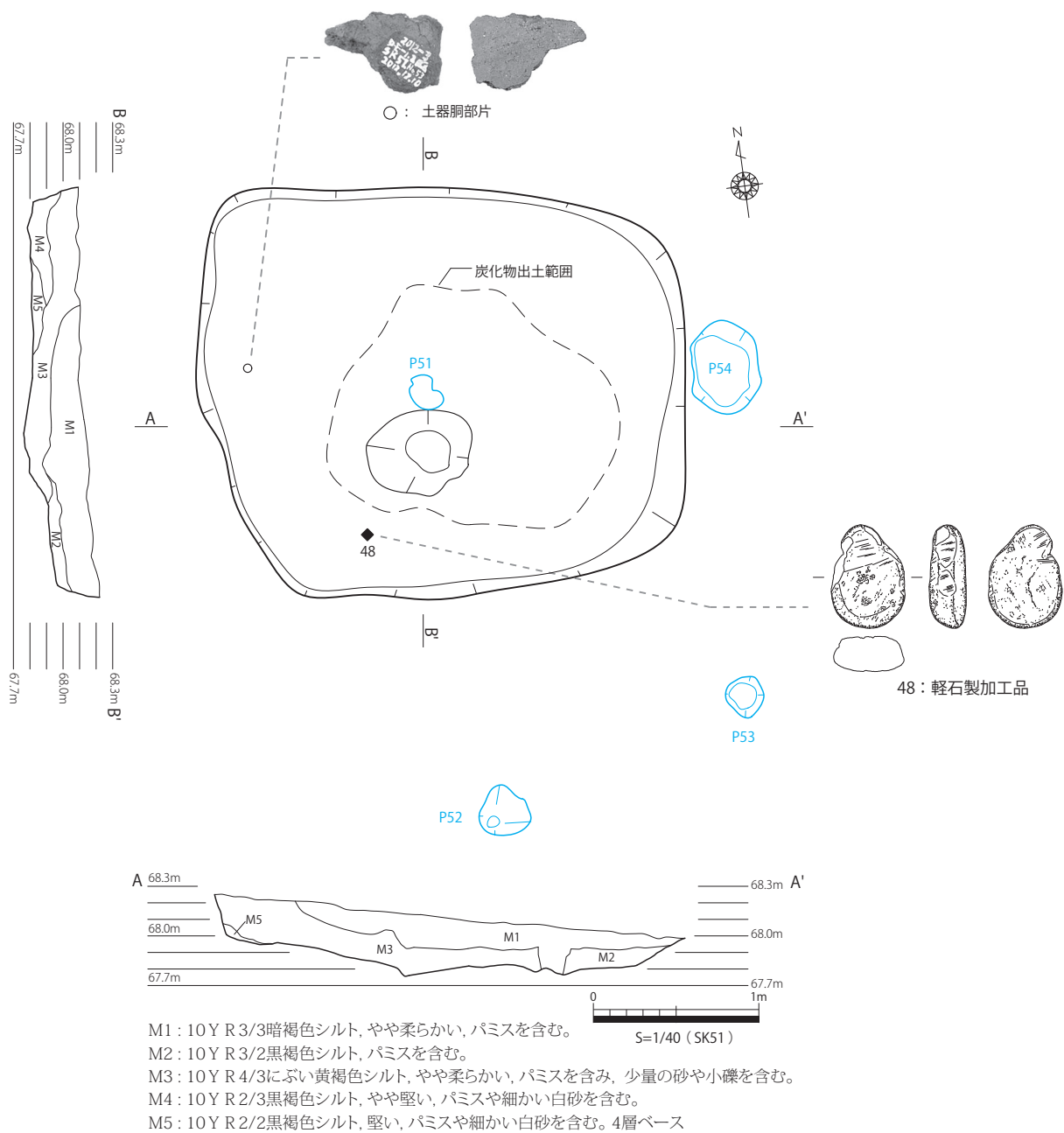
6 SK5 完掘状況（東から）



7 磨製石斧（No.45）出土状況

PL.18 3層上面検出遺構及び遺物出土状況





1 軽石加工品出土状況及びベルト東壁土層 ( B-B' )



2 SK51 及び周辺ピット群完掘状況 (北東から)

Fig.28 土坑状遺構 51 (SK51) S=1/40

PL.19 土坑状遺構 51 (SK51)

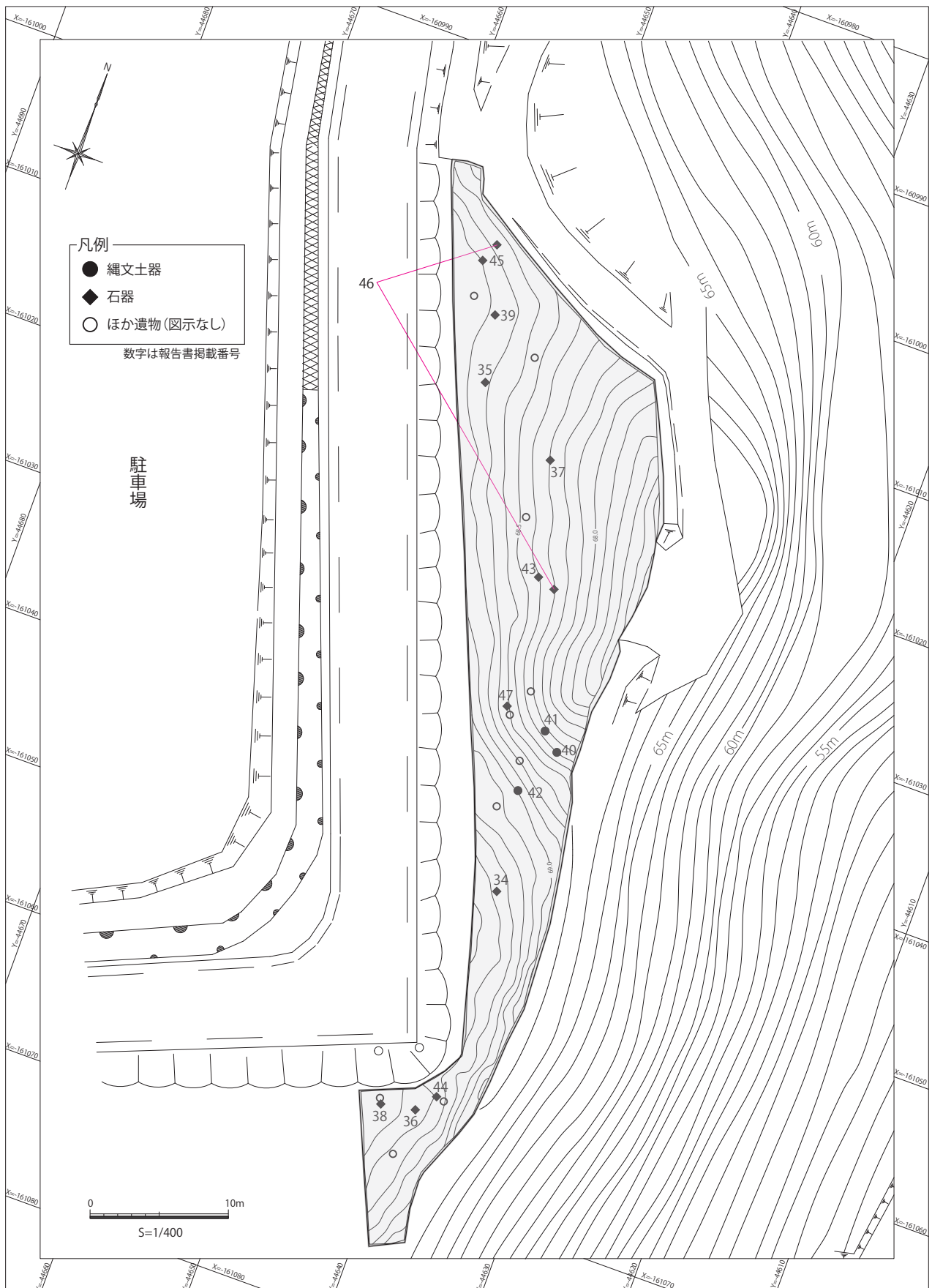


Fig.29 3層遺物分布図 S=1/400

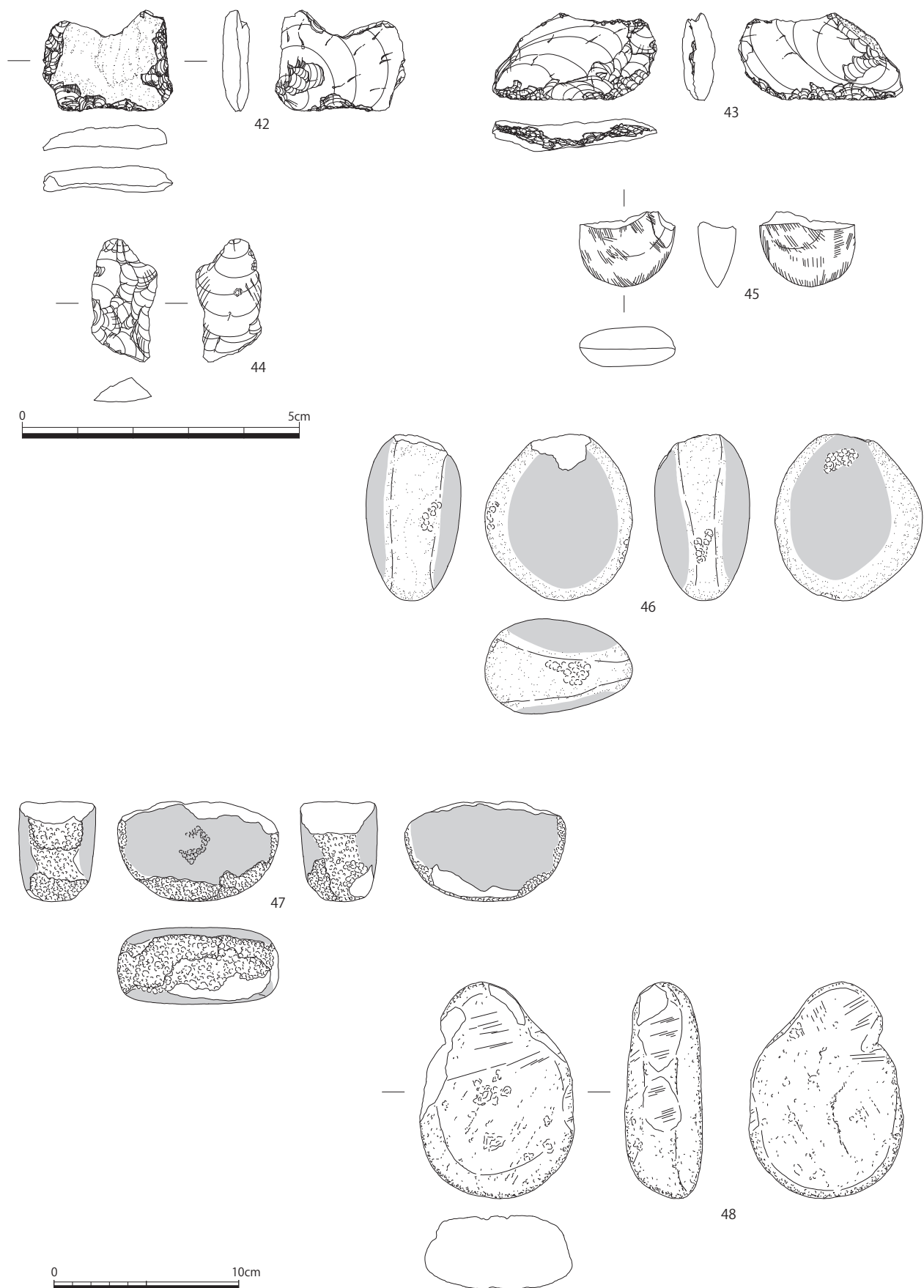
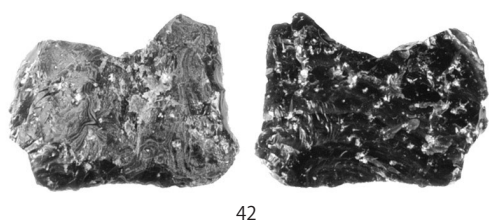


Fig.30 層位横転内 3 層・3 層中検出土坑状遺構内出土遺物

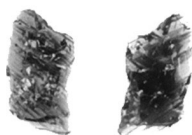
44 : S=1/1 他は 1/3



42



43



44



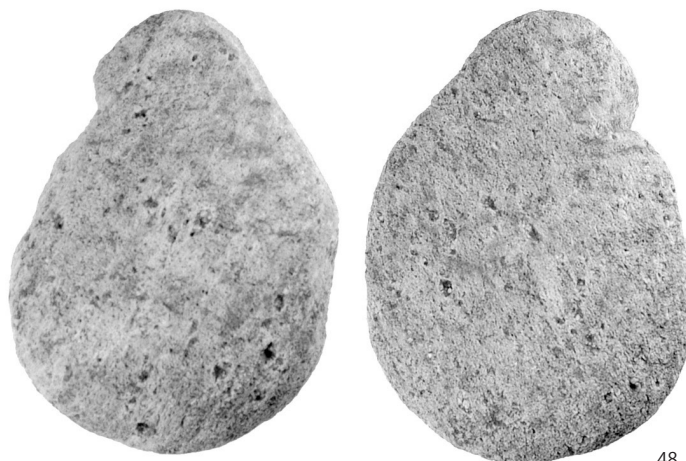
45



46



47



48

PL.20 層位横転内 3 層・3 層中検出土坑状遺構内出土遺物



4 層上面は西側から東側へ傾斜しており、東側は谷状の地形を呈する。調査区東端より先はすぐに急峻な崖となっている。4 層上面では層位横転のみ検出されており、基本的に調査区全体にわたって確認されている。なお、4 層上面においては層位横転の範囲のみ測量を行っており、遺構番号などは付していない。

#### 第Ⅳ節 4 層の成果

##### (1) 4 層出土遺物 (Fig.32・33, PL.21)

4 層では縄文土器のみが出土したが、総数は多くない。以下、図示したものについて説明する。

49 は縄文時代早期の変形撚糸文土器の深鉢胴部である。中央付近でゆるく外反する。50・51 は縄文時代早期の扁平式土器の深鉢胴部である。外面には貝殻条痕文が施されている。50 の内面は横方向のケズリが施されている。51 の内面は摩滅のため不明瞭である。

##### (2) 5 層上面検出遺構と層位横転 (Fig.34～38, PL.23・24)

5 層上面では土坑状遺構 29 基、ピット 14 基、層位横転を 25 ケ所検出した。

###### 土坑状遺構 (Fig.36・37, PL.24)

土坑状遺構は SK52～SK80 (SK61 欠番) を検出した。形状は円形や楕円形その他、不定形のものも多い。断面形状もさまざまである。埋土は大体 3 通りに分けられる。4 層土をベースとする黒褐色シルト土、3 層と 4 層の混土であるにぶい黄褐色土、そしてパミスを含む灰黄褐色のシルト混じりの粗砂である。これら埋土の内、4 層土をベースとする SK57 からのみ遺物が出土しており、縄文時代早期の変形撚糸文土器の胴部小片と思われる。SK57 は平面形状が 137 × 97cm の楕円形に近く、検出面からの深さは 23cm をはかる。底面は平坦な面が 70 × 50cm 程度の範囲で広がっている。遺構内より他に出土及び検出したものはない。土坑状遺構のうち、埋土から考えると 4 層土がベースとして堆積している土坑状遺構がもっとも人為的な所産に近いと考えられるが、平面及び断面形状を見ると遺構として安定しているものは多くはなく、現状形態以外で判断する材料はほとんどない。

###### ピット (Fig.34・35)

ピットは P55～68 を、B～F 区にかけて検出した。深さは 4～42cm 程度とまちまちである。杭列や掘立柱建物跡などと考えられる配列は確認されなかった。

###### 層位横転 (Fig.38, PL.23・24)

層位横転は 3 層のアカホヤの堆積によって生じており、横転部内には 3～5 層まで含まれているが、5 層上面が最も浅くなり、各層が検出しやすいため、この面での確認及び断面断割りなどを行っている。なお、調査区壁際の横転断面図は、第三章の各該当壁面層位断面図を参照されたい。

##### (3) 5 層上面検出遺構内出土遺物

遺構内出土遺物としては、SK57 から出土した縄文時代早期の変形撚糸文土器の小片のみである。

#### 第Ⅴ節 3・4 層出土礫について

##### (1) 出土礫について

本調査区 3・4 層からは総数にして 200 個程度の礫（径 10cm 以上を対象）が出土しており、礫の構成比率では安山岩が 9 割超となる。これらの礫は、鹿兒島市域で確認される約 3 万年前に発生した始良火砕噴火の噴出物の内、妻屋火砕流堆積物を覆う亀割坂角礫層（入戸火砕流堆積物の石質岩片濃集部）を構成するものと同定されている<sup>1)</sup>。本来 7 層下に含まれる礫が 3・4 層中に出土することからは、シラス台地崖下からの人為的な採取及び運搬が想定される。さらにこれら礫の分布状況や構成比率に、ある一定の偏りなどが見られれば、調査区域における運搬後の人間の行為の所産を検討することができる。よって、以下に礫の分類を行い、礫の分布状況及び遺構（層位横転含む）内外の構成比率の図示・検討を行う。

##### (2) 出土礫の分類

安山岩が全体の 9 割超を占めるが、以下に 4 通りの分類を行う。他に、溶結凝灰岩、泥岩、黒曜岩を分類に加える。

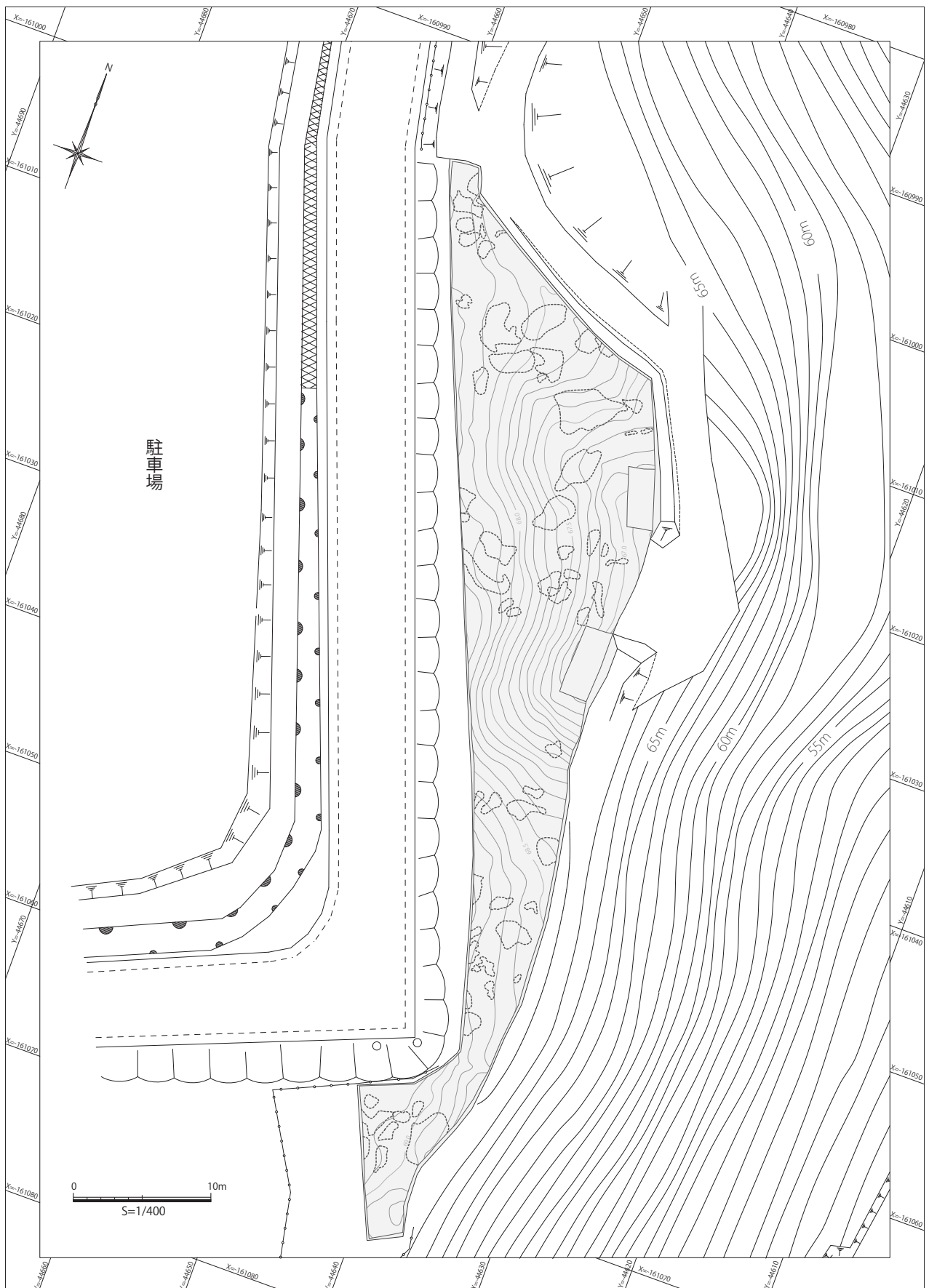


Fig.31 4層上面検出層位横転配置図 S=1/400

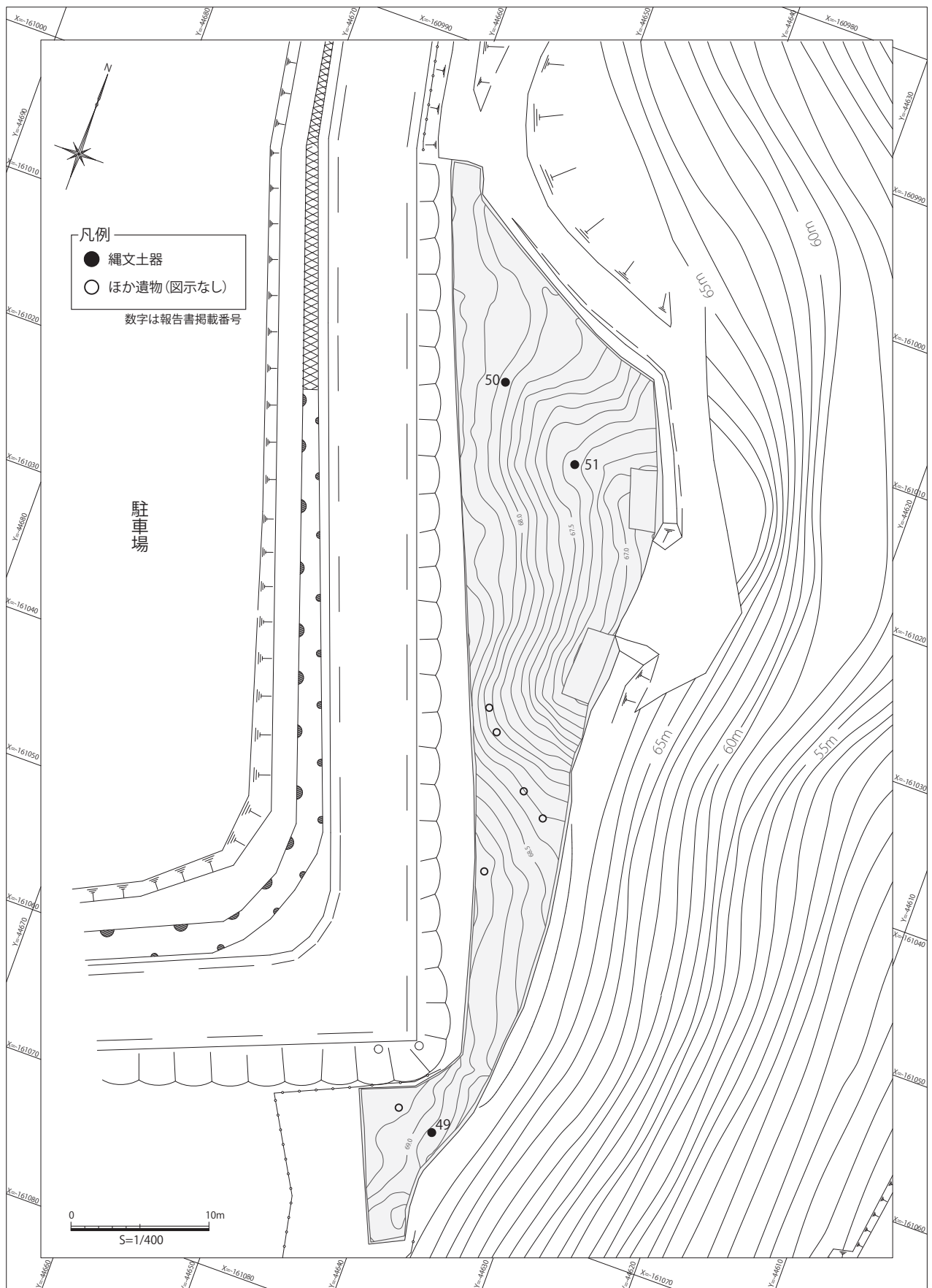


Fig.32 4層出土遺物分布図 S=1/400

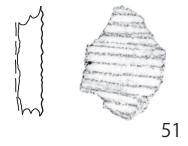
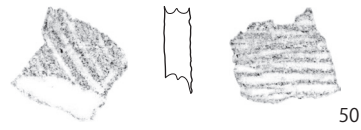
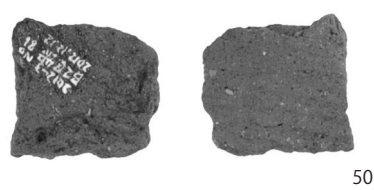


Fig.33 4層出土遺物 S=1/3



PL.21 4層出土遺物



1 4層上面検出状況 (1) (北から)



2 4層上面検出状況 (2) (南から)



3 4層上面検出状況 (3) (東から)



4 4層上面検出状況 (4) (東から)

PL.22 4層上面検出状況



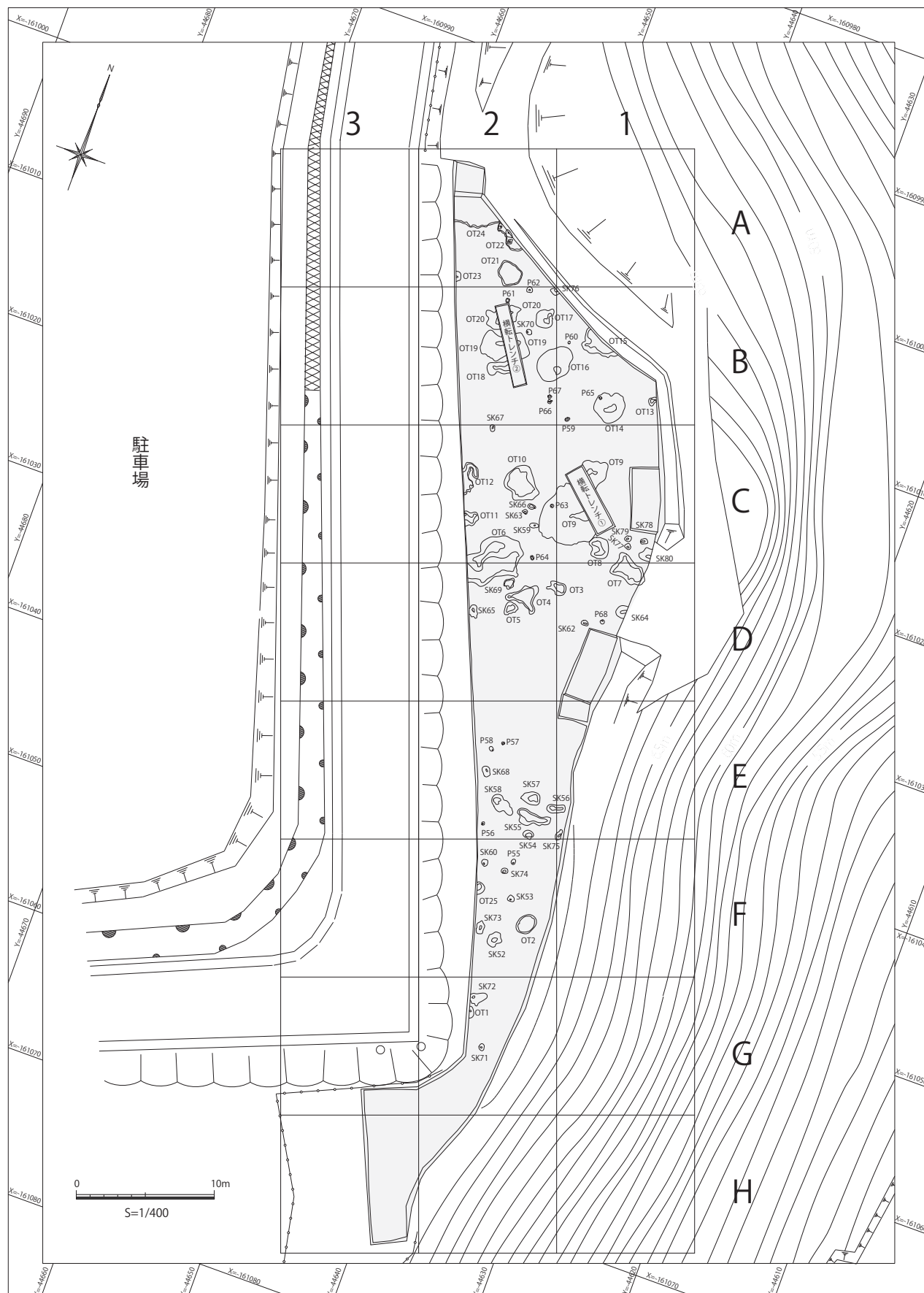


Fig.34 5層上面検出遺構配置図 (1) S=1/400

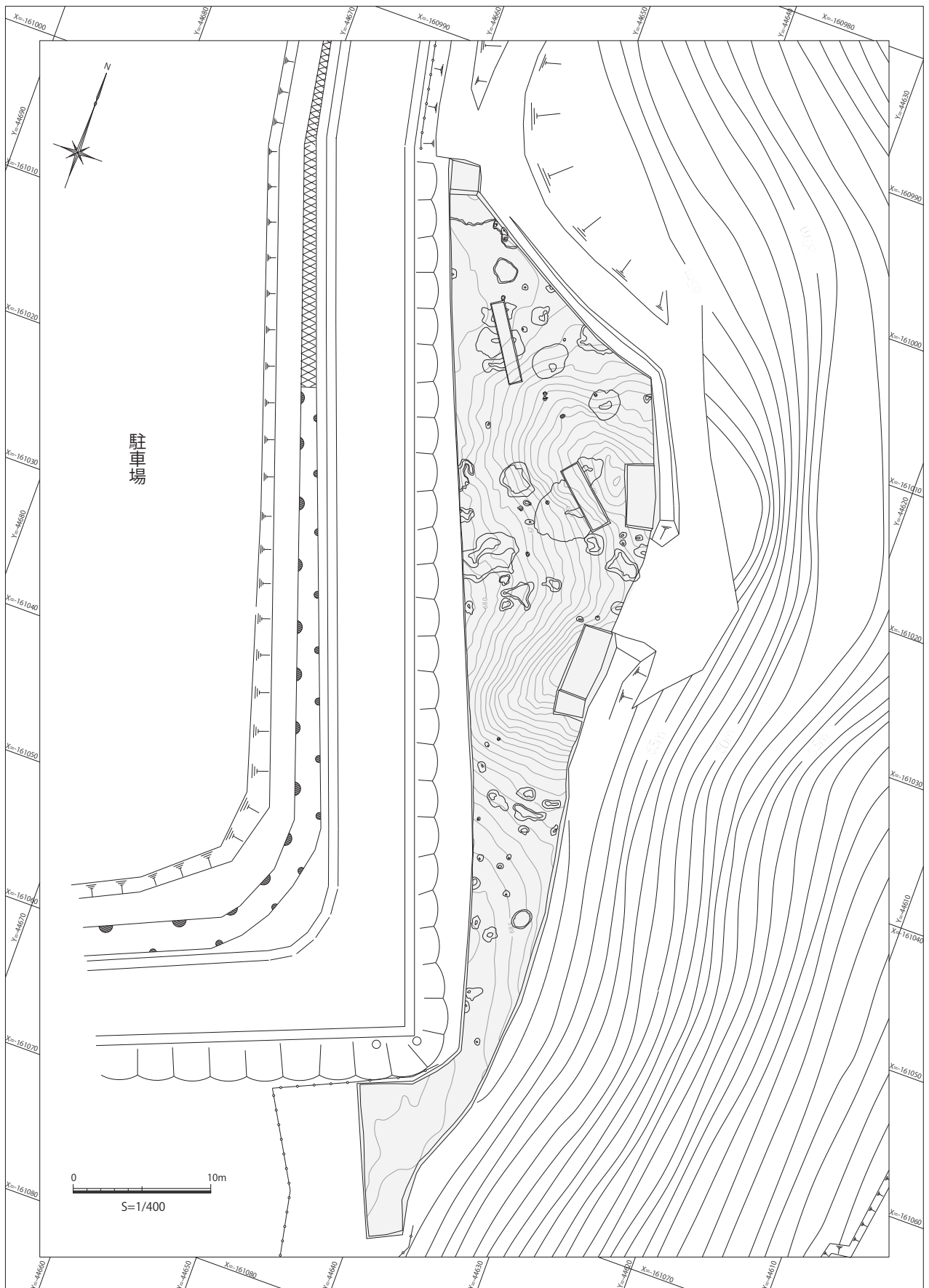


Fig.35 5層上面検出遺構配置図(2) S=1/400

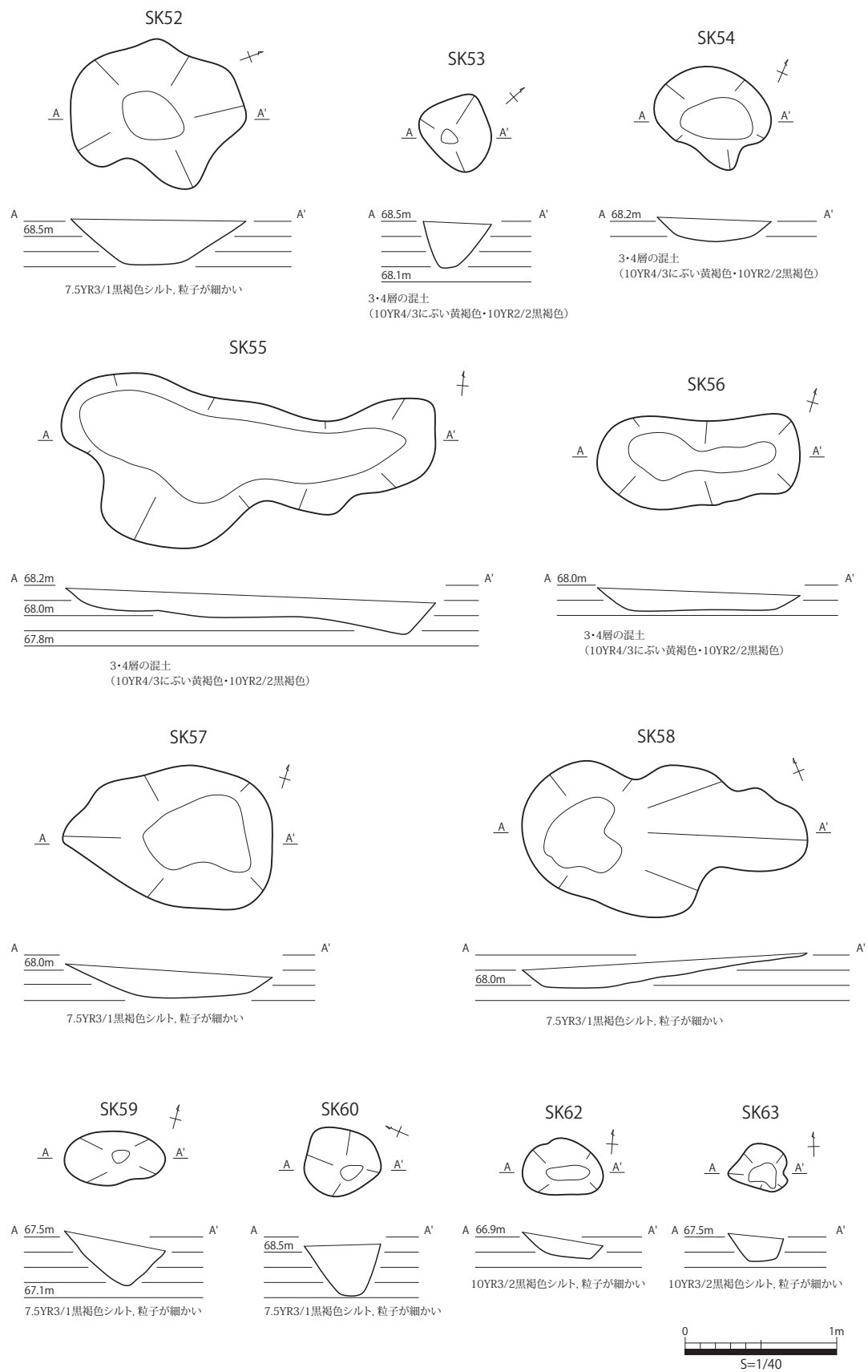


Fig.36 5層上面検出遺構(1) S=1/40

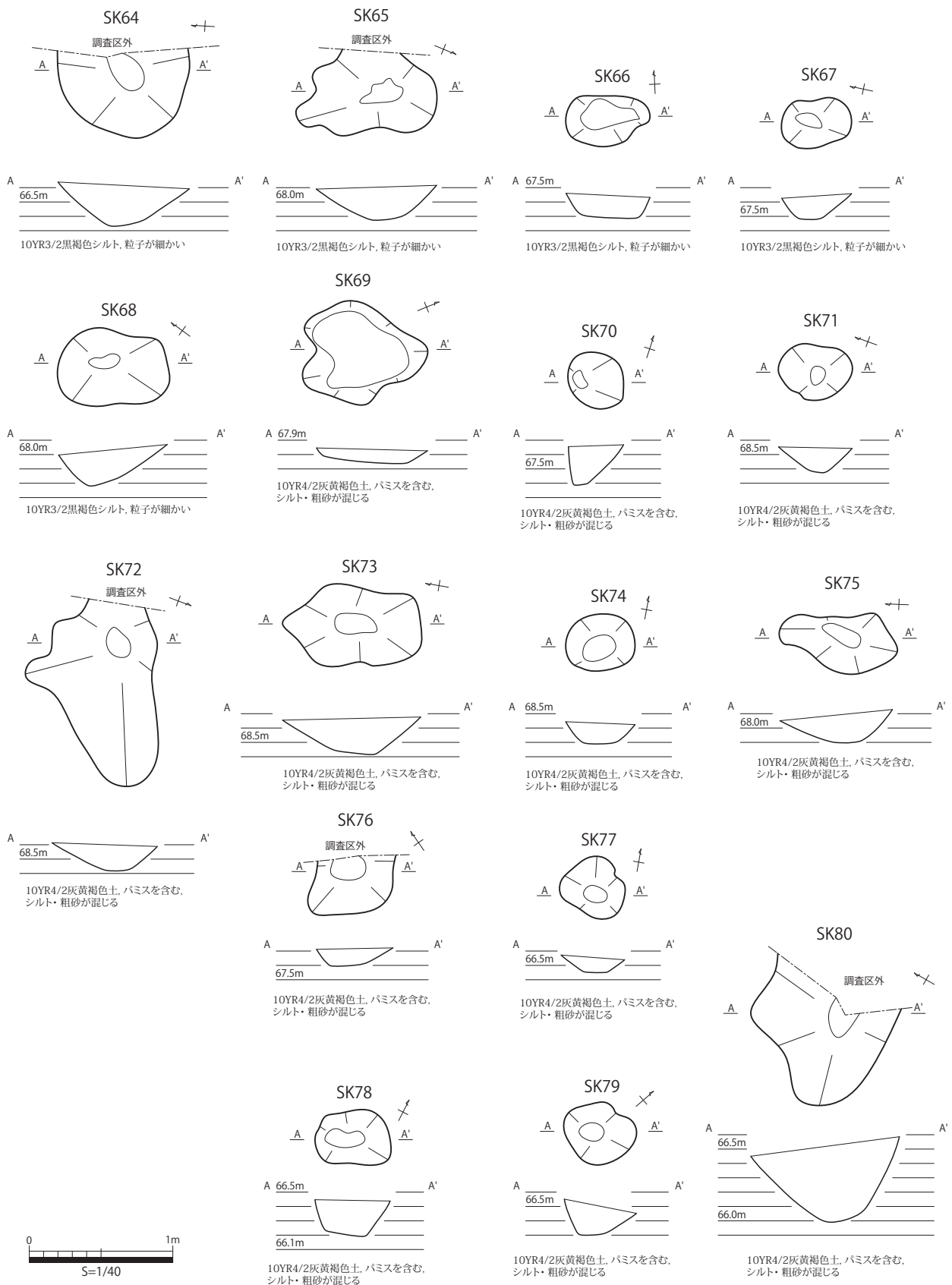
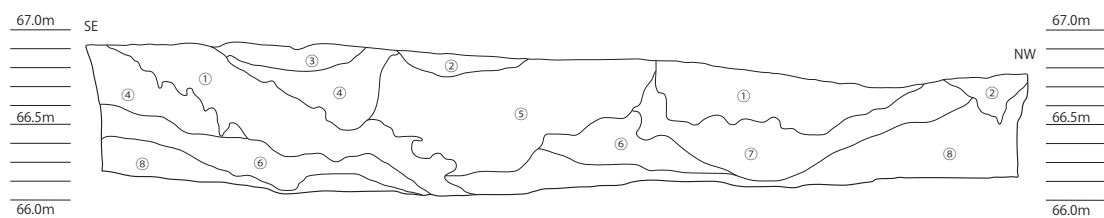


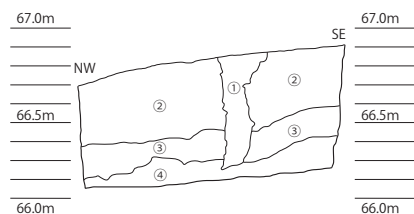
Fig.37 5層上面検出遺構(2) S=1/40





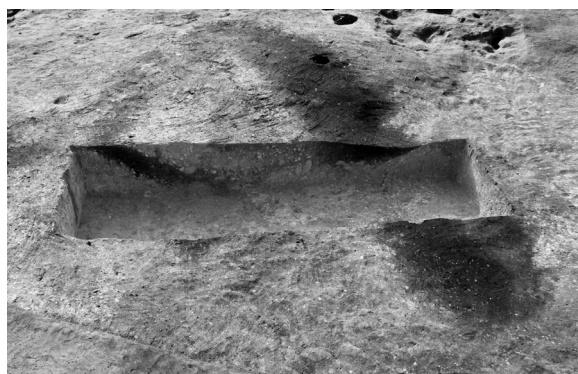
南西壁土層断面図

- ① 10YR2/2黒褐色シルト, パミスを含む。
- ② ①に類似, パミスを①より多く含む。
- ③ 10YR7/8黄橙色, シルト・粗砂が混じる。
- ④ 7.5YR4/6褐色土, パミスを含む, 粗砂が混じる, 脆い。
- ⑤ 10YR5/4にぶい黄褐色土, パミスを含む, シルト・粗砂が混じる。
- ⑥ 5YR5/3にぶい赤褐色土, 粗砂が混じる。
- ⑦ 10YR4/2灰黄褐色土, パミスを含む, シルト・粗砂が混じる。
- ⑧ 10YR明黄褐色土に10YR4/2灰黄褐色土が混じる, パミスを含む, 粗砂が混じる。



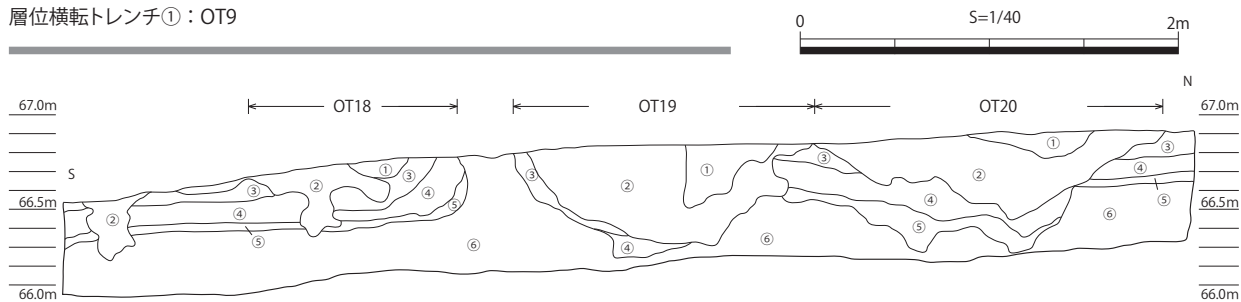
北東壁土層断面図

- ① 7.5YR3/2黒褐色シルト, 柔らかい。
- ② 7.5YR4/6褐色土, パミスを含む, 粗砂が混じる, 脆い。
- ③ 5YR5/3にぶい赤褐色土, 粗砂が混じる。
- ④ 10YR明黄褐色土に10YR4/2灰黄褐色土が混じる, パミスを含む, 粗砂が混じる。



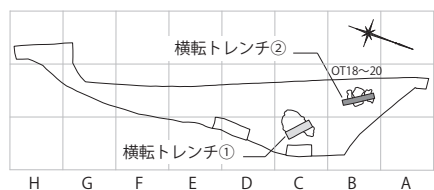
1 OT9：層位横転トレンチ①南西壁

層位横転トレンチ①：OT9



東壁土層断面図

- ① 10YR5/6黄褐色シルト, 粒子が細かく, しまりがよい。
- ② 10YR2/2黒褐色シルト, パミスや細かい白粒子を含む。
- ④ 7.5YR4/6褐色土, パミスを含む, 粗砂が混じる, 脆い。
- ③ 10YR7/8黄橙色シルト, 粗砂が混じる。
- ⑤ 5YR5/3にぶい赤褐色土, 粗砂が混じる。
- ⑥ 10YR明黄褐色土に10YR4/2灰黄褐色土が混じる, パミスを含む, 粗砂が混じる。



層位横転トレンチ②：OT18～20



2 OT18～20：層位横転トレンチ②東壁土層

Fig.38 5層上面検出層位横転断面図 S=1/40

PL.23 層位横転トレンチ壁面



1 5層上面検出状況(1)(北から)



2 5層上面検出遺構群・層位横転完掘状況(1)(北から)



3 5層上面検出状況(2)(南から)



4 5層上面検出状況(3)(南から)



5 5層上面検出遺構群・層位横転完掘状況(2)(南から)



6 OT9検出状況(東から)



7 OT18~20検出状況(北から)



8 層位横転群検出状況(南から)



9 OT9:層位横転トレンチ①北東壁



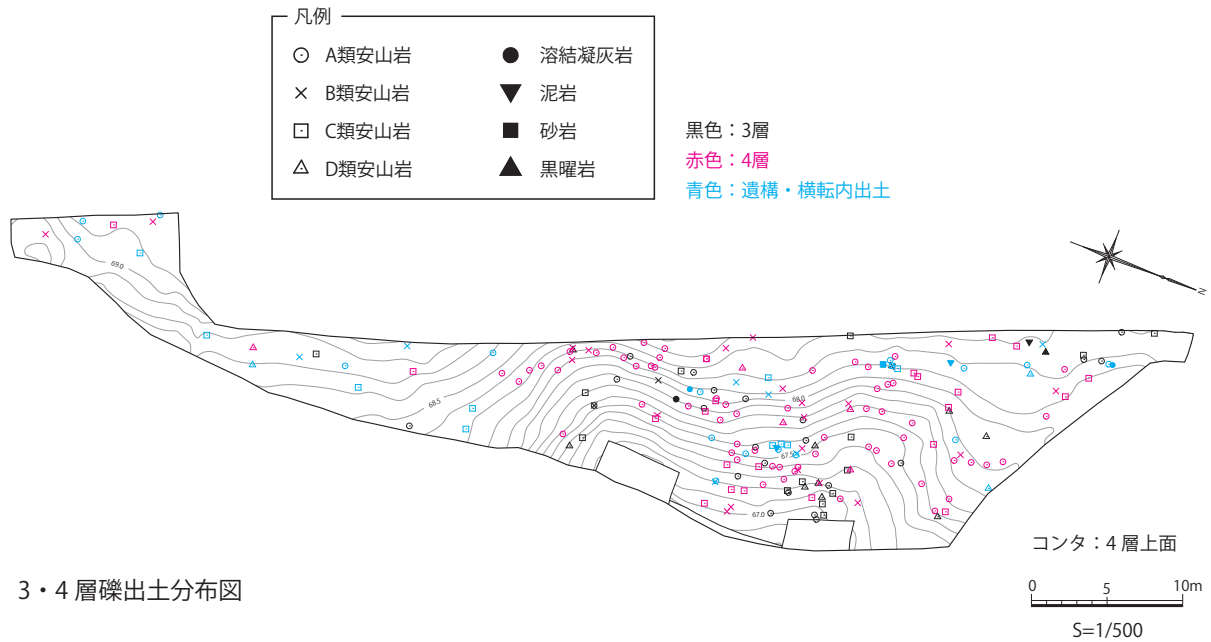
10 OT9完掘状況(1)(東から)



11 OT9完掘状況(2)(北から)

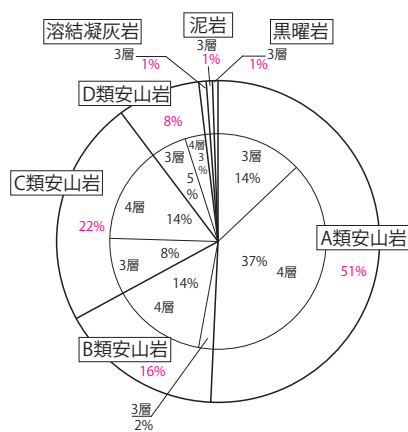
PL.24 5層上面検出状況及び完掘状況



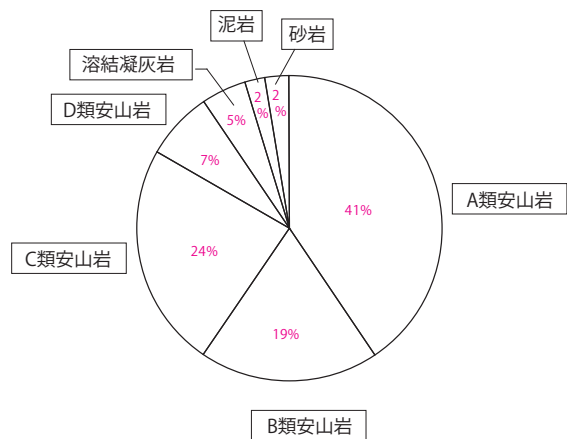


3・4層礫出土分布図

遺構・横転外出土礫構成比率グラフ



遺構・横転内出土礫構成比率グラフ



A類安山岩	3層	22個	82個
	4層	60個	
B類安山岩	3層	3個	24個
	4層	21個	
C類安山岩	3層	14個	36個
	4層	22個	
D類安山岩	3層	9個	14個
	4層	5個	
溶結凝灰岩	3層	1個	小計
泥岩	3層	1個	
黒曜岩	3層	1個	
総数		159個	

A類安山岩	17個
B類安山岩	8個
C類安山岩	10個
D類安山岩	3個
溶結凝灰岩	2個
泥岩	1個
砂岩	1個
総数	42個

Fig.39 3・4層出土礫分布図及び遺構内外構成比率グラフ

## 安山岩

A 類…ガラス質部分が多く緻密で小礫を取り込む。角礫がほとんどであるが、角は鈍いものが多い。黒灰色系。小礫が多い。

B 類…発泡しているため比較的軽く、軽石のような外観のものも多い。円礫状のものが大半を占めている。灰色系。大礫もあるが小礫が多い。

C 類…緻密で比較的重量がある。円礫・角礫ともにある。灰色系。比較的大礫が目立つ。

D 類…C 類が被熱したと考えられるもの。灰赤色系。大礫が目立つ。かなり赤化したものをまとめた。

### (3) 出土礫の検討 (Fig.39)

持ち込まれた安山岩は、小礫主体の A 類が最も多く、次いで大礫が目立つ C 類、そして B 類、D 類の順になる。礫分布図 (Fig.39) を見ると、分類した礫は一ヶ所に集中するということもなく、調査区全体に拡がりを見せていることがわかる。唯一調査区中央東側に礫が集中しそうな箇所があるが、地形図から考えて、谷部への流れ込みと考えるほうが妥当であろう。安山岩は被熱し赤化したものも含まれるため (D 類)、C・D 類は主として調理用に搬入された可能性が高いが、小角礫である A 類や発泡して軽くなった B 類は何の目的で持ち込まれるのかも良く分からない。分布図からは、特に礫群が集中するような箇所も見られず、調査区域に礫を運ぶ以上の人間の行為の痕跡は確認することができない。遺構 (層位横転含む) 内外の 3・4 層出土礫の構成比率のグラフ (Fig.39) でも、構成比率に大きな差はない。結果として、今回の調査範囲においては、礫の分類と出土状況からは、当域への運び込み以上の行為に言及することはできない。しかしながら、意図は不明でありながらも、本来であれば 3・4 層中からは出土しない亀割坂角礫層の礫群が崖上まで持ち込まれ、当該層から多量に出土することは、記録しておいても無意味なことではあるまい。

## 第VI節 6層の成果

6 層では 10 × 10m のグリッドを状況に応じて分割し、小グリッド a ～ j 区を設定、千鳥状に掘下げを行った (Fig.40・41, PL.25)。石器は数点出土したが、遺構は検出されなかった。なお、小グリッド d 区では 7 層を 2m 程掘下げ下層確認を行っている (Fig.12)。

6a 層からはチップが出土しており、6b 層からは細石刃、6c 層からは細石刃核及び剥片が出土している。なお、6d 層からの出土は確認されなかった。

### (1) 6 層出土遺物 (Fig.42 ～ 44, PL.26・27)

6 層からは石器が出土している。f 区で 3 点出土しているほかは散発的に出土しており、数量は少ない。以下、図示したものについて説明する。

52 は三船産黒曜石製の細石刃核である。打面転移が見られる。53 は腰岳産黒曜石製の細石刃である。頭部及び尾部が切断されている。54 は腰岳産黒曜石製の剥片である。形状から細石刃核から剥離された打面再生剥片か作業面再生剥片であると思われる。55・56 はチップである。55 は桑ノ木津留産黒曜石に類似し、56 は上牛鼻産黒曜石である。



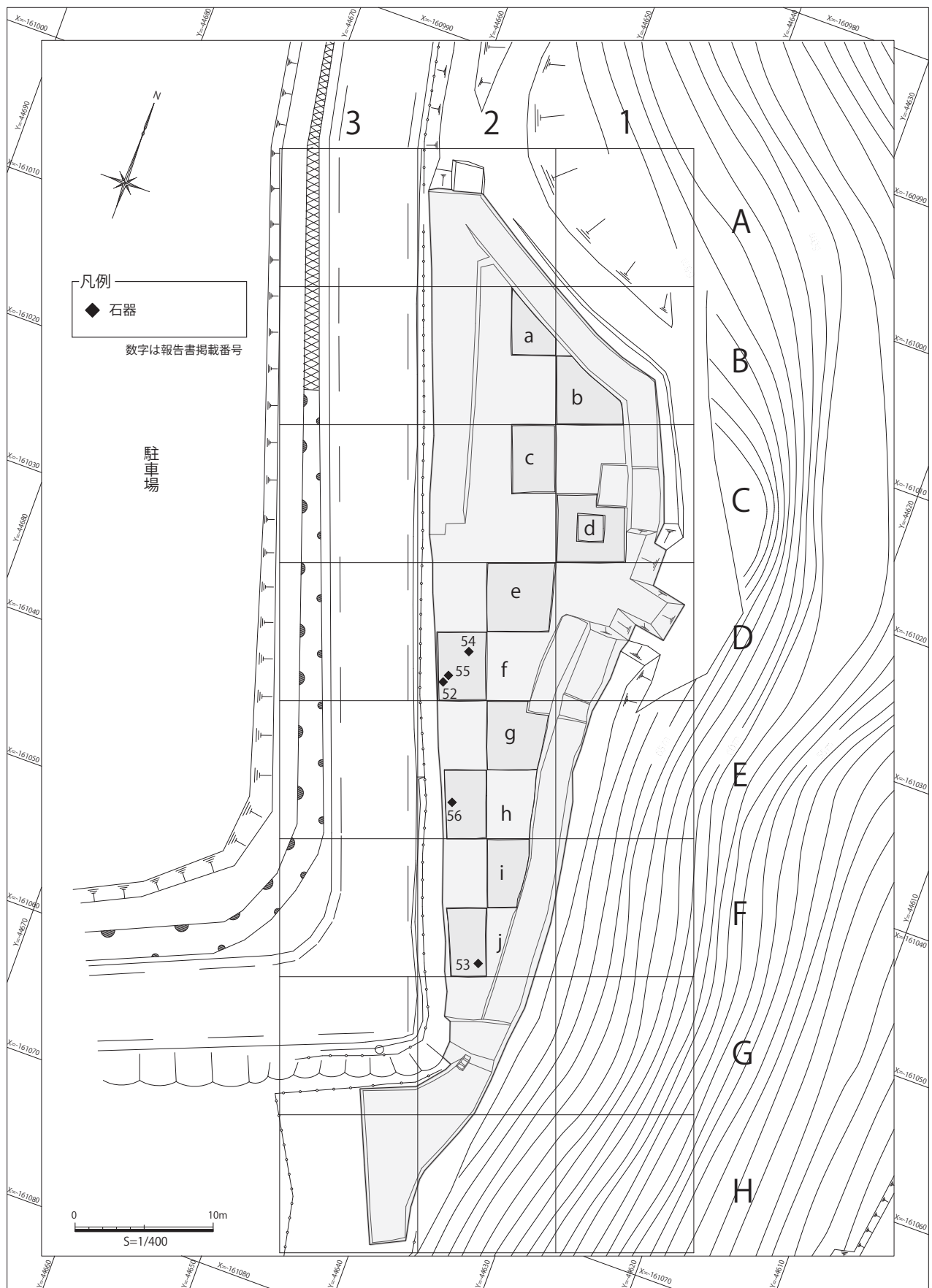
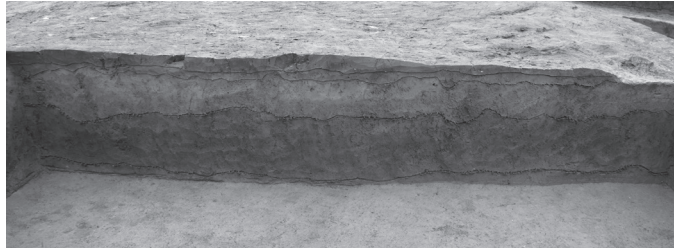
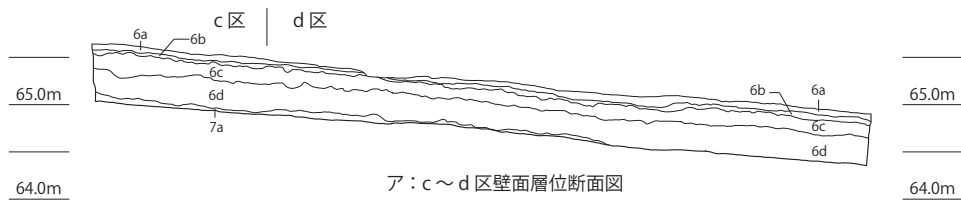
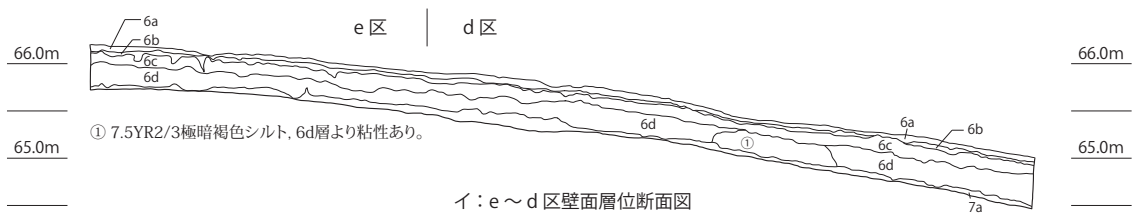


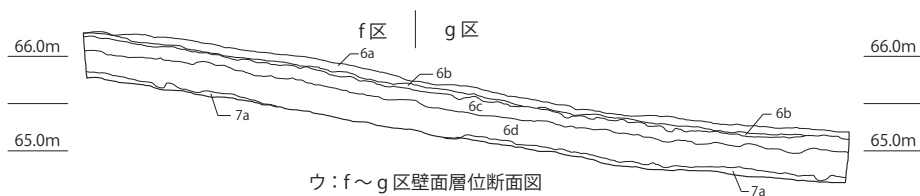
Fig.40 6層小グリッド配置図 S=1/400



1 c区北壁



2 d区壁面



3 f区壁面



4 g区壁面

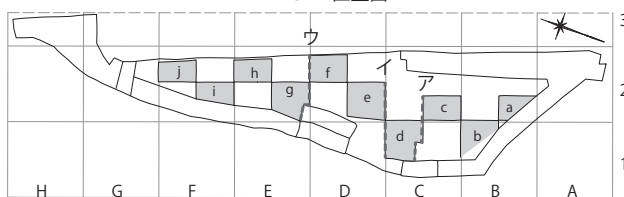
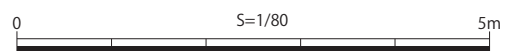


Fig.41 6層小グリッド層位断面図 S=1/80



PL.25 6層小グリッド壁面

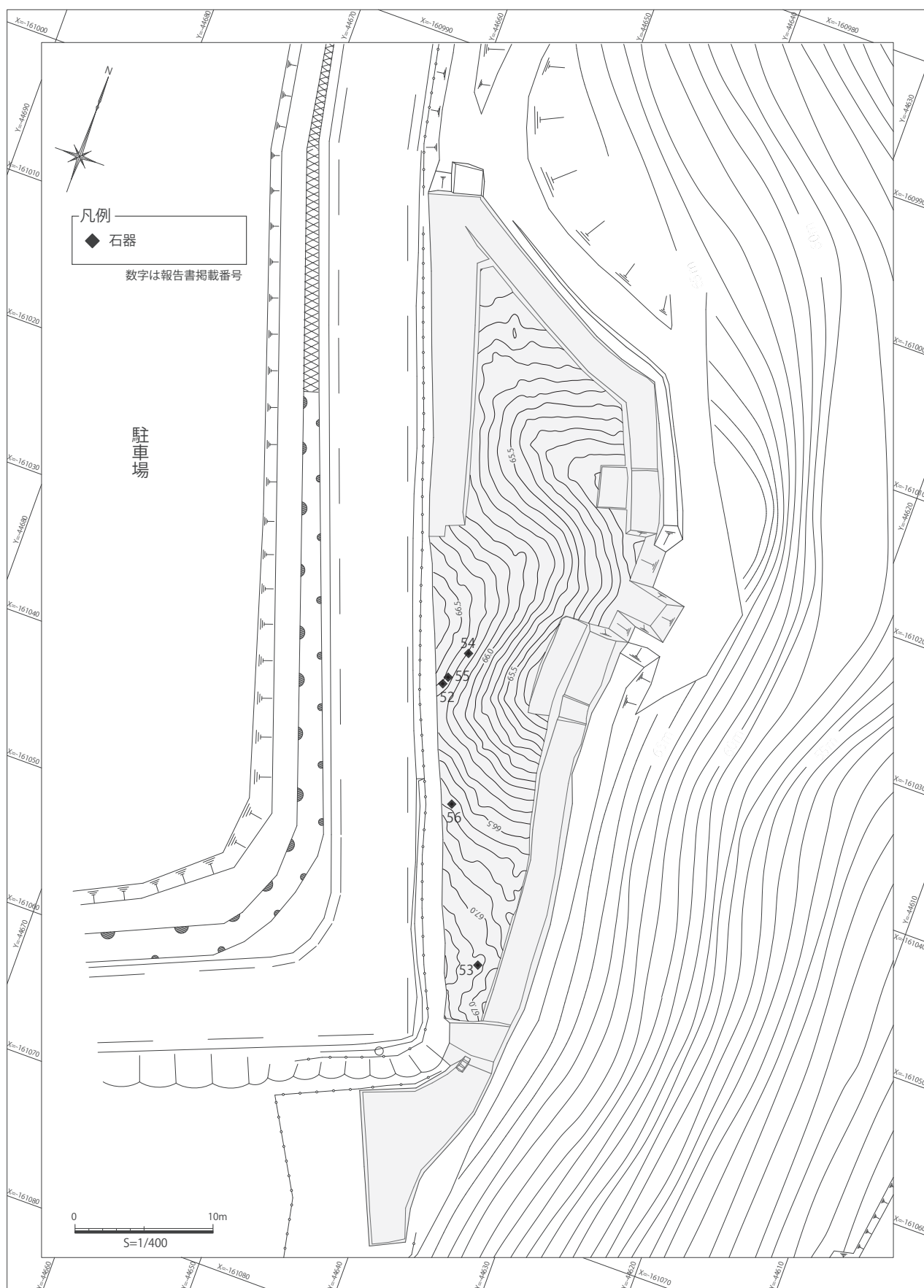


Fig.42 6層遺物分布図 S=1/400

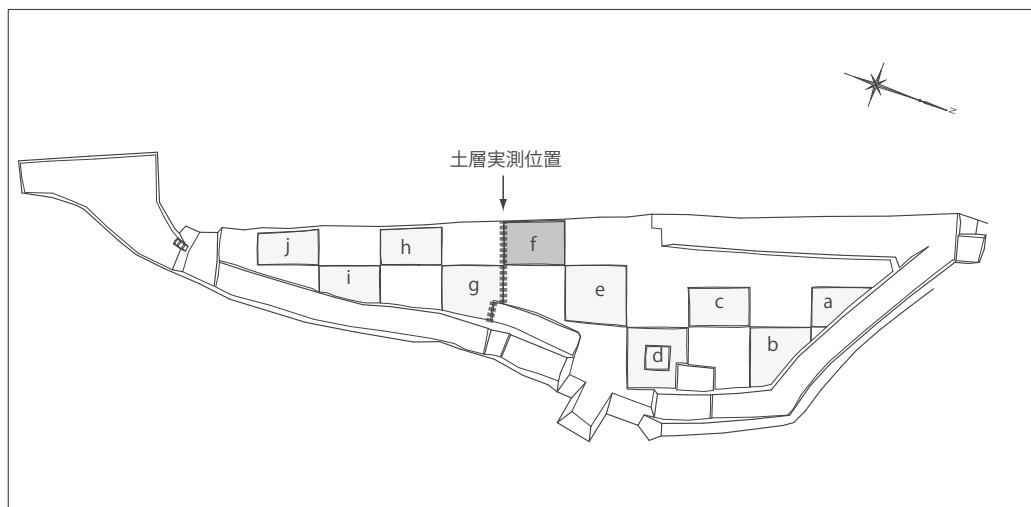
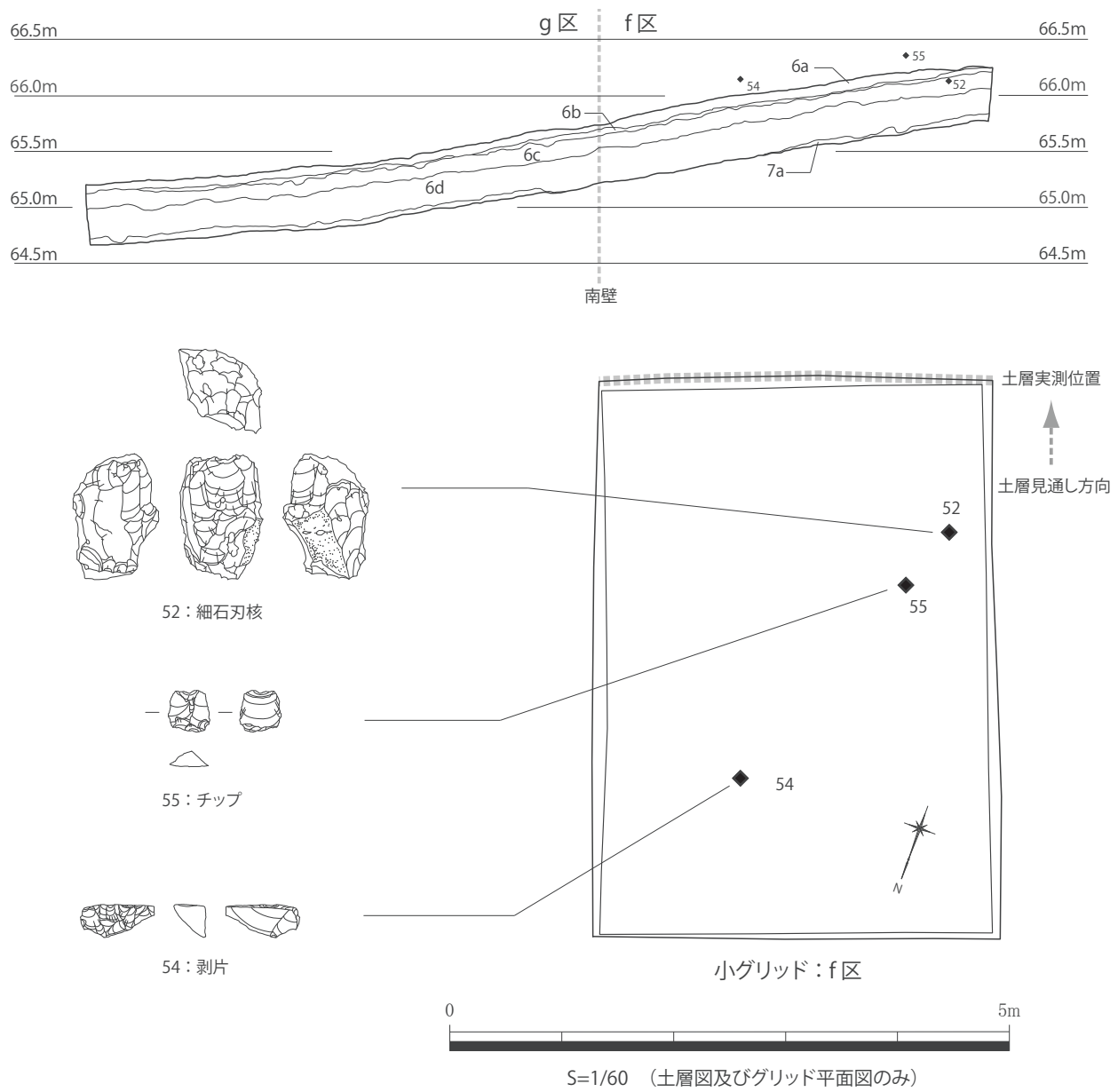


Fig.43 6層小グリッドf区遺物出土状況 S=1/60



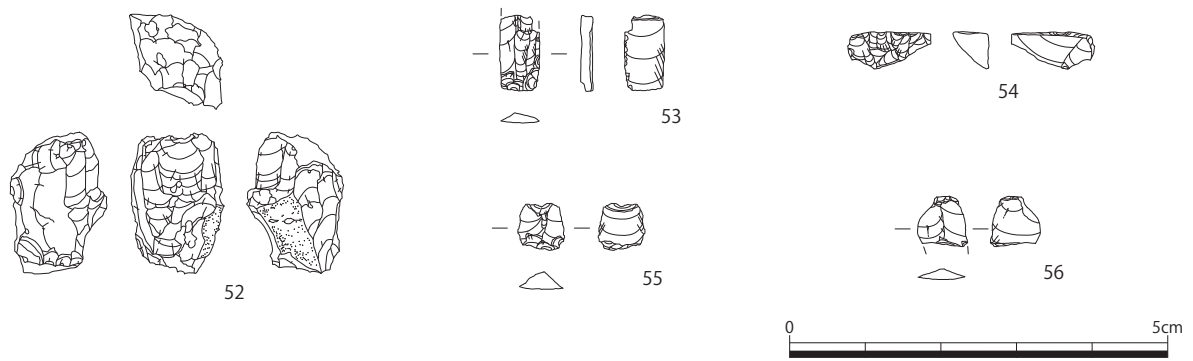
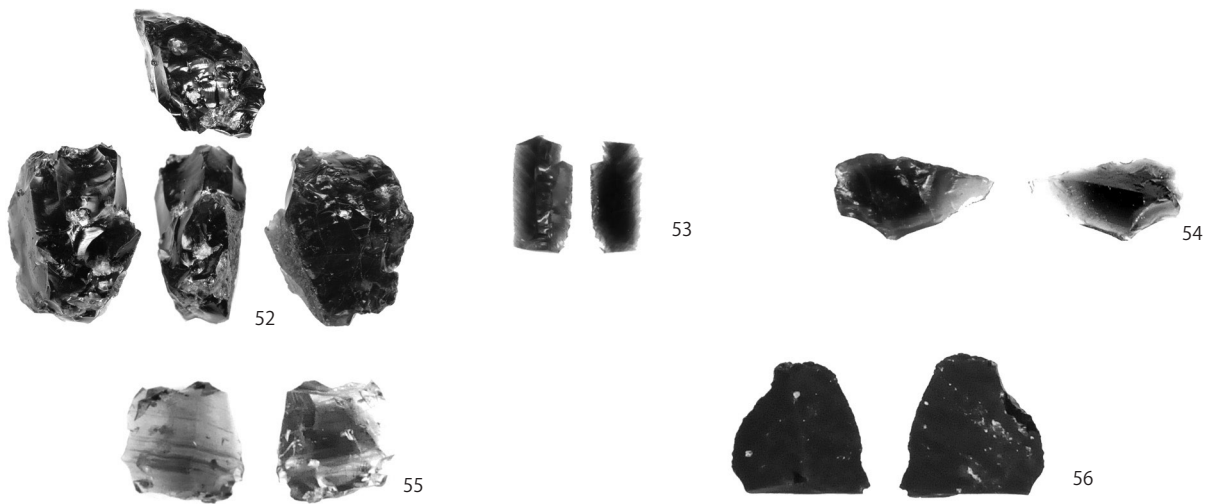


Fig.44 6層出土遺物 S=1/1



PL.26 6層出土遺物



1 細石刃 (No.53) 出土状況: j区・6b層



2 剥片 (No.54) 出土状況: f区・6c層

PL.27 6層遺物出土状況

Tab.1 遺構一覧(1) SD：溝状遺構、SK：土坑状遺構

遺構名	種類	検出面	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	埋土	備考
SD1	溝	2層上面	1580+ $\alpha$	78	48	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく柔らかい	出土遺物No.25
SD3	溝	2層上面	220	50	20	10YR3/2黒褐色土と10YR3/3暗褐色土が混じる	
SD4	溝	2層上面	260	45	5	10YR3/2黒褐色土と10YR3/3暗褐色土が混じる	
SD5	溝	2層上面	140+ $\alpha$	60	10	10YR3/2黒褐色土と10YR3/3暗褐色土が混じる	
SD7	溝	2層上面	160	45	13	7.5YR3/2黒褐色シルト、しまりはよい	
SD8	溝	2層上面	230+ $\alpha$	40	40	7.5YR3/2～10YR3/2黒褐色シルト、しまりはよい、1～5mmの火山灰粒子混じる	
SD9	溝	2層上面	200+ $\alpha$	48	51	7.5YR3/3暗褐色シルト、若干パミスを含む	
SD11	溝	2層上面	330	45	23	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かい、パミスを含む	
SK1	土坑	2層上面	64	60	12	7.5YR3/1黒褐色シルト、粒子が細かい	
SD2	溝	3層上面	128	30	18	10YR3/2黒褐色土と10YR3/3暗褐色土が混じる	
SD6	溝	3層上面	230	50	12	10YR3/2黒褐色土と10YR3/3暗褐色土が混じる	
SD10	溝	3層上面	167+ $\alpha$	56	15	7.5YR3/2黒褐色シルト、柔らかい	
SD12	溝	3層上面	520+ $\alpha$	50	12	7.5YR3/2黒褐色シルト、柔らかい	
SD13	溝	3層上面	424+ $\alpha$	90	20	10YR3/2黒褐色シルト、粘性若干有り、パミスを含む	
SD14	溝	3層上面	1700+ $\alpha$	130	28	10YR2/1黒色シルト、しまりがよい、粘性有り	
SD15	溝	3層上面	306	30	9	10YR3/2黒褐色シルト、粘性若干有り、パミスを含む	
SD16	溝	3層上面	197	94	64	10YR3/2黒褐色、粘性若干有り、パミスを含む	
SD17	溝	3層上面	156+ $\alpha$	121	13	10YR3/2黒褐色、粘性若干有り、パミスを含む	
SK2	土坑	3層上面	78	77	10	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かい	
SK3	土坑	3層上面	53	50	9	10YR3/3暗褐色シルト質砂、しまりが弱い	
(SK4)	攪乱	3層上面	—	—	—	—	欠番
SK5	土坑	3層上面	64	42+ $\alpha$	36	7.5YR3/2黒褐色シルト、しまりがよい	
(SK6)	攪乱	3層上面	—	—	—	—	欠番
SK7	土坑	3層上面	157	47	27	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かい	
SK8	土坑	3層上面	92	48	37	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かい	
SK9	土坑	3層上面	97	80	23	10YR2/1黒色シルト、粘性若干有り、しまりがよい	
SK10	土坑	3層上面	155	98	96	10YR2/1黒色シルト、粘性若干有り、しまりがよい	
SK11	土坑	3層上面	151	118	73	10YR2/1黒色シルト、粘性若干有り、しまりがよい	
SK12	土坑	3層上面	107	64	21	10YR2/1黒色シルト、粘性若干有り、しまりがよい	
SK13	土坑	3層上面	124	121	28	M1：10YR3/2黒褐色シルト M2：10YR2/1黒色シルト、柔らかい M3：7.5YR3/1黒褐色、若干パミスを含む	
SK14	土坑	3層上面	68	53	46	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かい	
SK15	土坑	3層上面	84	61	30	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かい	
SK16	土坑	3層上面	52	37	26	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かい	
SK17	土坑	3層上面	55	27	17	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かい	
SK18	土坑	3層上面	101+ $\alpha$	48	38	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かい	
SK19	土坑	3層上面	127	46	41	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かい	
SK20	土坑	3層上面	173	57	34	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かい	
SK21	土坑	3層上面	72	48	68	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かい	
SK22	土坑	3層上面	62	39	15	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かい	
SK23	土坑	3層上面	85	54	32	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かい	
SK24	土坑	3層上面	70	63	24	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かい	
SK25	土坑	3層上面	58	42	23	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かい	
SK26	土坑	3層上面	108	66	18	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かい	
SK27	土坑	3層上面	53	37	20	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かい	
SK28	土坑	3層上面	70	44	21	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かい	
SK29	土坑	3層上面	120	50	19	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かい	
SK30	土坑	3層上面	62	53	18	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かい	
SK31	土坑	3層上面	66	48	46	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かい	
SK32	土坑	3層上面	70	48	16	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かい	
SK33	土坑	3層上面	76	36	26	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かい	
SK34	土坑	3層上面	64	33	12	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かい	
SK35	土坑	3層上面	124	79	48	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かい	
SK36	土坑	3層上面	90	52	49	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かい	
SK37	土坑	3層上面	94	46	31	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かい	
SK38	土坑	3層上面	83	71	17	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かい	
SK39	土坑	3層上面	58	40	56	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かい	
SK40	土坑	3層上面	54	52+ $\alpha$	30	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かい	
SK41	土坑	3層上面	75	60	33	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かい	
SK42	土坑	3層上面	58	43	15	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かい	
SK43	土坑	3層上面	57	37	24	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かい	
SK44	土坑	3層上面	52	37	18	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かい	
SK45	土坑	3層上面	59	33	19	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かい	
SK46	土坑	3層上面	103	71	39	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かい	
SK47	土坑	3層上面	78	46	41	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かい	
SK48	土坑	3層上面	86	64	34	10YR2/1黒褐色シルト質砂に10YR3/3暗褐色シルトが混じる	
SK49	土坑	3層上面	119+ $\alpha$	96+ $\alpha$	21	10YR2/1黒色シルト、粘性若干有り、しまりがよい	
SK50	土坑	3層上面	123	101	48	M1：10YR2/1黒色シルト、粘性若干有り、しまりがよい M2：10YR3/2黒褐色シルト、パミスを含む	

計測値+ $\alpha$ ：当該遺構が調査区外へと続く場合表記

Tab.2 遺構一覧 (2) SK: 土坑状遺構

遺構名	種類	検出面	長さ (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	埋土	備考
SK51	土坑	3層中	295	250	50	M1: 10YR3/3暗褐色シルト, やや柔らかい, パミスを含む。 M2: 10YR3/2黒褐色シルト, パミスを含む。 M3: 10YR4/3にぶい黄褐色シルト, やや柔らかい, パミスや少量の砂や小礫を含む。 M4: 10YR2/3黒褐色シルト, やや堅い, パミスや細かい白砂を含む。	
SK52	土坑	5層上面	115	100	29	7.5YR3/1黒褐色シルト, 粒子が細かい	
SK53	土坑	5層上面	51	48	30	3・4層の混土 (10YR4/3にぶい黄褐色・10YR2/2黒褐色)	
SK54	土坑	5層上面	78	54	16	3・4層の混土 (10YR4/3にぶい黄褐色・10YR2/2黒褐色)	
SK55	土坑	5層上面	248	115	29	3・4層の混土 (10YR4/3にぶい黄褐色・10YR2/2黒褐色)	
SK56	土坑	5層上面	136	55	18	3・4層の混土 (10YR4/3にぶい黄褐色・10YR2/2黒褐色)	
SK57	土坑	5層上面	137	97	23	7.5YR3/1黒褐色シルト, 粒子が細かい	
SK58	土坑	5層上面	189	102	23	7.5YR3/1黒褐色シルト, 粒子が細かい	
SK59	土坑	5層上面	66	36	36	7.5YR3/1黒褐色シルト, 粒子が細かい	
SK60	土坑	5層上面	51	46	34	7.5YR3/1黒褐色シルト, 粒子が細かい	
SK61	—	5層上面	—	—	—	—	欠番
SK62	土坑	5層上面	55	38	19	10YR3/2黒褐色シルト, 粒子が細かい	
SK63	土坑	5層上面	39	29	19	10YR3/2黒褐色シルト, 粒子が細かい	
SK64	土坑	5層上面	91	63+ $\alpha$	32	10YR3/2黒褐色シルト, 粒子が細かい	
SK65	土坑	5層上面	99	55+ $\alpha$	23	10YR3/2黒褐色シルト, 粒子が細かい	
SK66	土坑	5層上面	58	34	16	10YR3/2黒褐色シルト, 粒子が細かい	
SK67	土坑	5層上面	49	34	19	10YR3/2黒褐色シルト, 粒子が細かい	
SK68	土坑	5層上面	78	53	27	10YR3/2黒褐色シルト, 粒子が細かい	
SK69	土坑	5層上面	89	73	10	10YR4/2灰黄褐色土, パミスを含む, シルト・粗砂が混じる	
SK70	土坑	5層上面	40	38	28	10YR4/2灰黄褐色土, パミスを含む, シルト・粗砂が混じる	
SK71	土坑	5層上面	51	41	20	10YR4/2灰黄褐色土, パミスを含む, シルト・粗砂が混じる	
SK72	土坑	5層上面	128	89	19	10YR4/2灰黄褐色土, パミスを含む, シルト・粗砂が混じる	
SK73	土坑	5層上面	96	58	27	10YR4/2灰黄褐色土, パミスを含む, シルト・粗砂が混じる	
SK74	土坑	5層上面	47	40	16	10YR4/2灰黄褐色土, パミスを含む, シルト・粗砂が混じる	
SK75	土坑	5層上面	83	44	24	10YR4/2灰黄褐色土, パミスを含む, シルト・粗砂が混じる	
SK76	土坑	5層上面	61	40	13	10YR4/2灰黄褐色土, パミスを含む, シルト・粗砂が混じる	
SK77	土坑	5層上面	45	44	13	10YR4/2灰黄褐色土, パミスを含む, シルト・粗砂が混じる	
SK78	土坑	5層上面	53	38	26	10YR4/2灰黄褐色土, パミスを含む, シルト・粗砂が混じる	
SK79	土坑	5層上面	51	44	24	10YR4/2灰黄褐色土, パミスを含む, シルト・粗砂が混じる	
SK80	土坑	5層上面	106	105	60	10YR4/2灰黄褐色土, パミスを含む, シルト・粗砂が混じる	

計測値 +  $\alpha$ : 当該遺構が調査区外へと続く場合表記

Tab.3 遺構一覧 (3) P:ピット

遺構名	種類	検出面	長さ(cm)	幅 (cm)	深さ(cm)	埋土	備考
P1	ピット	3層上面	50	34	11	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P2	ピット	3層上面	31	27	29	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P3	ピット	3層上面	27	22	22	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P4	ピット	3層上面	41	38	7	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P5	ピット	3層上面	39	33	4	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P6	ピット	3層上面	36	26	8	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P7	ピット	3層上面	42	26	18	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P8	ピット	3層上面	53	30	9	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P9	ピット	3層上面	45	33	13	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P10	ピット	3層上面	51	47	44	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P11	ピット	3層上面	35	33	38	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P12	ピット	3層上面	33	30	57	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P13	ピット	3層上面	24	23	13	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P14	ピット	3層上面	40	27	106	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P15	ピット	3層上面	30	24	56	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P16	ピット	3層上面	30	20	49	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P17	ピット	3層上面	44	36	44	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P18	ピット	3層上面	37	37	30	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P19	ピット	3層上面	43	34	17	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P20	ピット	3層上面	28	22	10	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P21	ピット	3層上面	39	31	8	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P22	ピット	3層上面	50	37	13	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P23	ピット	3層上面	43	35	18	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P24	ピット	3層上面	44	37	10	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P25	ピット	3層上面	81	48	70	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P26	ピット	3層上面	23	23	28	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P27	ピット	3層上面	31	28	16	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P28	ピット	3層上面	54	41	28	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P29	ピット	3層上面	53	50	23	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P30	ピット	3層上面	40	31	35	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P31	ピット	3層上面	32	29	32	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P32	ピット	3層上面	37	31	20	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P33	ピット	3層上面	39	36	36	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P34	ピット	3層上面	33	29	9	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P35	ピット	3層上面	35	31	10	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P36	ピット	3層上面	30	23	29	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P37	ピット	3層上面	30	26	16	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P38	ピット	3層上面	40	39	17	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P39	ピット	3層上面	42	38	14	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P40	ピット	3層上面	57	40	19	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P41	ピット	3層上面	44	43	11	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P42	ピット	3層上面	27	26	7	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P43	ピット	3層上面	42	38	20	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P44	ピット	3層上面	37	34	21	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P45	ピット	3層上面	37	29	7	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P46	ピット	3層上面	38	32	11	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P47	ピット	3層上面	28	24	8	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P48	ピット	3層上面	59	40	59	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P49	ピット	3層上面	45	34	10	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P50	ピット	3層上面	44	31	62	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P51	ピット	SK51埋土上面	22	16	—	10YR3/2黒褐色シルト、粒子が細かく、	やや柔らかい
P52	ピット	3層上面	31	30	41	10YR3/3暗褐色シルト、	柔らかい
P53	ピット	3層上面	25	23	18	10YR3/3暗褐色シルト、	柔らかい
P54	ピット	3層上面	57	42	31	10YR3/3暗褐色シルト、	柔らかい
P55	ピット	5層上面	40	30	14	10YR2/2黒褐色シルト、	やや堅い
P56	ピット	5層上面	27	23	14	10YR2/2黒褐色シルト、	やや堅い
P57	ピット	5層上面	23	21	4	10YR2/2黒褐色シルト、	やや堅い
P58	ピット	5層上面	36	26	34	10YR2/2黒褐色シルト、	やや堅い
P59	ピット	5層上面	37	26	14	3・4層の混土（10YR4/3にぶい黄褐色・10YR2/2黒褐色）	
P60	ピット	5層上面	21	17	42	10YR2/2黒褐色シルト、	やや堅い
P61	ピット	5層上面	34	26	17	3・4層の混土（10YR4/3にぶい黄褐色・10YR2/2黒褐色）	
P62	ピット	5層上面	44	44	10	10YR2/2黒褐色シルト質砂、	やや堅い
P63	ピット	5層上面	26	25	16	7.5YR5/6明褐色シルト質砂	
P64	ピット	5層上面	33	25	5	10YR2/2黒褐色シルト、	やや堅い
P65	ピット	5層上面	22	19	18	3・4層の混土（10YR4/3にぶい黄褐色・10YR2/2黒褐色）	
P66	ピット	5層上面	36	32	21	7.5YR5/6明褐色シルト質砂	
P67	ピット	5層上面	29	29	14	3・4層の混土（10YR4/3にぶい黄褐色・10YR2/2黒褐色）	
P68	ピット	5層上面	32	31	30	3・4層の混土（10YR4/3にぶい黄褐色・10YR2/2黒褐色）	



Tab.4 土器・陶磁器観察表 (1)

Fig	No.	種別	器種	部位	出土区	層位	色調	胎土	調整	備考
13	1	土製品	不明	不明	表採	—	外面: 10YR7/3 (にぶい黄橙) 内面: 10YR8/4 (浅黄橙)	角閃石, 赤・白色粒子を含み, きめ細かい	外面: ケズリ(—), ナデ(—)(\) 内面: ナデ(—)(/)( )	内面: しぼり痕有り
	2	土師器	甕	口縁部	表採	—	外面: 5YR5/4 (にぶい赤褐) 内面: 7.5YR6/4 (にぶい橙)	角閃石, 赤・白・黒色粒子を含み, ややきめ細かい	外面: 回転ナデ(—), ナデ(—) 内面: ケズリ(/)	—
	4	土製品	泥人形?	不明	C1	1b	内外面: 10YR6/3 (にぶい黄橙)	赤・白色粒子を含み, きめ細かい	外面: ナデ(—)(/)(\) 内面: ナデ(—)	内面: 爪痕?
	5	土師質	焙烙	口縁部	E2	1b	内外面: 10YR8/3 (浅黄橙)	透明粒子を含み, きめ細かい	内外面: ナデ(—)	—
	6	銭貨	寛永通宝	完形	A2	1b	—	—	—	径: 2.4cm, 孔径: 0.6cm, 重: 3.0g
	7	染付	碗	底部	D2	1b	釉調: 10YR8/1 (灰白)の透明釉	胎土: 灰白色	見込に蛇の目釉剥ぎ, 外面: 呉須による施文	焼成不良の結果釉白濁, 薩摩磁器, 19C 底径 (4.4)cm
	8	染付	碗	底部	C1	1b	釉調: 透明釉	胎土: 白色	高台登付無釉, 外面: 呉須による施文 ・圈線	肥前?, 18C頃 底径 (3.8)cm
	9	染付	小碗	底部	D2	1b	釉調: 透明釉	胎土: 白色	内外面: 施釉, 呉須による施文 ・圈線	肥前, 年代不明 底径 (3.8)cm
	10	染付	皿	胴部	B1	1b	釉調: 透明釉	胎土: 白色	内外面: 施釉, 呉須による施文	肥前, 18C?
	11	陶器	碗	口縁部	C1	1b	釉調: 透明釉	胎土: 2.5Y8/2 (灰白), 黒色粒子を多く含む	内外面: 施釉	白薩摩焼, 商売焼き? (素地悪い), 近世
	12	陶器	小皿	口縁部	D1	1b	釉調: 5Y6/2 (灰オリーブ)釉	胎土: 5Y7/1 (灰白)	回転ナデ, 内外面: 施釉	加治木・始良系, 年代不明
	13	陶器	甕	胴部	C1	1b	釉調: 7.5YR3/1 (黒褐)釉	胎土: 10YR5/1 (褐灰)	内外面: 施釉, 外面突帯有り	苗代川系, 17C代
14	14	陶器	播鉢	口縁部	G2	1b	釉調: 5Y3/2 (オリーブ黒)釉	胎土: 10YR5/1 (褐灰)	回転ナデ, 口縁部上面 のみ無釉(カキトリ)	苗代川系, 18C後半以降 口径 (22.8)cm
	15	陶器	甕 or 壺	底部	D2	1b	釉調: 5Y3/1 (オリーブ黒)釉	胎土: 5YR4/2 (灰褐), N4/0 (灰)	内外面: 施釉	外面に貝目痕, 苗代川系, 18C
	16	青磁	碗	底部	A2	1b	釉調: 5Y6/3 (オリーブ黄)の 半透明釉	胎土: 7.5YR7/4 (にぶい橙)	高台内面のみ無釉	龍泉窯(14C半～15C半), 焼成不良, 底径 (5.2)cm 見込文様: スタンプ
	17	須恵器	大甕	胴部	F2	1b	外面: 5Y6/1 (灰) 内面: 5Y7/1 (灰白)	赤・白・黒色粒子を含み, きめ細かい	外面: 平行線文タタキ痕 内面: 同心円文当具痕	—
	18	土器	壺・鉢?	底部	B2	1b	外面: 7.5YR7/4 (にぶい橙) 内面: 7.5YR7/6 (橙)	石英, 長石, 赤・白色 粒子を含み, ややきめ細かい	外面: ナデ(—)( ) 内面: 不明瞭	—
	19	縄文	深鉢	口縁部	B2	1b	外面: 7.5YR6/4 (にぶい橙) 内面: 2.5Y6/2 (灰黄)	石英, 白・透明粒子を 含み, ややきめ細かい	外面: 工具ナデ( ), ナデ(—) 内面: ナデ(—)(/)(\)( )	—
	20	弥生	壺	肩部	H3	1b	外面: 10YR7/6 (橙) 内面: 10YR8/3 (浅黄橙)	石英, 長石, 赤・ 白・黒色粒子を含み, ややきめ細かい	外面: ミガキ(—), ナデ(—) 内面: 摩滅の為不明	三条の三角突帯有り, 弥生中期以降?
	21	縄文	深鉢	胴部	D2	1b	内外面: 7.5YR6/4 (にぶい橙)	石英, 長石, 輝石, 角閃石, 赤・白粒子 を含み, ややきめ細かい	外面: ナデ(/)(\) 内面: ケズリ(—)	手向山式: 縦位の山形文
	25	金属器	不明	口縁～底部?	SD1	埋1	外面: 2.5Y7/2 (灰黄) 内面: 10Y5/2 (オリーブ灰)	—	—	銅製品?(緑青有り), SD1(満)内出土 口径 (7.6)cm
	26	土師器	杯	底部	C1	2	内外面: 10YR8/3 (浅黄橙)	赤・白・黒色粒子を 含み, きめ細かい	内外面: 回転ナデ	底径 (5.6)cm

Tab.5 土器・陶磁器観察表(2)

Fig	No.	種別	器種	部位	出土区	層位	色調	胎土	調整	備考
18	27	弥生終末 ～ 古墳	甕 or 壺	胴部	A2	2	内外面: 10YR7/4 (にぶい橙)	石英、長石、角閃石、 輝石、赤・白・黒色 粒子を含み、 ややきめ細かい	外面: ハケ(ノ) 内面: 摩滅の為不明	中津野式頃か?
	28	弥生	小甕	口縁部	A2	2	内外面: 10YR6/4 (にぶい橙)	石英、長石、雲母、 白・黒色粒子を含み、 ややきめ細かい	内外面: ナデ(一)	山ノ口式
	29	土器	壺・鉢?	底部	F2	2	内外面: 10YR7/3 (にぶい黄橙)	石英、長石、輝石、 白・黒色粒子を含み、 ややきめ細かい	外面: ナデ(一)、 四条の沈線 内面: 摩滅の為不明	—
	30	縄文	深鉢	底部	B2	2	外面: 7.5YR5/4 (にぶい橙) 内面: 5YR6/6 (橙)	石英、長石、角閃石、 輝石、白色粒子を含 み、ややきめ細かい	外面: ナデ(一) 内面: 摩滅の為不明	晩期、底部圧痕有り、 外面に粘土貼付痕有り 底径 (11.8)cm
	31	縄文	深鉢	底部	B2	2	内外面: 7.5YR5/3 (にぶい橙)	石英、長石、輝石、 白・黒色粒子を含み、 ややきめ細かい	外面: ナデ(一)(ノ) 内面: 摩滅の為不明	晩期、底部圧痕有り 底径 (10.1)cm
	32	縄文	浅鉢	底部	B1	2	内外面: 10YR5/2 (灰黄褐)	石英、長石、角閃石、 輝石、赤・白・黒色 粒子を含み、 ややきめ細かい	外面: ミガキ(一)(ノ) 内面: 工具ナデ(一)、 ナデ(一)	晩期
	33	縄文	浅鉢	胴部	B1,C1	2	外面: 7.5YR5/3 (にぶい橙) 内面: 5YR6/6 (橙)	石英、長石、角閃石、 輝石、白・黒色粒子を 含み、ややきめ細かい	外面: ミガキ(一)(ノ)、 ナデ(一) 内面: 工具ナデ(一)	晩期、接合資料
	34	縄文	深鉢	口縁部	E2	3	外面: 10YR7/2 (にぶい黄橙) 内面: 5YR6/6 (橙)	石英、長石、角閃石、 赤・白・黒色粒子を 含み、ややきめ細かい	外面: ナデ(一)(ノ) 内面: ケズリ(一)(ノ)、 ナデ(一)	変形撫糸文、No.34・ 35・48・49同一固体か?
	35	縄文	深鉢	胴部	E2	3	外面: 10YR5/2 (灰黄褐) 内面: 10YR6/4 (にぶい黄橙)	石英、長石、角閃石、 赤・白・黒色粒子を 含み、ややきめ細かい	外面: ナデ(一)(ノ) 内面: ケズリ(一)	変形撫糸文、No.34・ 35・48・49同一固体か?
	36	縄文	深鉢	胴部	E2	3	外面: 10YR5/2 (灰黄褐) 内面: 10YR6/4 (にぶい黄橙)	石英、長石、角閃石、 赤・白・黒色粒子を 含み、ややきめ細かい	外面: ナデ(一)(ノ) 内面: ケズリ(一)	変形撫糸文、No.34・ 35・48・49同一固体か?
	49	縄文	深鉢	胴部	横転/H2	4	外面: 10YR5/2 (灰黄褐) 内面: 10YR6/4 (にぶい黄橙)	石英、長石、角閃石、 赤・白・黒色粒子を 含み、ややきめ細かい	外面: ナデ(一)(ノ) 内面: ケズリ(一)	変形撫糸文
	50	縄文	深鉢	胴部	横転/B2	4	外面: 10YR6/6 (橙) 内面: 7.5YR5/3 (にぶい橙)	石英、長石、角閃石、 輝石、白・黒色粒子を 含み、ややきめ細かい	外面: 貝殻条痕(一) 内面: ケズリ(一)	前平式
	51	縄文	深鉢	胴部	C1	4	外面: 7.5YR5/4 (にぶい橙) 内面: 5YR6/6 (橙)	石英、長石、角閃石、 輝石、白・黒色粒子を 含み、ややきめ細かい	外面: 貝殻条痕(一) 内面: 摩滅の為不明	前平式

Tab.6 石器観察表

Fig	No.	種別	器種	出土区	層位	サイズ(cm)			重量(g)	石材	備考
						最大長	最大幅	最大厚			
13	3	石器	剥片	G3	攪乱	4.4	2.1	0.9	5.8	玉髄	—
	22	石器	剥片	B1	1b	7	4.3	0.8	23.3	安山岩	使用痕有り?
14	23	石器	磨・敲石	H2	1b	9.8	9.2	5.1	760	安山岩	多孔質、1/3欠損
	24	石器	軽石製加工品	C1	1b	7.6	4.8	1.2	15.8	軽石	磨面あり
37	37	石器	打製石鏃	D2	3	1.9	1.4	0.35	0.5	黒曜石（上牛鼻産に類似）	両側縁に挟り、自然面残存
	38	石器	ドリル or 石鏃	G2	3	1	0.9	0.4	0.3	黒曜石（腰岳産に類似）	挟り有り
	39	石器	剥片	A2	3	5.7	3.4	0.9	15.4	安山岩	—
18	40	石器	敲石	D1、A2	3	9.1	8.8	6.3	540	安山岩	接合資料、被熱
	41	石器	砥石	D2	3	9	6.6	1.5	86.4	砂岩	四角形を呈し4面使用
42	42	石器	スクレイパー	横転/F2	3	6.6	5.4	1.3	55.6	黒曜石（三船産）	刃部潰れ有り
	43	石器	スクレイパー	横転/B2	3	9.1	4.6	1.3	60.9	黒曜石（上牛鼻産）	刃部潰れ有り
	44	石器	剥片	横転/G3	3	2.3	1.1	0.4	0.9	黒曜石（三船産）	—
30	45	石器	磨製石斧	横転/C1	3	4.4	5.1	2.1	49.3	流紋岩	先端部
	46	石器	磨・敲石	横転/G3	3	8.9	7.9	5	477	安山岩	—
47	47	石器	磨・敲石	OT20/B2	3	5.3	8.6	4.1	320	安山岩	1/2欠損、横転自体は5層検出
	48	石器	軽石製加工品	SK51	埋2	11.8	8.6	4.2	94.7	軽石	挟り有り、一部欠損、SK51(土坑)内出土
52	52	石器	細石刃核	f	6c	2	1.8	1	2.8	黒曜石（三船産）	打面転移
	53	石器	細石刃	j	6b	0.9	0.4	0.15	0.1	黒曜石（腰岳産）	頭・尾部折断
44	54	石器	剥片	f	6c	1.1	0.6	0.35	0.2	黒曜石（腰岳産）	打面再生剥片もしくは作業面再生剥片か
	55	石器	チップ	f	6a	0.6	0.6	0.3	0.1	黒曜石（桑ノ木津留産に類似）	—
56	56	石器	チップ	h	6a	0.6	0.6	0.2	0.1	黒曜石（上牛鼻産）	—

出土区アルファベット小文字：6層小グリッド名称

Tab.7 層別遺物出土数

時代	時期	種別	器種	表採・攪乱	1層	2層	3層	4層	6層	SD1	SD13	SD14	SK7	SK10	SK51	SK57	計
時期不明	-	土器	-		58	32	7	6		1		1	1	1	1		108
縄文	早期	土器	深鉢		1		3	3								1	7
	晩期	土器	深鉢		1	2											3
			浅鉢			2											2
	-	土器	深鉢								1						1
弥生	中期	弥生	壺		1												1
	中期後半	弥生	小甕			1											1
弥生～古墳	中津野式期?	-	甕or壺			1											1
古墳～古代	-	須恵器	大甕		1												1
古代～中世	-	土師器	坏		1	1											2
	-	土師器	甕	1													1
	14c半～15c半	青磁・龍泉窯系	碗		1												1
近世～近代	-	土師質	焙烙		1												1
	18c頃	肥前?	碗		1												1
	18c?	肥前	皿		1												1
	-	肥前	小碗		1												1
	17c代	苗代川系	甕		1												1
	18c	苗代川系	甕or壺		1												1
	18c後半以降	苗代川系	搦鉢		1												1
	19c	薩摩磁器	碗		1												1
	-	加治木・始良系	小皿		1												1
	-	白薩摩	碗		1												1
	-	磁器	-		6												6
	-	陶器	-		26					2							28
その他	土製品	-	-	1	1												2
	石製品・石	剥片	-	1	1		5		2								9
		磨石・敲石	-		1		2										3
		敲石	-				1										1
		軽石加工品	-		1										1		2
		スクレイパー	-				2										2
		磨製石斧	-				1										1
		打製石鏃	-				1										1
		ドリル or 打製石鏃	-				1										1
		砥石	-				1										1
		細石刃核	-						1								1
		細石刃	-						1								1
		チップ	-						2								2
	金属製品	金属器	口縁～底部?							1							1
		銭貨	寛永通宝		1												1



## 第V章 総括

今回の調査区は、脇田亀ヶ原遺跡のこれまでの調査地点で、最も崖側に位置している。その南側の試掘地点では、押形文土器や打製石鏃、磨石、龍泉窯系青磁などが出土し、遺物数は少ないながらも、崖側にも遺物包含層が存在することから知られていた（Fig.2：2007-3 地点）。今回の調査も、明確な遺構などは検出されなかったものの、遺物は小破片が一定量出土した。

2層上面から確認された遺構は、その形状から種イモを貯蔵するイモ穴とみられるものや溝状遺構などである。1層の遺物は、近世の遺物を中心に、中世、古代、古墳時代、弥生時代、縄文時代の遺物が確認されており、遺構は近世～現代のものと考えておきたい。

2層の遺物は土師器、弥生終末期～古墳時代、弥生時代中期後半、縄文時代晩期の土器が出土しており、2層が縄文時代晩期から古代にいたることが判明したことは重要である。3層上面で確認された遺構はこれらの時期に属すると考えられた。

3層上面の遺構では、崖側を横断する溝状遺構が検出されたが、遺物の出土もなく、性格は不明である。崖に続く可能性もあるので、排水機能を備えたものとも考えられたが、水の流れた形跡は確認できなかった。土坑についても性格は把握できていない。なお、3層掘り下げ中に、隅丸方形の土坑が確認された。一見住居跡にもみえるものの、埋土の状況、柱穴の有無、遺物の有無から性格を明らかにすることはできなかった。状況としてはアカホヤ火山灰中の検出でもあり、人為的遺構とは考えにくい。

3層は本来アカホヤ火山灰層であるが、標高の低い調査区では、二次堆積土となっており、遺物が多量に包含されることが多く、本調査区も同様である。3・4層の遺物として、これまで主体的に確認されていた縄文時代早期前半の前平式土器ではなく、脇田亀ヶ原遺跡では少ない縄文時代早期の変形撚糸文系土器が出土している。鹿兒島大学桜ヶ丘団地造成中に表採された資料のなかにはこれらが含まれており（Fig.2：G 地点）、これらの時代の遺跡が包蔵されている可能性が高い。また、石器類は土器群に比して豊富で、三船産黒曜石製のスクレイパー・剥片、上牛鼻産黒曜石とみられる打製石鏃、腰岳産黒曜石類似のドリルあるいは打製石鏃の一部、安山岩製の剥片や磨石・敲石、砂岩製の砥石などがある。4・5層上面で確認された遺構として、性格不明の土坑などがあるが、ほとんどがアカホヤ火山灰降灰後の倒木痕跡と考えられている層位横転部である。これらのなかに3・4層に帰属する遺物が含まれている状況である。

後期旧石器時代～縄文時代草創期の6層では、遺構は確認されなかった。遺物としては腰岳産黒曜石製の細石刃、フレイク、桑ノ木津留産黒曜石類似、上牛鼻産黒曜石のチップなどが確認されているが、特筆すべきはこれまで確認されていなかった三船産黒曜石の細石刃核の出土であろう。いまだ出土量の少なさはあるが、今後、この時期の石器製作跡も確認される可能性もあるだろう。

今回、これまでに行なってこなかった遺跡出土の礫群（3・4層）の分析を試みた。その結果は、そのほとんどが安山岩であり、亀割坂角礫層起源と考えられるということである<sup>1)</sup>。シラス台地の上まで運ばれてきたことが分かった。一部は集石遺構などでみられるような被熱した円礫もあるが、小さな角礫がほとんどであるため、その目的については、まだ明らかになったとは言えない。今後の調査に委ねたい。

調査は、鹿兒島大学埋蔵文化財調査センターではこれまでにない、民間業者間契約の調査を監督するものとなった。調査地点は崖すれすれの極めて危険な箇所であり、壁面は3m近くも切り立ち、6層のチョコ層になると、崖下へ向かう自然地形の凹部のために、足元がおぼつかなくなるような場所であった。それにもかかわらず調査中に怪我人もなく、予定期間内に無事調査終了することができたのは、(株)西日本地産、(株)植村組、新和技術コンサルタント(株)の弛まざる施工、安全対策の結果であった。記して感謝申し上げたい。

### 註

- 1) 鹿兒島大学名誉教授大木公彦氏のご教示による。

---

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター調査報告書 第10集

**脇田亀ヶ原遺跡  
桜ヶ丘団地B-4～6区ほか  
(桜ヶ丘ビュータウン造成工事)  
発掘調査報告**

2014年3月発行

監修 鹿児島大学埋蔵文化財調査センター  
鹿児島市郡元一丁目21-24  
TEL 099-285-7270

編集・発行 新和技術コンサルタント株式会社  
鹿児島市伊敷四丁目12番13号  
TEL 099-218-3633

印刷 渕上印刷株式会社  
鹿児島市南栄3-1-6  
TEL 099-268-1002

---